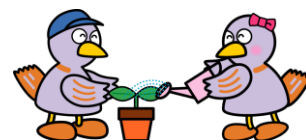




彩の国
埼玉県



埼玉県のマスコット
コバトン

研究報告書 第374号

持続可能な開発のための教育(ESD)の 実践に関する調査研究



江南支所と樺の木の紅葉

平成26年3月



埼玉県立総合教育センター
Saitama Prefectural Education Center

はじめに

国連総会で採択された「持続可能な開発のための教育の10年」は2005年から始まり、今年その最終年を迎える。文部科学省ホームページ内の日本ユネスコ国内委員会『「持続可能な開発のための教育の10年」の更なる推進に向けたユネスコへの提言」の中で、「持続可能な開発のための10年は、持続可能な開発を実現する具体的な行動の大きな一歩を踏み出すものでなければならない。何故なら、持続可能な開発に関わる問題については、すでにかなり前から警告が発せられ、議論が重ねられ、我々人類にとって深刻かつ緊急な課題であるという共通の理解が得られているにもかかわらず、その解決のための実際の行動は遅い。」と述べられている。

我が国においては、「持続可能な開発のための教育の10年」間に、未曾有の被害をもたらした東日本大震災を経て、「ESD実施計画」が平成23年6月に改訂が行われた。当センターでは、この「ESD実施計画」を踏まえ、学校教育におけるESDの取組について普及啓発に取り組んでいる。

本研究は、その取組の一環として、ESDの視点を取り入れた学習指導の在り方を追求したものである。

埼玉県立総合教育センター

研究報告書 第374号

持続可能な開発のための教育（ESD）の実践に関する調査研究

目 次

はじめに

（目 次）

第1章	本年度の研究について……………	1
1	研究の目的	
2	研究の内容	
	（1）県内市町村教育委員会及び小・中学校におけるESDの取組について	
	（2）教科等におけるESDの視点を入れた実践事例の作成とその教育的効果	
3	研究の方法	
第2章	県内市町村教育委員会及び小・中学校におけるESDの取組について……………	2
1	調査の目的	
2	調査項目について	
3	調査結果	5
	（1）アンケートの回収状況及び事例回答数	
	（2）教育委員会及び他課の取組について	
	（3）小・中学校における優れた特色ある取組	
	（4）まとめ	
4	今後のESDの推進について	7
第3章	教科等におけるESDの視点を入れた実践事例の作成とその教育的効果……………	9
1	ESDの視点に立った学習指導の目標について	
2	持続可能な社会づくりの構成概念について	11
3	ESDで重視する能力・態度について	12
4	指導事例	
	（1）小学校指導事例	14
	①外国語活動：英語ノート1 Lesson9「What Would you like」（5年生）	23
	②音楽：「和音の美しさを味わおう」（5年生）	30
	③体育：「けがの防止」（5年生）	40
	④総合的な学習の時間：「エネルギーについて考えよう」（4年生）	
	（2）中学校指導事例	49
	①英語：Sunshine English Course 1「PROGURAM 8 Origami」（1年生）	56
	②音楽：「曲の雰囲気を感じ取ろう」（1年生）	61
	③美術：「メッセージとしての美術」（3年生）	69
	④道徳：彩の国の道徳（中学校）自分を見つめて「命のタスキ」（1年生）	
第4章	研究のまとめ……………	78
終わりに……………		82
	「持続可能な開発のための教育（ESD）の実践に関する調査研究」協力者名簿	
	研究協力委員会実施報告	
	引用および参考文献等一覧	

資料

- ①学習指導要領とESDに関する内容の抜粋
- ②環境省 新学習指導要領準拠 授業に生かす環境教育 ひとめでわかる学年別・教科別ガイド
- ③アンケート調査結果一覧

第1章 本年度の調査研究について

1 研究の目的

「国連持続可能な開発のための教育（E S D）の10年」が本年を残すのみとなった今でも、県内小・中学校の教員のE S Dの理解度は低い状況がある。

当センターでは、平成20年度からE S Dに関する調査研究を行い、その成果を広く公開しE S Dの普及啓発を進めてきたが、さらに、学校におけるE S Dの啓発活動を一層推進する必要がある。特に、持続可能な社会づくりのための価値観を育むことにおいて義務教育段階での実践が極めて重要である。

本調査研究では、昨年度取り組んだ実践事例の作成を受け、普段の教育活動におけるE S Dの視点の取り入れ方を検討し、昨年度示した教科等以外の実践事例の作成を行うとともに作成した事例の教育的効果を検証する。さらに、さいたま市を除く県内すべての市町村教育委員会に対しアンケート調査を実施し、市町村におけるE S Dの取組状況を調べ、データベース化を図るとともに、今後のE S D推進に関する課題と方向性を検討する。

2 研究の内容

（1）県内市町村教育委員会及び小・中学校におけるE S Dの取組に関する調査

さいたま市を除く県内すべての市町村教育委員会に対し、各教育委員会のE S Dの取組状況及び各教育委員会管内の小・中学校における特色あるE S Dの取組をアンケート調査し、県内におけるE S Dの推進状況の実態把握を行い、今後のE S Dの推進に係る課題を明らかにするとともに課題解決策を提案する。また、E S Dの優れた実践をしている小・中学校の取組内容のデータベース化を行う。

（2）教科等におけるE S Dの視点を入れた指導事例の作成とその教育的効果の検証

昨年度の調査研究で作成されなかった教科等を中心に、新たなE S Dの視点を取り入れた学習指導事例を作成するとともに、その事例を調査研究協力委員に自校で実践していただき、その効果の検証を行う。検証結果をもとに学習指導における課題の明確化とその課題の解決に向けた指導法の検討を行う。

3 研究の方法

調査研究事業の実施期間は平成25年度の1か年とし、指導者1名（埼玉大学名誉教授・埼玉県環境科学国際センター総長）、県内各教育事務所管内の小・中学校教諭各1名ずつ（小学校教諭4名、中学校教諭4名）、合計8名を研究協力委員として依頼し、調査研究を行った。

（1）指導者による講義

講義題目「これからの環境教育に必要な視点」

（2）県内市町村教育委員会及び小・中学校におけるE S Dの取組に関する調査

教科等におけるE S Dの視点を入れた指導事例の作成とその教育的効果の検証

第2章 県内市町村教育委員会及び小中学校におけるE S Dの取組に関する調査

1 調査の目的

埼玉県は平成25年度指導の重点・努力点「指導の重点の環境教育では「持続可能な循環型社会の実現のため、環境を守ろうとする心と態度の育成」が重点として掲げられ、持続可能な開発のための教育（E S D）の視点が盛り込まれている。

しかし、E S Dという言葉の理解不足や実施への負担感があるのが現状である。このような中、平成26年は「国連持続可能な開発のための教育（E S D）の10年」の最終年となる。

そこで、さいたま市を除く県内市町村教育委員会において環境教育、E S Dがどのように進められているのか、また、県内の小・中学校で行われている優れた取組を調査することで、県内における環境教育、E S Dの実施状況を把握し、これからの課題と課題を解決するための方向性を見いだすとともに、優れた取組事例のデータベース化を行い、広く県内に紹介することを目的として調査を実施した。

2 調査の項目について

「我が国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画（平成23年6月3日改定）**4. E S Dの推進方針**」の中で、E S Dの教育現場での認知度の低さを背景に、地方公共団体、教育委員会、学校等に対して以下のことが求められている。

- 教育関係者へのE S Dの視点を取り入れた研修機会の拡大
- 各教科、総合的な学習の時間、課外活動など学校教育活動全体を通じての推進
- 異校種間や地域社会等との連携
- 多様な体験活動の促進
- 学校設備を環境に配慮したものとし、教育に活用
- 地域に根ざしたプログラム策定

これを念頭に、下記の調査項目を設定し、自由な記述方式で調査を実施した。

- ①各教育委員会の指導の下、管内小・中学校で共通して行っているE S Dに関する取組があるか。
 - ア 管内すべての小学校で共通して行っている取組
 - イ 管内すべての中学校で共通して行っている取組
 - ウ 管内すべての小・中学校で共通して行っている取組
- ②各市町村で教育委員会以外の課等で行っている取組があるか
- ③各教育委員会管内の小・中学校で独自に取り組んでいる優れた取組があるか

県立総合教育センター調査研究「持続可能な開発のための教育（ESD）の実践に関する調査研究」に関するアンケート

市町村名 _____

回答者 職・氏名 _____

貴教育委員会及び市町村における、ESDの取組について、以下の質問にお答えください。なお、記載内容につきましては、環境教育を中心をお願いいたします。

- 1 貴教育委員会の指導の下、管内小・中学校で共通して行っているESDに関する取組がございましたらお書きください。

校 種	具 体 的 な 取 組 内 容
管内すべての 小学校で共通 した取組	
管内すべての 中学校で共通 した取組	
管内すべての 小・中学校で 共通した取組	

- 2 貴市町村の教育委員会以外の課等（環境対策課等）で行っている、学校を対象にしたESDに関する事業がございましたらお書きください。

--

※ESDの取組において、環境教育以外でも特色ある取組がございましたら御記入下さい。

- 3 貴教育委員会管内の小・中学校で、学校独自に取り組んでいる優れたE S Dの取組がございましたら、御紹介ください。

学 校 名		教科等		実施時数(概数)	
題材・単元等					
取組内容					
学 校 名		教科等		実施時数(概数)	
題材・単元等					
取組内容					
学 校 名		教科等		実施時数(概数)	
題材・単元等					
取組内容					
学 校 名		教科等		実施時数(概数)	
題材・単元等					
取組内容					

送付先 県立総合教育センター江南支所 農業教育・環境教育推進担当
FAX : 0 4 8 - 5 3 6 - 1 7 1 0

3 調査結果

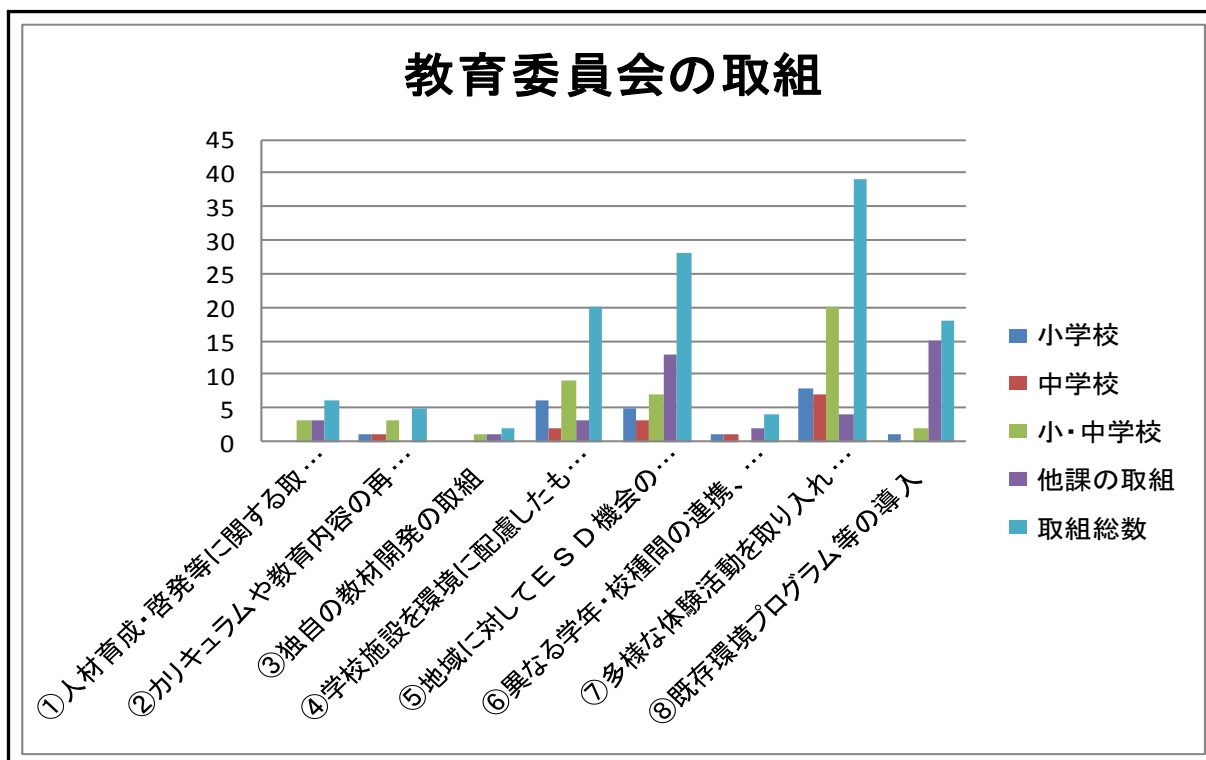
(1) アンケートの回収状況及び事例等回答数

	回答教育 委員会数	教育委員会の取組事例数			他課の事業に 取り組んでいる 市町村数	ESDに関する 取組をしている 市町村数
		小学校	中学校	小・中学 校共通		
回答数	58	16	11	29	26	37
回答率	93.5%	27.6%	19.0%	50.0%	44.8%	63.8%

(2) 教育委員会及び他課の取組について

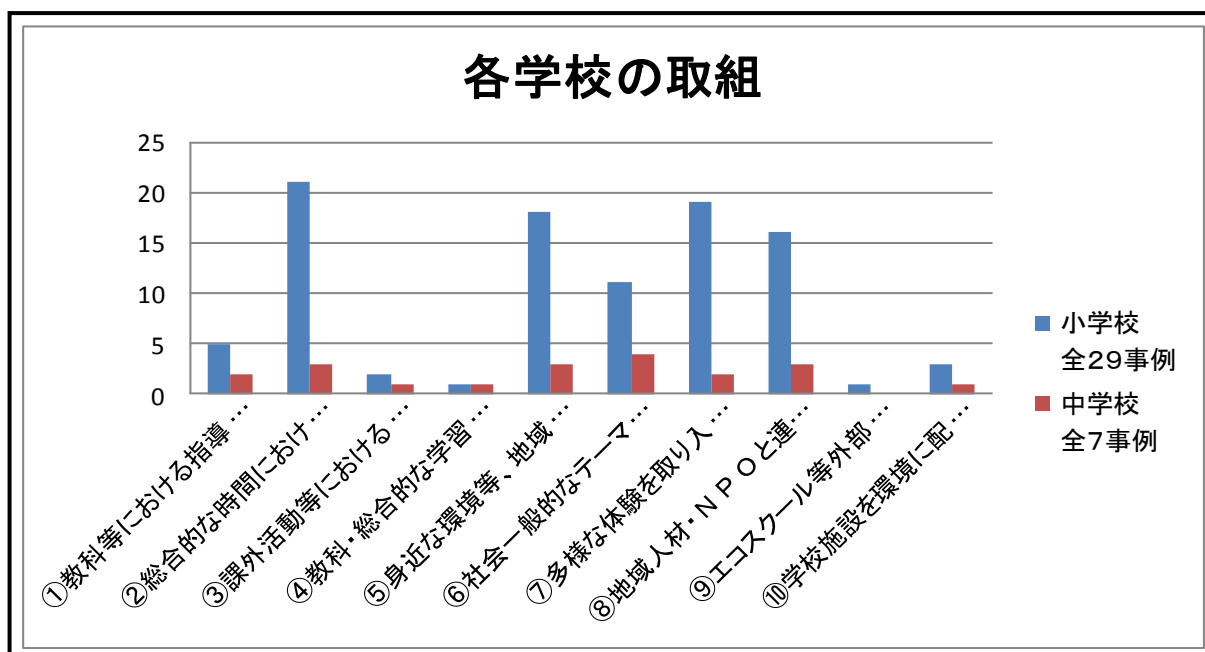
地方公共団体 教育委員会の取組	教育委員会			他課の取組
	小学校	中学校	小・中学校	
①人材育成・啓発等に関する取組事例数	0	0	3	3
②カリキュラムや教育内容の再構築	1	1	3	0
③独自の教材開発の取組	0	0	1	1
④学校施設を環境に配慮したものとする取組	6	2	9	3
⑤地域に対してESD機会の提供、地域に根ざしたプログラム策定	5	3	7	13
⑥異なる学年・校種間の連携、地域社会との連携に配慮した総合的な取組	1	1	0	2
⑦多様な体験活動を取り入れた取組	8	7	20	4
⑧既存環境プログラム等の導入	1	0	2	15

※市町村教委によっては複数の取組を記載していただいているため、回答市町村教育委員会数とは一致しない



(3) 小・中学校における優れた特色ある取組

各学校の取組		小学校 全29事例	中学校 全7事例
指導の場	①教科等における指導事例	5	2
	②総合的な時間における取組事例	21	3
	③課外活動等における取組事例	2	1
	④教科・総合的な学習の時間・課外活動等の教育活動全体を通じた取組	1	1
学習テーマ	⑤身近な環境等、地域の特性を生かした取組	18	3
	⑥社会一般的なテーマでの取組	11	4
指導方法	⑦多様な体験を取り入れた取組	19	2
	⑧地域人材・NPOと連携した取組	16	3
	⑨エコスクール等外部組織のプログラムを活用した取組	1	0
その他	⑩学校施設を環境に配慮したものにする取組	3	1



(4) まとめ

【教育委員会の取組】について

- 独自の教材開発や環境教育プログラム（キッズISO等）を取り入れている取組がある。
- 地域の特色を生かし、地域に根ざした取組が多い。
- グリーンカーテンなど環境に配慮した学校づくりや、体験活動を重視した取組数が多い。
- ESDで重視する多様な体験活動の取組が多い。
- 60%以上の市町村でESD、環境教育・ESDに関する取組を行っている。
- 40%以上の市町村が教育委員会以外でも環境教育・ESD関連の取組を行っている。
- 人材育成に資する研修の機会が少ない。
- ESDにおける異学年・異校種との連携を推進している取組が少ない。

【学校の取組】について

- 学習のテーマでは一般的なテーマ設定より児童生徒にとって身近な題材を取り上げた取組が多い。
- 地域の教育力や NPO などとの連携を図っている取組が多い。
- 多様な体験を取り入れた取組が多い。
- 優れた取組の多くは総合的な学習の時間での取組が多い。
- 各教科、総合的な学習の時間、課外活動等の教育活動全体を通した取組は少ない。
- 優れた取組として紹介された事例の多くは小学校である。

4 今後の E S D の推進について

平成 23 年度における県内小・中学校に対する調査において、E S D の認知度は小学校で約 17 %、中学校においては約 12 % と低い認知度であることが分かっている。平成 23 年 6 月に改定された関係省庁連絡会議による「我が国における『国連 E S D の 10 年』実施計画」でも、教育現場においてほとんど認知されていない現状が報告されており、普及啓発の重要性が述べられている。今回の調査では、人材育成、啓発等に関する取組事例が、教育委員会の取組として 3 例、教育委員会以外他課の取組として 3 例が回答されている。このうち、教職員への研修は 1 事例であり、指導者の人材育成について取組が充実している状況ではないことが読み取れる。そこで、**人材育成・啓発研修の実施や既存の研修に E S D の視点を取り入れる等の工夫により、E S D についての研修機会を増やすことが求められる。**

また、今回の調査結果では、回答した 58 市町村中 37 市町村、約 64 % の市町村で環境教育、E S D の取組をしており、このうち約 70 %（全体の約 45 %）の市町村で教育委員会以外他課でも環境教育関連の事業に取り組んでいる。

教育委員会以外の取組では、エコライフ DAY や各種の自然体験事業、市町を挙げての環境推進大会や清掃活動、さらには教職員への研修などがみられる。教育の場を超え、家庭、地域を取り込んだ取組が行われ、環境問題への地域の意識、関心の高まりを感じることができる。こうした**体験を通して、身近な地域での課題に視点を向けた取組は、E S D で求める「地域・家庭とのつながり」を重視する E S D の推進上の課題の解決に向けた重要な取組であり、学校はこれらの機会を積極的にとらえ連携していくことが求められる。**

教育委員会の取組として特筆すべきは環境教育プログラム（キッズ ISO 等）などを入れている教育委員会が複数見られたことである。環境教育プログラムの導入には費用がかかるものの、E S D を効果的かつ計画的に推進し、児童生徒に持続可能な開発のために必要な価値観の涵養を図る上で、その効果は高い。調査結果からわかるように、各教育委員会での独自のカリキュラムの構築や E S D の視点に立った教育内容の再構築に取り組まれている教育委員会の数が少ない現状下では、**既存の環境教育プログラム（キッズ ISO 等）などの活用は、E S D の推進上効果的な取組であり、各市町村の実態に応じて取り入れていくことも求められる。**

学校において E S D をさらに推進していくためには、学校現場における E S D 推進の中心として総合的な学習の時間を充実させることは無論のこと、既存の教科等に E S D の視点を組み込むなど教育活動全体を通して展開することが重要である。「我が国における『国連 E S D の 10 年』実施計画」では、「学校、教育委員会に対して学校全体の運営の中で E S D を位置付けるためには、これまでのカリキュラムや教育内容を E S D の視点で再構築することが考えられる」とし、教育計画を見直し教育活動全体での E S D の取組が求められている。指導の現場である学校では、平成 23 年度の調査において、小・中学校における環境教育の全計画の作成率は小学校 96 %、中学校 90 % を示し、年間計画作成率は小

学校 77%、中学校 76%と高い割合で作成されている結果であった。しかし今回の調査では、優れた実践校として示していただいた事例でさえ、学校の教育活動全体を通しての事例が少ない実態がある。

この結果から、作成されている環境教育の全体計画、年間指導計画を教科等・総合的な学習の時間・課外活動等の教育活動全体を通じた横断的な取組となるような計画への改善を推進する必要がある。中でも学校教育の中心である各教科等における学習指導とE S Dの関連を明確にし、E S Dの視点を位置付けることは、学校全体でE S Dを推進する上では欠かすことができない。

さらに、今回の調査結果で優れた取組をしている学校として示していただいた学校を校種で見ると、小学校 29 事例に対し中学校 9 事例であった。E S Dに関連する取組は、小学校の方が中学校より盛んであることを示している。中学校でのE S Dに関する指導の充実が課題として見えてくる。教科指導がより重要性を増す中学校はもとより小学校においても、総合的な学習の時間に実践できる事例と共に、**教科等の学習指導においてE S Dをどのように取り入れていくことができるのかを示した実践的な指導事例を広く公開し、E S Dの視点を取り入れた学習指導を推進していく事が必要である。**

以上を受け、これからのE S D推進に向けてまとめると以下の通りである。

【E S Dの研修の充実】

各教育委員会機関において、各教科等の研修会においてE S Dの視点を取り入れる。その際、各市町村にいる環境教育プログラムコーディネート研修（特定研修）修了者を活用していく。

環境教育研究協議会等において一層E S Dについての啓発を行っていく。

【地域の実践とのかかわり】

教育委員会以外の課等で実施されている環境に関する取組と、連携をしていくことで、学校の枠を超えた「学校・家庭・地域連携型」のE S Dの実践が可能となる。機会をとらえて積極的に活用していくことが求められる。

【既存の環境教育プログラム（キッズ ISO 等）の効果的な活用】

外部機関等と連携を図り、より計画的・継続的に、児童生徒の発達段階に応じてE S Dを実践することができる。

【教科・領域等とE S Dとの関係を明確にした教科横断的な指導計画等の作成】

従来の指導計画を教科・領域等の枠を超え活動や内容を関連付けた計画へと転換していく。教科横断的な学びはE S Dのみならず知の統合、学びの深まり、興味関心の高まりが期待でき、生きる力の創造にもつながる。また、E S Dの視点を持った意識的な指導を可能にする。

【教育資料情報の積極的な発信】

昨年度及び今年度の調査研究で作成した指導事例や、総合教育センター作成の「学力向上BOOKLET『目指せ！持続可能な社会の担い手をはぐくむ教育』」を環境教育研究協議会で活用したり、県教育委員会 HP とリンクし、E S D実践の際に役立つE S Dネットワークを構築するなど、広く情報発信するための取組を積極的に行う。

第3章 教科等におけるESDの視点を入れた指導事例の作成とその教育的効果の検証

本研究は昨年度の研究と同様に、国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」の中で示された、ESDの視点に立った学習指導の目標、「持続可能な社会づくり」の構成概念、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を基本に、教科等においてESDの視点を入れた学習指導の在り方について研究し、指導事例の作成を行い、その効果の検証を行った。

1 ESDの視点に立った学習指導の目標について

国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」の中で各教科等の授業の中でESDの視点に立った学習指導を展開することを前提に、

ESDの視点に立った学習指導の目標
持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力・態度を身に付けること

とし、各教科等の学習指導を進める中で、この目標の達成をねらいながら授業設計や授業改善を行うことが、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことにつながるとしている。

2 「持続可能な社会づくり」の構成概念について

ESDの視点に立った学習指導の目標にある「持続可能な社会づくりに関わる課題」を見いだすために必要な、社会の構成概念を、[1]人を取り巻く環境に関する概念、[2]人の意志や行動に関する概念の2つの上位概念に大別し、その上位概念を3つの視点、①多種多様な要素からなる視点、②互いに作用し合う視点、③ある方向へ変化している視点でとらえて、下記の6つの構成概念を示している。

「持続可能な社会づくり」の構成概念の関係			
上位概念 \ 視点	①多種多様な要素からなる視点	②互いに作用し合う視点	③ある方向へ変化している視点
[1]人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済など）に関する概念	「多様性」	「相互性」	「有限性」
[2]人（集団・地域・社会・国など）の意思や行動に関する概念	「公平性」	「連携性」	「責任性」

国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」

上記6つの構成概念の具体例は以下のとおりである。

「持続可能な社会づくり」の構成概念(例)

人を取り巻く環境 (自然・文化・社会・経済など) に関する概念	I 多様性 いろいろある 【多様】	自然・文化・社会・経済は、起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物（ものごと）から成り立ち、それらの中では多種多様な現象（出来事）が起きていること。 自然・文化・社会・経済は、それぞれの形成過程で様々な様相を見せ、多種多様な事物・現象が存在している。そうした生態学的・文化的・社会的・経済的な多様性を尊重するとともに、自然・文化・社会・経済にかかわる事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切である。 例）◆生物は、色、形、大きさなどに違いがあること ◆それぞれの地域には、地形や気象などに特色があること ◆体に必要な栄養素には、いろいろな種類があること
	II 相互性 関わりあっている 【相互】	自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合い、それらの中では物質やエネルギーが移動・循環したり、情報が伝達・流通したりしていること。 自然・文化・社会・経済は、それぞれが互いに働き掛けあうシステムであり、それらの中では物質やエネルギー等が移動・消費されたり循環したりしている。人は、そうしたシステムとのつながりを持ち、さらにその中で人と人との互いにかかわり合っていることを認識することが大切である。 例）◆生物は、その周辺の環境とかかわって生きていること ◆電気は、光、音、熱などに変えることができること ◆食料の中には外国から輸入しているものがあること
	III 有限性 限りがある 【有限】	自然・文化・社会・経済は、有限の環境要因や資源（物質やエネルギー）に支えられながら、不可逆的に変化していること。 自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源（物質やエネルギー）は有限である。こうした有限の物質やエネルギーを将来世代のために有効に使用していくことが求められる。また、有限の資源に支えられている社会の発展には限界があることを認識することも大切である。 例）◆物が水に溶ける量には限度があること ◆土地は、火山の噴火や地震によって変化すること ◆物や金銭の計画的な使い方を考えること
人（集団・地域・社会・国など） の意思や行動に関する概念	IV 公平性 一人一人大切に 【公平】	持続可能な社会は、基本的な権利の保障や自然等からの恩恵の享受などが、地域や世代を渡って公平・公正・平等であることを基盤にしていること。 持続可能な社会の基盤は、一人一人の良好な生活や健康が保証・維持・増進されることである。そのためには、人権や生命が尊重され、他者を犠牲にすることなく、権利の保障や恩恵の享受が公平であることが必要であり、これらは地域や国を超え、世代を渡って保持されることが大切である。 例）◆健康でいられるような食事・運動・休養・睡眠などが保証されていること ◆自他の権利を大切にすること ◆差別をすることなく、公正・公平に努めること
	V 連携性 力を合わせて 【連携】	持続可能な社会は、多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること。 持続可能な社会の構築・維持は、多様な主体の連携・協力なくしては実現しない。意見の異なる場合や利害の対立する場合などにおいても、その状況にしたがって順応したり、寛容な態度で調和を図ったりしながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切である。 例）◆地域の人々が協力して、災害の防止に努めていること ◆謙虚な心を持ち、自分と異なる意見や立場を大切にすること ◆近隣の人々とのかかわりを考え、自分の生活を工夫すること
	VI 責任性 責任を持って 【責任】	持続可能な社会は、多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンを持ち、それに向かって変容・変革することにより構築されること。 持続可能な社会を構築するためには、一人一人がその責任と義務を自覚し、他人任せにするのではなく、自ら進んで行動することが必要である。そのためには、現状を合理的・客観的に把握した上で意思決定し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持つことが大切である。 例）◆我が国が国際社会の中で重要な役割を果たしてきたこと ◆働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと ◆家庭で自分の分担する仕事ができること

注1) 【】表記は、実践事例での略号

注2) 各欄の上位が構成概念の定義、下段がその補足説明

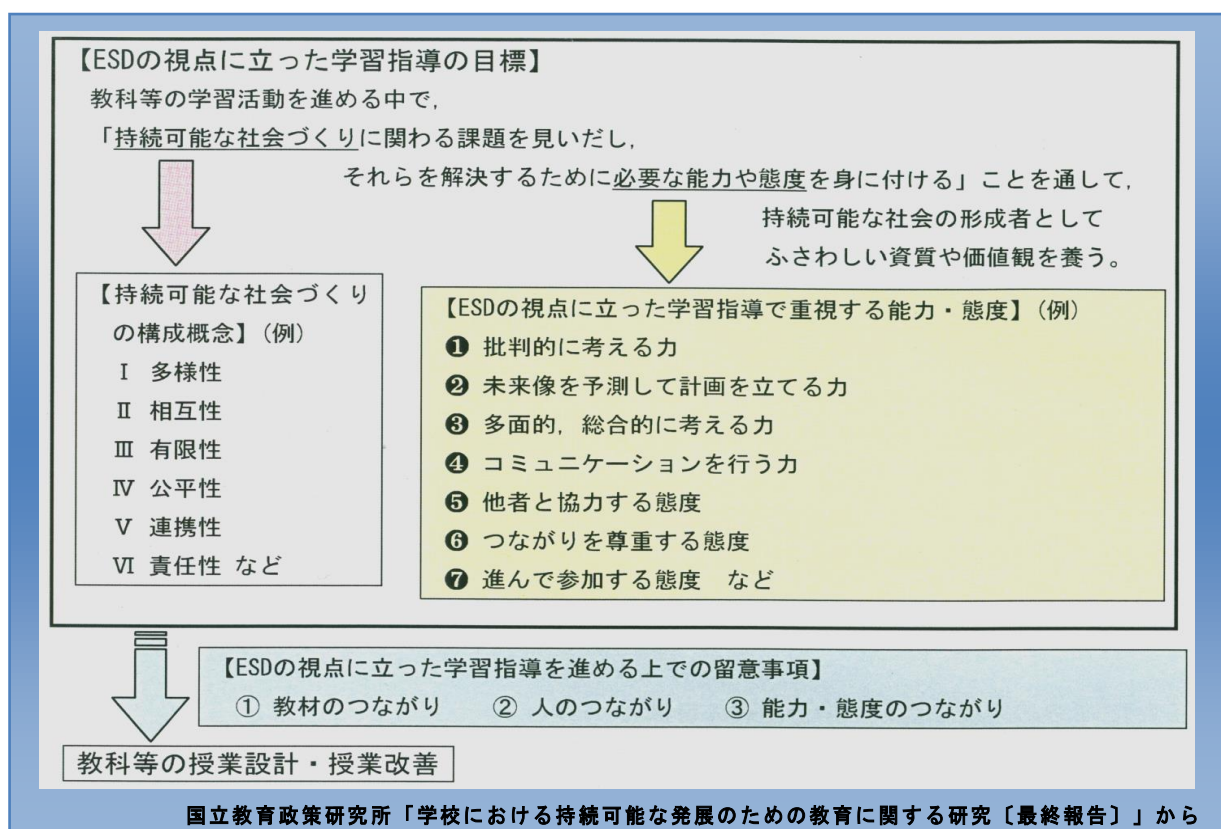
3 ESDで重視する能力・態度について

ESDで育みたい力については、我が国における「国連ESDの10年」実施計画(H23.6改訂)や持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD・J)でも示されきたが、これらを踏まえ国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究〔最終報告〕」においては、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度として以下の7項目を示している。

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(例)		
ESDで重視する能力・態度		キー・コンピテンシー
① 批判的に考える力 《批判》	合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断する力 例) ○ 他者の意見や情報を、よく検討・理解して採り入れる。 × 得られたデータや考え方を鵜呑みにする。 ○ 積極的・発展的に、よりよい解決策を考える。 × 消極的、悲観的に考え、すぐに諦める。答えだけを得ようとする。	相互作用的に道具を用いる。
② 未来像を予測して計画を立てる力 《未来》	過去や現在に基づき、あるべき未来像(ビジョン)を予想・予測・期待し、それを他者と共有しながら、ものごとを計画する力 例) ○ 見通しや目的意識をもって計画を立てる。 × 無計画にものごとを進めたり、その場しのぎをしたりする。 ○ 他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる。 × 独り善がりにもものごとを進めてしまう。	
③ 多面的、総合的に考える力 《多面》	人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を理解し、それらを多面的、総合的に考える力 例) ○ 廃棄物も見方によっては資源になると捉えることができる。 × 役に立たないものは不要だと考える。 ○ 様々なものごとを関連付けて考える。 × まとまりがなく、きれぎれの見方をする。	
④ コミュニケーションを行う力 《伝達》	自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力 例) ○ 自分の考えをまとめて簡潔に伝えられる。 × 他者の意見の欠点ばかりを指摘し、自分の考えを言わない。 ○ 自分の考えに、他者の意見を取り入れる。 × 他者の意見を聞こうとしない。	異質な集団で交流する。
⑤ 他者と協力する態度 《協力》	他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感するとともに、他者と協力・協同してものごとを進めようとする態度 例) ○ 相手の立場を考えて行動する。 × 自分のことしか考えない。 ○ 仲間を励まししながらチームで活動する。 × 身勝手な行動、同調しない態度をとる。	
⑥ つながりを尊重する態度 《関連》	人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度 例) ○ 自分が様々なものごととつながっていることに関心をもつ。 × 自分のすぐ回りのものや直接関係のあることしか関心がない。 ○ いろいろなもののお陰で自分がいることを実感する。 × 自分は一人で生きていると思込む。	自律的に活動する。
⑦ 進んで参加する態度 《参加》	集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を踏まえた上で、ものごとに自主的・主体的に参加しようとする態度 例) ○ 自分の言ったことに責任を持ち、約束を守る。 × 無責任な行動ばかりで、きまりを守らない。 ○ 進んで他者のために行動する。 × 自分が得をすることしかしない。	

注) 《》表記は、実践事例での略号

本研究では、国立教育政策研究所の示した6つの構成概念と7つの能力・態度を「ESDの視点」として着目し、普段の行われている学習指導をESD視点を取り入れて捉え直し、広く県内外に示すこととした。これにより小・中学校でのESDの認知度を高め、実践への負担感や抵抗感を軽減し、全ての教科等でESDの視点を取り入れた授業実践を広めるために、授業改善の視点、具体策を指導案の形式で示した。



4 指導事例

本研究で作成した8事例の構成概念及び学習指導で重視する能力・態度は以下のとおりである。

	教科・学年	単元・題材等	構成概念	能力・態度
小学校指導事例	1	5年生 外国語活動 英語ノート1 Lesson9 What would you like?	多様性 相互性 連携性	多面的総合的に考える力 コミュニケーションを行う力 他者と協力する態度 進んで参加する態度
	2	5年生 音楽 和音の美しさを味わおう	多様性 相互性 連携性	未来を予測して計画を立てる力 多面的総合的に考える力 コミュニケーションを行う力 他者と協力する態度
	3	5年生 体育 けがの防止	多様性 相互性 連携性 責任制	批判的に考える力 多面的総合的に考える力 コミュニケーションを行う力 他者と協力する態度 つながりを尊重する態度 進んで参加する態度
	4	4年生 総合的な学習の時間 エネルギーについて考えよう	多様性 相互性 有限性 公平性 連携性 責任制	批判的に考える力 未来を予測して計画を立てる力 多面的総合的に考える力 コミュニケーションを行う力 他者と協力する態度 つながりを尊重する態度 進んで参加する態度

		教科・学年	単元・題材等	構成概念	能力・態度
中学校指導事例	5	1年生 英語	Sunshine English Course 1 PROGRAM 8	多様性 相互性 連携性	コミュニケーションを行う力 他者と協力する態度 つながりを尊重する態度
	6	1年生 音楽	曲の雰囲気を感じ 取ろう	多様性 公平性 連携性	批判的に考える力 多面的総合的に考える力 コミュニケーションを行う力 進んで参加する態度
	7	3年生 美術	メッセージとしての 美術	多様性 相互性 連携性 責任制	批判的に考える力 未来を予測して計画を立てる力 多面的総合的に考える力 コミュニケーションを行う力 他者と協力する態度
	8	1年生 道徳	彩の国の道徳 自分を見つめて 「命のタスキ」	多様性 公平性	コミュニケーションを行う力 他者と協力する態度 つながりを尊重する態度

各事例は以下の構成でまとめた。

学 年	教 科 等	学習指導要領
1 単元・題材名		
2 単元・題材について		
3 題材と持続可能な社会づくりの構成概念と学習指導で重視する能力・態度の関係		
構成概念		重視する能力・態度
4 単元・題材の目標		
5 単元・題材指導計画と評価計画		
6 本時の学習指導 通常学習指導案		
過程	学習活動・内容	指導上の留意点
E S D の視点を入れた学習指導案		
過程	学習活動・内容	指導上の留意点・E S D の視点
※通常学習指導案の展開とE S Dの視点を入れた学習指導案の展開を見開きで示し、E S Dの視点と活動の違いなどを明確に示した。		
7 E S D の視点を取り入れた本授業の指導のポイントと指導上の課題 (1) 指導のポイント (2) 効果の検証 (3) 指導上の課題		
8 参考資料等		

(1) 小学校指導事例

学年	教科等	学習指導要領
小学校 第5学年	外国語活動	1 (1) (2) (3) 2 (1) (2)

1 単元名 英語ノート1 Lesson9 「What would you like?」

2 単元について

児童はこれまでに、簡単な食べ物の名前や、英語ノート1「What do you like?」で、好きなものを聞いたり答えたりするやりとりを学習してきている。

本単元では、上記既習内容をもとに、ゲームやロールプレイング等を通して、欲しい食べ物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことがねらいである。

本単元でESDの視点に立った学習指導を進めるため、世界の国々の給食を取り上げる際、多様な文化や流通について触れるようにする。それによって、児童がそれぞれの国のつながりや関わり広がり理解できるようにする。また、あいさつをはじめとして、「What would you like?」「I'd like～」などのやりとりを通して、積極的にコミュニケーションを行う力や、進んで参加する態度も育てていきたいと考える。

3 単元におけるESDの視点

構成概念	重視する能力・態度
I 多様性 世界には様々な文化があり、食べる物も多様であること II 相互性 世界は互いに物資が流通し合っていること V 連携性 友だちと協力し合いながら、よりよい考えを見つけること	③多面的・総合的に考える力 世界のつながりや関わり、広がり理解し、それらを多面的・総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 自分の考えを伝えとともに、相手の考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する態度 自分の考えと友だちの考えを比較し、協力し合いながらよりよい考えを見つけようとする態度 ⑦進んで参加する態度 ワードやセンテンスを積極的に声に出したり、主体的に活動に参加したりする態度

4 単元目標

○欲しいものについて、丁寧な表現で積極的に尋ねたり答えたりしようとする。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

○欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)

○世界の料理に興味を持ち、欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気づく。

(言語や文化に関する気付き)

5 単元指導計画と評価計画

時	目標と主な活動	評価			
		コ	慣	気	評価規準〈方法〉
1	丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現を知る。 【L1】 さくらとたくのフルーツパフェを選ぶ。 ○「ビンゴゲーム」をする。 【P】 友だちのフルーツパフェを作る。 【L2】 それぞれの人が注文した食べ物を選ぶ。			○	・欲しいものを尋ねたり言ったりする際丁寧な表現があることに気づいている。〈行動観察・振り返りカード分析〉
2	丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に親しむ。 【L2】 それぞれの人が注文した食べ物を選ぶ。 【C】 “What would you like?” ○「ビンゴゲーム」をする。 ○「仲間さがしゲーム」をする。		○	○	・丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉
③ 本時	世界には様々な料理があることを知り、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 【C】 “What would you like?” 【A1】 料理を選び、ランチを作る。 【V 連携性】 【A2】 誌面の給食がどこの国のものか考える。【I 多様性】【II 相互性】		○	○	・丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・世界には様々な料理があることに気づいている。〈行動観察・振り返りカード分析〉
4	相手意識をもって、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。 【C】 “What would you like?” 【A2】 誌面の給食から1品ずつ選び、オリジナル給食を考える。 ○「スペシャルランチを作ろう」 店員と客に分かれ、やり取りをしてランチを作る。 【I 多様性】	○	○		・欲しいものについて丁寧な表現で、相手意識をもって尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉 ・欲しいものについて丁寧な表現で、相手意識をもって尋ねたり答えたりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉

6 本時の学習指導（通常の評価観点）

(1) 本時の目標

○世界にはさまざまな料理があることを知り、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。

(2) 本時の展開（通常の指導案）

活動内容	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点○評価◆
1 あいさつ	指：Hello,everyone! 児：Hello,Ms.(Mr.)○○. 指：How are you today? 児：I'm (fine),thank you.How about you? 指：I'm (fine)too,thank you.		○元気よくあいさつをさせる。
2 【Let's Chant】 “ What would you like?” 3 【Activity1】	・音声教材を聞いて一緒に言う。 ・指導者とやり取りをしながらランチメニューを作る。	・音声教材を聞かせ、絵カードを見せながら一緒に言う。 ・食べ物を替えながら言う。 ・誌面のヘルシーメニュー（700キロカロリー）を提示し、これを目安にメニュー作りをさせる。	○外国語のリズムを感じ取れるように注意して聞かせる。 ○カロリーはランチの良し悪しの判断ではなく、参考として計算する。 ◆丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。
4 【Activity2】	・それぞれの給食が、どこの国のものか予想する。 ・音声教材を聞いて、それぞれどこの国のものか□に番号を記入する。	・問答を繰り返しながら児童に予想を立てさせる。 ・誌面の給食はその国の料理の一例であり、ほかにも様々な給食があることに触れる。	○外国に興味を持って問答を楽しむように工夫する。 ◆世界には様々な料理があることに気づいている。
5 活動のまとめ	・本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	・児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。	○次時の意欲につながるよう具体的にほめるようにする。
6 あいさつ	指：That's all for today. See you next lesson 児：See you,Ms.(Mr.)○○.		・明るいあいさつで終わるようにする。

(2) 本時の展開（E S Dの視点を取り入れた指導案）

活動内容	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点○ 評価◆E S Dの視点★
1 あいさつ	指：Hello,everyone! 児：Hello,Ms.(Mr.)○○. 指：How are you today? 児：I'm (fine),thank you.How about you? 指：I'm (fine)too,thank you.		○元気よくあいさつをさせる。
2 【Let's Chant】 “ What would you like?”	・ 音声教材を聞いて一緒に言う。 ・ ペアになってやり取りをする。	・ 音声教材を聞かせ、絵カードを見せながら一緒に言う。	○外国語のリズムを感じ取れるように注意して聞かせる。 ★本時で使うワードやセンテンスを積極的に使おうとしている。(積極的に参加する態度)
3 【Activity1】	・ グループでどんなメニューにするか話し合い、ランチメニューを作る。	・ ヘルシーメニューやバランスメニューなどの視点を与え、協力しながら目的に沿ったメニュー作りをさせる。 ・ 料理を渡す役、もらう役に分かれて練習させる。	★友だちと協力してよいメニューを作ろうとする。(連携性、他者と協力する態度) ★相手を尊重し、積極的にコミュニケーションを行っている。(コミュニケーションを行う力) ◆丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。
4 【Activity2】	・ 誌面の給食が、それぞれどの国のものか予想する。理由を発表する。 ・ 音声教材を聞いて、それぞれどの国のものか□に番号を記入する。	・ 4種類の給食の「特徴」や「共通点」、「違い」について考えさせる。 ・ 音声教材を聞かせ、正解を確かめさせる。 ・ 誌面の給食はその国の料理の一例であり、ほかにも様々な給食があることに触れる。	★世界のつながりや関わり、広がりを理解している。(多面的・総合的に考える力) ◆世界には様々な料理があることに気づいている。

5 活動のまとめ	・ 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。	・ 児童の英語を使おうとする態度でよかったところをほめる。	○ 次時の意欲につながるよう具体的にほめるようにする。
6 あいさつ	指：That's all for today. See you next lesson. 児：See you, Ms. (Mr.) ○○.		・ 明るいあいさつで終わるようにする。

7 ESDの視点を入れた本授業の指導のポイントと指導上の課題

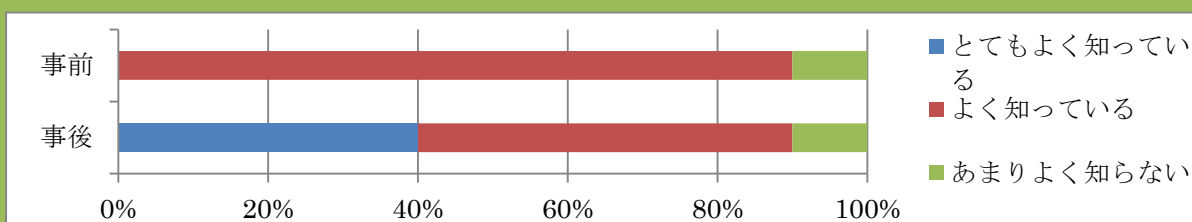
(1) 指導のポイント

- コミュニケーションを行う力や他者と協力する態度を育むことを意識し、グループ活動を取り入れた。よりよいランチメニューを作るために、児童が互いの考えを尊重しながら協力して進められるよう、グループに関わっていくようにした。
- 世界のランチメニューを取り上げ、「食」を通して人・もの・社会がつながり、関わり合っていることに気づかせるようにした。ICTを活用したり写真を提示したりすることによって、児童にわかりやすく伝えるよう工夫した。
- チャンツではALTとのやり取りを繰り返し、自信を持って発音できるようにした。ペアでの練習時間も設け、積極的にワードを使えるようにした。

(2) 効果の検証

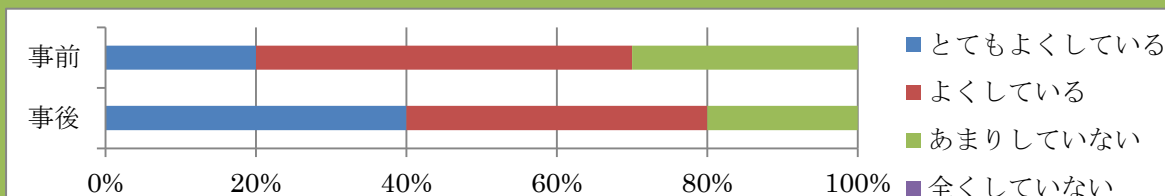
今回は、「持続可能な社会づくり」の構成概念Ⅰ、Ⅱ、Ⅴと、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」③、④、⑤、⑦を重視した授業づくりを行った。以下に示すのは、ESDの視点を取り入れた4時間の授業の効果を検証したものである。

質問1：世界が食べ物でつながっていることや、関わり合っていることを知っていますか（事前）。わかりましたか（事後）。 【構成概念Ⅱ：相互性】

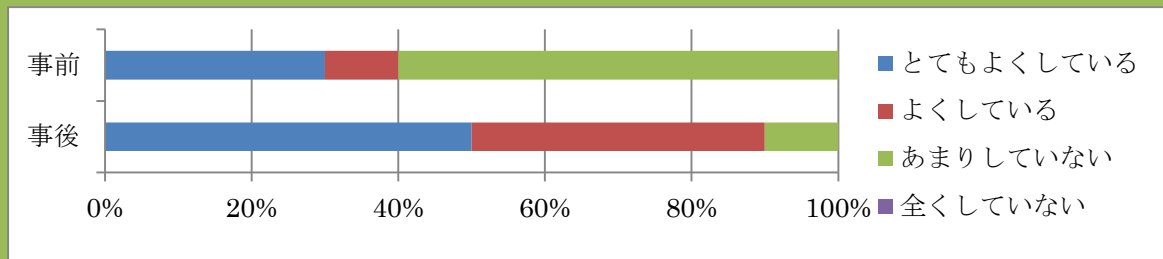


質問2：自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりしながら、積極的に友だちと活動していますか（事前）。することができましたか（事後）。

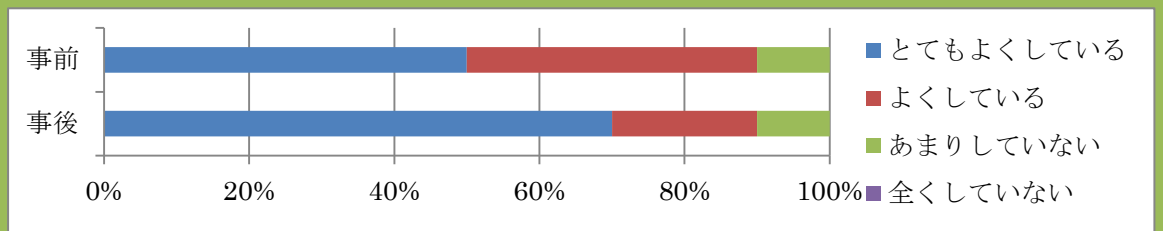
【重視する能力・態度④コミュニケーションを行う力】



質問3：友だちと協力して、よい考えを見つけようとしていますか（事前）。することができましたか（事後）。【重視する能力・態度⑤：他者と協力する態度】



質問4：進んで声を出したり、楽しくゲームに参加したりしていますか（事前）。できましたか（事後）。【重視する能力・態度⑦：進んで参加する態度】



質問5：学習を終えて気づいたこと、わかったこと、考えたこと、思ったことなどを書きましょう。

【I：多様性】

- ・世界の食べものの違いがよく分かりました。
- ・国によっていろいろなことが違うと分かりました。
- ・世界の食べ物はそれぞれ違うことに気づきました。外国の食べ物も食べてみたいです。
- ・日本は給食がバイキングではないけど、外国ではバイキングがあってびっくりしました。

【③：多面的・総合的に考える力】

- ・「納豆」などは英語でも同じ言葉でした。
- ・日本はもう少し自給率を上げた方がいいと思います。

【⑦：進んで参加する態度】

- ・ビンゴゲームが楽しかったです。

【その他】

- ・4年生の頃よりも上手に英語が話せるようになりました。

以上の結果から、重視する能力・態度については、いずれも事後アンケートにおいて「よくできた」「とてもよくできた」と答える児童が多く、ペアやグループによる活動を意識した授業を展開した成果であるといえる。また、構成概念についても、給食のメニューや配膳方法の違いなど、食という観点から世界に目を向けるきっかけづくりができた。また、「納豆（natto）」等、日本語と同じ呼び方をする食べ物もあることを知り、世界と日本との関わりにも気づかせることができた。

(3) 指導上の課題

○英語活動は、「E S D」の視点を取り入れた学習を進めやすい単元もある。しかし、今回の検証アンケートでは、「あまりできなかった」という児童が減少した項目もあるが、変化の見られない項目もあった。教師が、E S Dの視点に立った授業を、年間を通じて実践していくことが大切である。

○今後はI C Tを積極的に取り入れるなど、授業の中で児童がより主体的に活動し、コミュニケーションを行いやすい工夫を取り入れることが、さらに必要である。

8 参考資料

○ESD の学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み

(国立教育政策研究所教育課程研究センター)

○埼玉県小学校教育課程指導資料 平成22年3月 (埼玉県教育委員会)

英語活動アンケート

名前（ ）

*あてはまるところに○をつけましょう。

1 世界が物を通してつながっていることや、関わり合っていることを知っていますか。

とてもよく知っている	よく知っている	あまりよく知らない	全く知らない
☐	☐	☐	☐

2 英語活動で、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりしながら、積極的に友だちと活動していますか。

とてもよくしている	よくしている	あまりしていない	全くしていない
☐	☐	☐	☐

3 英語活動で、友だちと協力してよい考えを見つけようとしていますか。

とてもよくしている	よくしている	あまりしていない	全くしていない
☐	☐	☐	☐

4 英語活動で、進んで声を出したり、楽しくゲームに参加したりしていますか。

とてもよくしている	よくしている	あまりしていない	全くしていない
☐	☐	☐	☐

「What would you like?」の学習をふり返って

名前（ ）

*あてはまるところに○をつけましょう。

1 世界が食べ物などでつながっていることや、関わり合っていることがわかりましたか。

とてもよくわかった	よくわかった	あまりよくわからなかった	全くわからなかった

2 自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりしながら、積極的に友だちと活動することができましたか。

とてもよくできた	よくできた	あまりよくできなかった	全くできなかった

3 友だちと協力して、よい考えを見つけようとすることができましたか。

とてもよくできた	よくできた	あまりよくできなかった	全くできなかった

4 進んで声を出したり、楽しくゲームに参加したりできましたか。

とてもよくできた	よくできた	あまりよくできなかった	全くできなかった

5 学習を終えて気づいたこと、わかったこと、考えたこと、思ったことなどを書きましょう。

--

学年	教科等	学習指導要領
小学5年生	音楽	A 表現(1)歌唱の活動 アイエ (2)器楽の活動 アイウエ (3)音楽づくり イ B 鑑賞(1)鑑賞の活動 アイ

1 題材名 和音の美しさを味わおう(8時間扱い)

2 題材について

児童はこれまでに、さまざまな活動を通して旋律や音が重なり合うきれいな響きを感じ取ってきている。この題材では、和音や和声の響きの美しさを味わうことを中心に学習を進めていく。和音の響きの違いや和音の移り変わりを感じ取りながら、和製の響きの美しさを味わうようにし、また、和音の付け方によって変わる曲の表情の違いも感じ取らせていく。

本題材で ESD の視点にたった学習指導を進めるためには、合唱や合奏という同じ作品を作り上げていく活動を通して、児童が仲間と協力して取り組むようにすることが大切である。また、聴き手に和音の美しさを伝えるために、パートごとのバランスや強弱、選ぶ楽器によって曲想がどのように変わるのかといった完成作品を予想させて取り組ませていきたい。

3 題材における ESD の視点

構成概念	重視する能力・態度
I 多様性 同じ曲でも、演奏者や演奏の仕方により曲想には違いがあること II 相互性 多くの要素が関わり合って曲が構成されていること V 連携性 1つの曲を演奏するためにパートを意識しながら協力して演奏すること	②未来を予測して計画を立てる力 聴き手がどのように受け止めるかを考えながら予測して演奏の仕方の工夫を考える ③多面的、総合的に考える力 旋律、音の重なり、強弱、速さなど、多くの要素によって曲が構成されていることを理解する ④コミュニケーションを行う力 自分の考えを明確に他者に発信する ⑤他者と協力する態度 仲間と協力したり、励ましたりしながら活動する

4 題材の目標

- ・和音の響きの変化を感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりすることができるようにする。(音楽への関心・意欲・態度)
- ・和音の響きやその移り変わりを感じ取り、全体の響きのバランスに気を付けて歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫することができるようにする。(音楽表現の創意工夫)
- ・和音の響きの美しさを感受し、互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら、全体の響きのバランスに気を付けて演奏することができるようにする。(音楽表現の技能)

5 題材の指導計画と評価計画(8時間扱い)

時	学習内容・主な学習活動	指導上の留意点○ 具体的評価規準◆	〔共通事項〕
1	○「静かにねむれ」を聴き、歌詞の内容や曲想を感じ表現を工夫して歌う。 ・和音と低音の伴奏に合わせて主旋律を歌う。	○ 主旋律のみの場合と、和音と低音の伴奏を合わせた場合を比べることで、音を重ねることで音の幅が広がったり、曲の感じが変わったりすることに気付かせる。【多面的、総合的に考える力】	ア 和声の響き ア 音の重なり イ 全音符
2	○和音の流れを感じ取り、和音伴奏に親しむ。 ・鍵盤楽器1と2パートを鍵盤楽器で練習する。	○和音により曲の感じが変わることに気付かせる。 和音の移り変わりを感知取りながら、声や音を合わせて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	
3	○旋律に合わせて、和音伴奏を工夫する。 ・全体の響きを工夫しながら演奏する。	(音楽への関心・意欲・態度) ☆全体の響きを感じて、伴奏の仕方を工夫している。(音楽表現の創意工夫)	
4	○「それは地球」を聴き、旋律の特徴や和音の響きを感じ取る。 ・声の重なりを感じながら歌う。	・ 前半と後半の旋律の特徴を生かして歌い方を工夫させていく。【未来を予測して計画を立てる力】	
5	○和音の違いによる曲想の変化を感じ取る。 ・楽譜アとイの演奏を聴き比べ、感じ取ったことを話し合う。	☆声の重なりを感じながら、正しい音程で歌うことができる。(音楽表現の技能) ・同じ旋律でも和音の変化によって表情が違ってきこえることに気付かせる。 ☆和音の響きの美しさや曲想の変化を感じ取り聴くことができる。(鑑賞の能力)	
6	○「威風堂々」を聴き、オーケストラの響きや曲想の変化を味わう。	・オーケストラによる演奏と、ピアノの連弾による演奏を聴き比べ、使われる楽器によっても曲の感じが変わることに気付かせる。	ア 音色 ア 音楽の仕組み イ 反復記号
7	○和音の響きを感じて、演奏する。 ○楽器の特徴を生かして合奏を工夫する。 ・グループごとにパートを決め、全体の響きを聴きながら合奏する。	・ 演奏するパートを選んだり、ソロパートをつくったりさせることで、グループごとの曲想をより特徴的なものにさせる。【コミュニケーションを行う力】 【他者と協力する態度】 ☆旋律や音の重なりに関心しながら自分のパートを演奏することができる。(音楽表現の技能)	(1番かっこ 2番かっこ) イ ♭フラット
8	○合奏を聴き合う。 ・「威風堂々」発表会をする。	☆楽器の特徴を生かし、演奏の仕方を工夫している。 (音楽的な感受や表現の工夫)	

6 本時の学習指導

(1) 目標(通常の評価観点)

- ・旋律や音の重なりに気を付けながら自分のパートを演奏することができる。
(音楽表現の技能)
- ・楽器の特徴を生かし、演奏の仕方を工夫している。
(音楽的な感受や表現の工夫)

(2) 本時の展開(通常教科指導案)

	学習活動	学習内容	指導上の留意点○ 評価◆
導入	1 「威風堂々 第1番」を聴く。		○前時の学習を想起させながら、合奏への意欲へつなげる。
	2 本時の課題を確認する。		○演奏グループ（1グループ7～8人、4グループ）を確認しておくことで、スムーズに移動できるようにする。
	旋律や音の重なりを聴きながら自分のパートを演奏しよう		
展開	3 パートごとに分かれて旋律や和音の練習をする。	○楽器の演奏方法	○パートの旋律や和音を確実に演奏できるように、グループから離れ、各自使用する楽器を持たせ、パートごとに集まって練習させる。 ○階名唱ができていない児童は、同じパートの児童に尋ねながら正確に音をとらせるようにする。 ○繰り返しながら異なる種類の楽器でリレー奏をさせることで、旋律や和音を音感で覚えさせるようにする。 ◆旋律や音の重なりに気を付けながら自分のパートを演奏することができる。 (演奏聴取) 【音楽表現の技能】
	4 グループで集まり、合奏練習をする。	○音楽表現の工夫 ・強弱 ・音の重なり ・拍の流れ ・フレーズ	○パート練習を終了させた後、直ちに演奏グループで集まり合奏練習をさせる。 ○1オクターブ低くして重ねるなど、合奏の響きが豊かになる方法を気付かせていく。
	5 グループごとに合奏を発表し、聴き合う。		◆楽器の特徴を生かし、音量のバランスに気を付けて演奏の仕方を工夫している。 (行動観察) 【音楽的な感受や表現の工夫】
まとめ	6 本時のまとめをする。		○本時を振り返らせながら、表現をよりよくしていくことを伝える。

(3) 本時の展開(ESD の視点を入れた指導案)

	学習活動	学習内容	指導上の留意点○ 評価◆ ESD の視点★
導入	1 「威風堂々第1番」を聴く。		○前時の学習を想起させながら、合奏への意欲へつなげる。
	2 本時の課題を確認する。		○演奏グループ(1グループ7～8人、4グループ)を確認させておくことで、スムーズに移動できるようにする。
	旋律や音の重なりを聴きながら自分のパートを演奏しよう		
展開	3 パートごとに分かれて旋律や和音の練習をする。	○楽器の演奏方法	○パートの旋律や和音を確実に演奏できるように、グループから離れ、各自使用する楽器を持たせ、パートごとに集まって練習させる。
	4 互いに聴き合いながら演奏する。		○階名唱ができていない児童は、同じパートの児童に尋ねながら正確に音をとらせるようにする。
	5 グループで集まり、合奏練習をする。	○音楽表現の工夫 ・強弱 ・音の重なり ・拍の流れ ・フレーズ	○繰り返しながら異なる種類の楽器でリレー奏をさせることで、旋律や和音を音感で覚えさせるようにする。
	6 目指すイメージに合うように演奏方法を工夫する。		★一斉に演奏させたり、互いに聴き合わせたりすることで、協力し、励まし合いながら活動させる。 【他者と協力する態度】
	7 グループごとに合奏を発表し、特徴的な要素を聴き合う。		◆旋律や音の重なりを気をつけながら自分のパートを演奏することができる。 (演奏聴取) 【音楽表現の技能】 ○パート練習を終了させた後、直ちに演奏グループで集まり合奏練習をさせる。
まとめ	8 本時のまとめをする。		○1オクターブ低くして重ねるなど、合奏の響きが豊かになる方法を気付かせていく。
			★より豊かな曲想にするために、グループで演奏練習をする中で改善点を考えさせ話し合わせる。 【未来を予測して計画を立てる力】 【コミュニケーションを行う力】 ★どのグループがどのような曲想か、特徴的な要素は何かを考えさせる。 【多面的、総合的に考える力】 ◆楽器の特徴を生かし、音量のバランスに気を付けて演奏の仕方を工夫している。 (行動観察) 【音楽的な感受や表現の工夫】

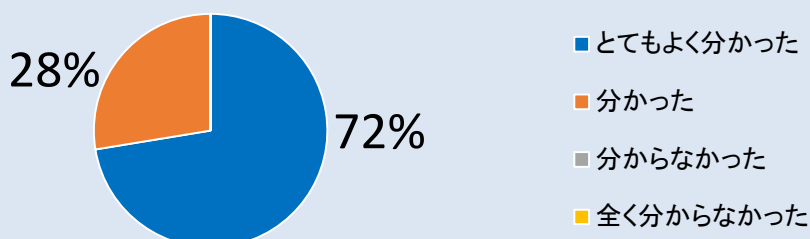
7 ESD の視点を入れた本授業の指導のポイントと指導上の課題

(1) 指導のポイント

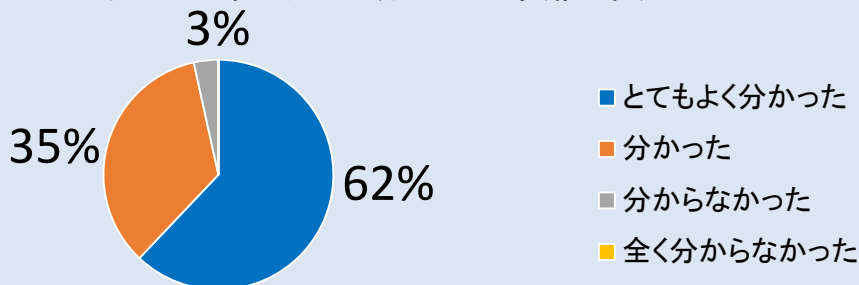
教師が意識して、児童に ESD の視点にたった能力を高めさせる活動に取り組ませた。例えば、グループごとに曲想を工夫させる際、教師がアドバイスして、それぞれ違った特徴のある曲想にさせるのは手間がかからない。しかし、他者と協力する態度や未来を予測して計画を立てる力を高めさせるために、児童間で悩み、気付き、励まし合いながら活動させ、時間が許す中でじっくり取り組ませた。

(2) 効果の検証

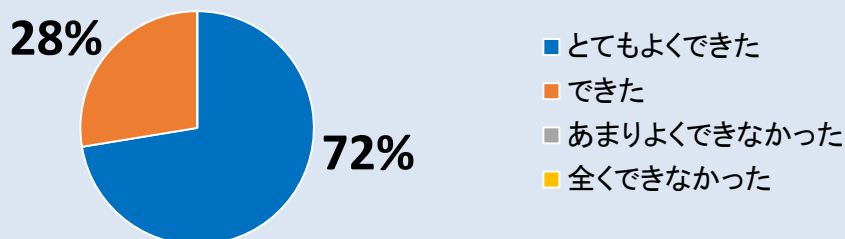
1 同じ極でも、演奏する人や人数、使う楽器、演奏の仕方などで曲の感じが違うことが分かったか。(多様性)



2 旋律、音の重なり、強弱、早さ、律動などが組み合わさって、一つの曲ができあがることが分かったか。(相互性)



3 グループの仲間と協力して、励まし合いながら演奏することができたか。(連携性)



4 学習を終えて分かったこと、がんばったこと、感想

- ・音楽は楽器の組み合わせを変えるだけで感じが変わることが分かった。(多様性、相互性)
- ・演奏中に音の重なり気付いて、おもしろく感じた。(多様性、相互性)
- ・人数や演奏するパートを変えると同じ曲でも違う曲に聞こえた。(多様性)
- ・アレンジをすともっときれいな曲になることが分かった。(多様性)
- ・友達が教えてくれたり励ましてくれたりしてよかった。(連携性)
- ・みんなでやるといいと思った。(連携性)

以上の結果から、予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度を高めさせるよう意識した授業を行ったことで、ESDの構成概念における、音楽を創り出す多様性、相互生、連携性の認識が高められた。学習感想の中でも、「楽器の組み合わせによって曲の感じが違う」ことに気付いた児童が多く見られたことから、特に「同じ曲でも演奏者や演奏の仕方により曲想に違いがある」という多様性を意識させられたことが分かる。器楽演奏に苦手意識をもっていた児童が友達に助けってもらったり、励ましてもらったりすることで自信をつけ、意欲的に練習や話し合いに参加する変容も見られ、学習意欲にもつながられた。

(3) 指導上の課題

- ・限られた時間の中で行うため、話し合いでヒントとなる言葉を掲示したり、効率的に活動に取り組ませる計画を練ったりしていく必要がある。
- ・パートごとの練習のため、まとまった期間に行うのではなく、児童に活動の見通しをもたせて一定の期間で指導を行っていったほうがよい。
- ・今回は児童の器楽の演奏技能を把握し、教師側がグループを作った。日頃の人間関係を見て考慮しながら、今後は他の児童とも関わらせていきたい。

8 その他：検証アンケート

ESD 検証アンケート 音楽科

名前()

和音の美しさを味わおう「静かにねむれ」「それは地球」「威風堂々第1番」の学習を振り返って

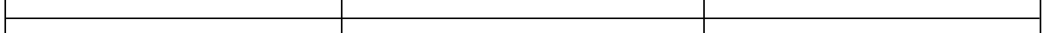
- 1 同じ曲でも、演奏する人や人数、使う楽器、演奏の仕方などで曲の感じが違うことが分かりましたか。

とてもよく分かった 分かった 分からなかった 全く分からなかった



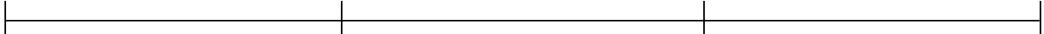
- 2 セン律(メロディ)、音の重なり、強弱、速さ、律動(リズム)などが組み合わさって、一つの曲ができあがることが分かりましたか。

とてもよく分かった 分かった 分からなかった 全く分からなかった



- 3 グループの仲間と協力して、はげまし合いながら演奏することができましたか。

とてもよくできた できた あまりよくできなかった 全くできなかった



- 4 学習を終えて分かったこと、がんばったこと、感想を書きましょう。

9 参考資料

- ・ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み
(国立教育政策研究所 教育課程研究センター)

学年	教科等	学習指導要領
第5学年	体育	G 保健 (2) けがの防止

1 単元名 「けがの防止」

2 単元について

児童はこれまでに、第3学年で「健康な生活」として正しい生活習慣について、第4学年で「育ちゆく体とわたし」として思春期の体の発育について学習している。本単元では、けがの発生要因や防止の方法について理解できるようにするとともに、その症状の悪化を防ぐための適切な処置ができるようにすることを目的とする。

本単元でESDの視点に立って学習指導を進めるにあたり、他者と協力する態度や、コミュニケーション能力を培うことを目的とし、フィールドワークを取り入れた。また、普段何気なく見ているものを、けがの防止という視点を通して改めて捉え直すことで、物事を多面的、総合的に考える力を育てていきたいと考える。

3 単元におけるESDの視点

構成概念	重視する能力・態度
I 多様性 - けがの原因には、様々な要因があること - けがを防止する設備や施設、取組は多岐にわたって身の回りにあること II 相互性 - けがは、自己および周りの環境が関係しあって起こること V 連携性 - 学校や地域の人々、行政が協力し合ってけがの防止に努めていること VI 責任性 - けがの防止やけがをした際の簡単な手当について知り、自己の責任を認識して行動できるようになること	①批判的に考える力 他者の意見や資料から得られる情報をよく検討して取り入れる力 ③多面的、総合的に考える力 身の回りにあるものが、けがの防止にどのように役立っているかを様々な角度から捉えようとする力 ④コミュニケーションを行う力 自分の考えを簡潔にまとめて相手に伝えるときにも他者の意見を自分の考えに取り入れる力 ⑤他者と協力する態度 互いに協力しながら活動し、よりよい成果を得ようとする態度 ⑥つながりを尊重する態度 けがの防止に周りの環境や人々が関わっていることを知り、それを尊重する態度 ⑦進んで参加する態度 自己の役割を意識し責任を持って活動に参加する態度

4 単元の目標

- (1) 学校生活や日常生活で起こるけがや事故の原因、および防止する方法に関心をもち、安全な生活を送ろうとする態度を身につけることができるようにする。(関心・意欲・態度)
 - (2) けがや事故を防止するために、周囲の状況をよく見極め、危険に早く気づいて的確な判断のもとに安全に行動することができるようにする。(思考・判断)
 - (3) 学校生活におけるけがや事故は、人の行動と環境がかかわって発生していることが理解できるようにする。(知識・理解)
- すり傷、切り傷、やけど、鼻血などのけがについて簡単な手当のしかたを知り、自分で手当ができるようにする。(知識・理解)

5 単元の指導計画と評価計画

(1) 指導計画

時	ねらいおよび学習内容・活動
1	I ねらい ・学校生活におけるけがに関心を持ち、いろいろなけがの原因について進んで調べることができるようにする。 ・学校生活におけるけがについて、どんな行動や環境がかかわっているか考えることができるようにする。 ・学校生活におけるけがの原因と防止する方法が理解できるようにする。 II 学習内容・活動 1 けがの経験について話し合う。【コミュニケーションを行う力】 2 資料を見て危険な場所や行動について考える。【批判的に考える力・多面的、総合的に考える力】 3 けがや事故が起こりやすい状況について話し合う。【コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度】 4 けがの原因についてまとめる。【多面的、総合的に考える力】
② 本 時	I ねらい ・学校生活における安全な環境づくりに関心を持ち、進んで調べることができるようにする。 ・けがを防ぐ工夫や備えをさがしたり、身のまわりで自分にもできることを考えたりすることができるようにする。 ・学校におけるけがを防ぐための工夫や備えについて理解できるようにする。 II 学習内容・活動 1 学校内でのけがを防ぐ備えや工夫について話し合う。【コミュニケーションを行う力】 2 学校内でのけがを防ぐ備えや工夫を探す。【進んで参加する態度・批判的に考える力・他者と協力する態度・コミュニケーションを行う力】 3 見つけたものを発表しあい、調べたことの共有化を図る。【コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度・批判的に考える力】 4 身の回りで自分たちでもできることを考え、実践する。【つながりを尊重する態度・進んで参加する態度】
3 ・ 4	I ねらい ・交通事故に関心を持ち、事故の原因や、防ぐ方法について進んで考えることができるようにする。 ・交通事故を起こしやすい行動や、道路の状況、車の走り方の特徴などについて調べ、事故を防ぐにはどのようにしたらいいか考えることができるようにする。 ・交通事故は人の行動や周りの環境がかかわって起こっていることを理解できるようにする。 ・交通事故を防ぐ安全な環境づくりについて知り、実生活に生かせるようにする。 II 学習内容・活動 1 資料を見て小学生の交通事故の原因について話し合う。【批判的に考える力・コミュニケーションを行う力】 2 車の走り方や構造上の特徴について知る。【多面的、総合的に考える力】 3 交通事故を防ぐためにはどうしたらよいか考える。【未来像を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力】 4 交通事故を防ぐ安全な環境づくりについて話し合う。【コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度】 5 学校内でのけがや事故を防ぐための呼びかけや交通標識を作成し、設置する。【つながりを尊重する態度・進んで参加する態度】
5	I ねらい ・簡単なけがの手当てに関心をもって、自分で手当てをしようとする意欲をもたせる。 ・けがの種類に応じた手当てや対処ができるようにする。

(2) 評価計画

	観点	評価の内容					
単元の評価規準	関心 意欲 態度	・日常生活でのけがに関心をもち、進んで原因を調べようとするとともに、けがの防止のしかたを考え、その実践に進んで取り組もうとしている。					
	思考 判断	・日常生活での事故やけがの原因には、どんな行動や環境がかかわっているかを考えている。 ・けがを防止するための危険予測やすばやい判断、それに基づく行動のしかたを考えている。					
	知識 理解	・日常生活でのけがの多くは、人の行動や心身の状態と環境が深くかかわって起こっていることを理解する。 ・簡単なけがの治療の手当てのしかたを知り、自分で手当てができる。					
活動における 具体の評価基準		評価の内容	1 時	2 時	3,4 時	5 時	評価
	関心 意欲 態度	①学校生活におけるけがに関心をもち、その原因を進んで調べようとしている。	○				
		②学校における安全な環境づくりに関心をもち、進んで学習に取り組もうとしている。		○			
		③交通事故の原因や防止するための環境づくりに関心をもち、進んで調べようとしている。			○		
		④簡単なけがの手当てに関心をもち、進んで学習に取り組んでいる。				○	
	思考 判断	①学校でのけがの原因について、どんな行動や環境がかかわっているか、心身の状態も含めて考えることができる。	○				
		②けがを防ぐための工夫や備えについて考え、身のまわりから見つけ出すことができる。		○			
		③交通事故を起こしやすい環境や道路の状況などについて調べ、事故を防ぐためにはどうしたらよいか考えることができる。			○		
		④けがの種類に応じて手当てのしかたを判断できる。				○	
	知識 理解	①学校生活におけるけがの原因と、防止の方法を理解している。	○				
		②学校におけるけがを防ぐための工夫や備えについて理解している。		○			
		③交通事故は人の行動や環境がかかわって起こっていることを理解する。			○		
		④正しい手当てのしかたを知り、簡単な手当てができる。				○	

6 本時の学習指導（2／5時）

(1) 目標

- ・学校生活における安全な環境づくりに関心をもち、進んで調べることができるようにする。

[関心・意欲・態度]

- ・けがを防ぐ工夫や備えをさがしたり、身のまわりで自分にもできることを考えたりすることができるようにする。

[思考・判断]

- ・学校におけるけがを防ぐための工夫や備えについて理解できるようにする。

[知識・理解]

(2) 展開 (通常の教科指導案)

学習内容・活動	教師の支援 (・) 評価 (●)
1 学校での安全を保つための工夫について考える。	学校における安全を保つ工夫の写真を例示する。
けがを防止するための備えや工夫について考えよう	
2 学校での安全を保つための工夫をさがす。 活動場所 1・2班・・・校庭 3・4班・・・廊下、階段 5・6班・・・体育館 7・8班・・・教室	- ワークシートを配付し、見つけたものを書き込むとともに写真に記録する。 - 活動の注意点を話し、班ごとに活動させる。 - ストップウォッチを渡し、活動時間を知らせて時間を見て行動するように指示する。 - 体育館、校庭、廊下・階段の順に巡回し、安全に活動できるようにするとともに、指導、評価を行う。 ●安全を保つ工夫や備えに関心をもち、見つけようとしている。(観察・ワークシート) 十分満足できる状況 (A) [関心・意欲・態度] - 安全を保つ工夫や備えを見つめようと、積極的に活動している。 努力を要する状況 (C) の児童への支援 (手立て) - 調べられないでいる児童には、ヒントを与え、考えを促す。 ●けがを防ぐ工夫や備えを見つけている。(観察・ワークシート) 十分満足できる状況 (A) [思考・判断] - 安全を保つ工夫や備えを複数見つけている。 努力を要する状況 (C) の児童への支援 (手立て) - 安全を保つ工夫や備えを見つめられないでいる児童には例を示し、どんなことに役立つものかを考えさせる。
3 調べたことを発表する。 予想される児童の反応 - ベランダの手すり ・窓枠のパイプ - サッカーゴールの防護布 - 廊下の通行区分 ・踊り場の鏡 他	児童が撮影してきた写真をプロジェクターで掲示して理解を促す。
4 身のまわりで自分にできることはなにか考える。 予想される児童の反応 - ロッカーや机のまわりを整頓し、通行のじゃまにならないようにする。 - 画びょうがとれそうになっていたり、釘が出ていたりしないか確認する。	本時の学習を振り返りながら、学校でのけがを防ぐ工夫や備え、自分たちでもできることについてわかったこと、考えたことをワークシートに書かせる。
5 本時のまとめをする。	●学校におけるけがを防ぐための工夫や備えについて、理解したことや自分の考えを書いている。(ワークシート) 十分満足できる状況 (A) [知識・理解] - 本時の学習でわかったことや考えたことに加えて、今後どうしていきたいかなど、自分の生活を振り返りながら書いている。 努力を要する状況 (C) の児童への支援 (手立て) - 書けずにいる児童には板書や資料を見せ、本時の学習を振り返りながら書かせるようにする。

(2) 本時の展開 (ESDの視点を取り入れた指導案)

学習内容・活動	教師の支援 (・) 評価 (●) ESDの視点を取り入れた指導の留意点 (★)
1 学校での安全を保つための工夫について考える。 けがを防止するための備えや工夫について考えよ	・学校における安全を保つ工夫の写真を例示する。 ★どこにあるもので、どのように安全に役立っているのかを考えさせる。 【批判的に考える力】
2 学校での安全を保つための工夫をさがす。 活動場所 1・2班・・・校庭 3・4班・・・廊下、階段 5・6班・・・体育館 7・8班・・・教室 〈手だて〉 安全に活動できるように巡回指導するとともに、けがの防止にどのように役立っているのかを考えさせる問いかけを行う	・ワークシートを配付し、見つけたものを書き込むとともに写真に記録する。 ・活動の注意点を話し、4～5人の班ごとに活動させる。 ★班内で意見を出し合い、協力しながらけがの防止のための工夫を探すようにさせる。 【他者と協力する態度・コミュニケーションを行う力】 ★どのように安全に関わっているのかを考えながら探すようにさせる。 【多面的、総合的に考える力】 ・ストップウォッチを渡し、活動時間を知らせて時間を見て行動するように指示する。 ・体育館、校庭、廊下・階段の順に巡回し、安全に活動できるようにするとともに、指導、評価を行う。 ●安全を保つ工夫や備えに関心をもち、見つけようとしている。 (観察・ワークシート) 十分満足できる状況 (A) [関心・意欲・態度] ・安全を保つ工夫や備えを見つめようと、積極的に活動している。 努力を要する状況 (C) の児童への支援 (手立て) ・調べられないでいる児童には、ヒントを与え、考えを促す。
3 調べたことを発表する。 予想される児童の反応 ・ベランダの手すり ・窓枠のパイプ ・サッカーゴールの防護布 ・廊下の通行区分 ・踊り場の鏡 他 〈手だて〉 説明が不足している場合は、助言を与え、より相手に伝わりやすい説明の仕方を考えさせ、実践させる。	●けがを防ぐ工夫や備えを見つけている。 (観察・ワークシート) 十分満足できる状況 (A) [思考・判断] ・安全を保つ工夫や備えを複数見つけている。 努力を要する状況 (C) の児童への支援 (手立て) ・安全を保つ工夫や備えを見つめられないでいる児童には例を示し、どんなことに役立つものかを考えさせる。 ★調べてきたことがほかの児童にもわかるように補足しながら発表させる。 【コミュニケーションを行う力】
4 身のまわりで自分にできることはなにか考え、実践する。	・児童が撮影してきた写真をプロジェクターで掲示して理解を促す。

予想される児童の反応 ・ロッカーや机のまわりを整頓し、通行のじゃまにならないようにする。 ・画びょうがとれそうになっていたり、釘が出ていたりしないか確認する。 〈手だて〉 ・安全点検表を提示する。 ・ワークシートを工夫し、事後の活動ができるようにする。 6 本時のまとめをする。 〈手だて〉 ・ワークシートを用いて事後活動を行う。	★安全点検の一覧表をもとに、自分の身のまわりでも簡単にできることはないか考えさせる。 【つながりを尊重する態度】 ★一つひとつ改善しながら、それによってどんなけがが防げるようになったか考えさせる。 【批判的に考える力】 ★今回の活動にとどまることなく、今後も継続していくようにさせる。 【進んで参加する態度】 ・本時の学習を振り返りながら、学校でのけがを防ぐ工夫や備え、自分たちでもできることについてわかったこと、考えたことをワークシートに書かせる。 ●学校におけるけがを防ぐための工夫や備えについて、理解したことや自分の考えを書いている。 (ワークシート) 十分満足できる状況 (A) [知識・理解] ・本時の学習でわかったことや考えたことに加えて、今後どうしていきたいかなど、自分の生活を振り返りながら書いている。 努力を要する状況 (C) の児童への支援 (手立て) ・書けない児童には板書や資料を見せ、本時の学習を振り返りながら書かせるようにする。 ★ワークシートの一部を家庭学習とし、学校外での工夫や備えにも目を向けさせ、次時への備えとするとともに、家庭との連携が図れるようにする。 【進んで参加する態度・つながりを尊重する態度】
---	---

7 ESD の視点を入れた本授業の指導のポイントと指導上の課題

(1) 指導のポイント

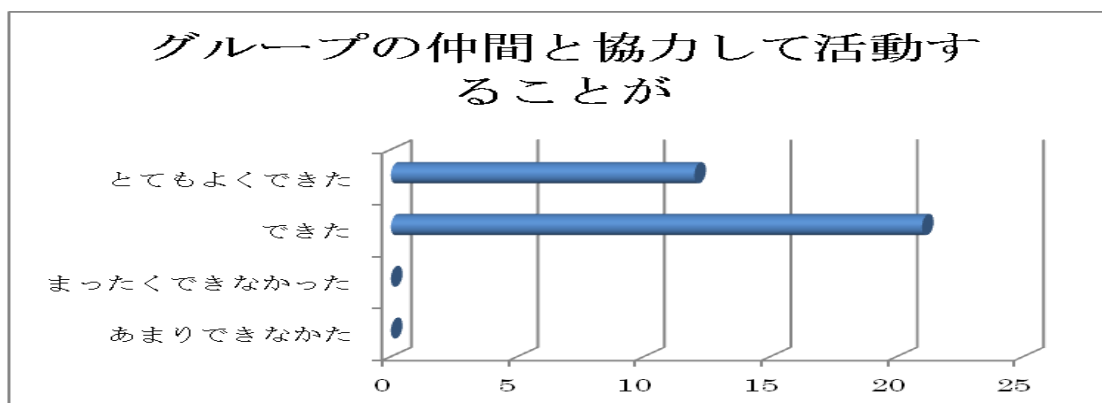
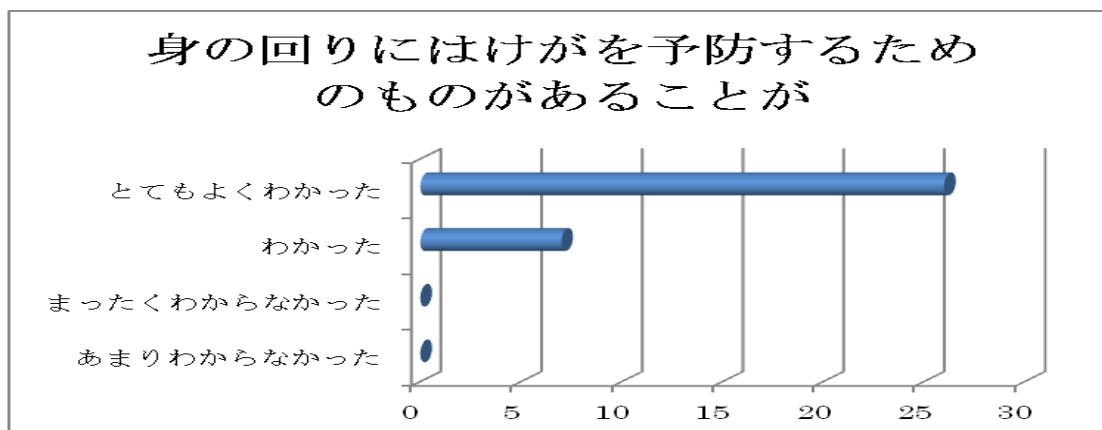
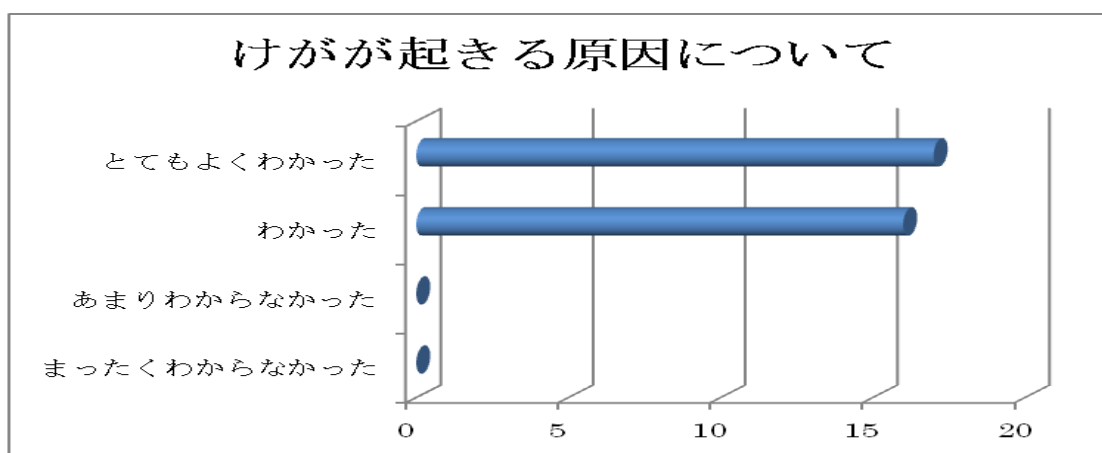
本時では、実際に学校敷地内を見て回り、けがの防止に関連する施設や設備を探すというフィールドワークを取り入れた。これは、普段何気なく見ているものを、けがの防止という視点を通して改めて捉え直すことで、物事を多面的、総合的に考える力を育てることが目的の一つである。同時に、他者と協力する態度や、コミュニケーション能力を培うことを目的としている。

(2) 効果の検証

- ・けがの防止について、具体的な例を挙げながら意見や感想を書ける児童が多かった。
- ・「けがを防止するものだけに頼るのではなく、自分でも意識してけがを防ぎたい」など、今後を見据えた感想が複数見られた。

- ・「他にも（学校外でも）けがの防止になるものをみつけた」など、視野が広がった様子が見られた。
- ・身の回りにはけがを予防するためのものを挙げるといふ問いに対し授業前では一人あたり平均 5.6 個であったのに対し、授業後は一人あたり平均 12.4 個と知識面でも大きな成果があった。
- ・事後アンケート結果

	とてもよく	わかった・できた	あまり	まったく
けがが起きる原因について	17名 51.5%	16名 48.5%	0名 0%	0名 0%
けがを予防するためのものがあることが	26名 78.8%	7名 21.2%	0名 0%	0名 0%
グループの仲間と協力して活動することが	12名 36.4%	21名 63.6%	0名 0%	0名 0%



児童の振り返りより

感想

- ・身の回りにはけがが起きやすいからこそ備えや工夫が必要だと思った。まさに「備えあればうれいなし」と感じた。

新たな気づき

- ・この学習をする前までは、とくに気にしていなかったけど、この学習をして（けがの防止に役立つ設備が）身近にあるということがわかった。
- ・気がつかないけど、大切で、なくてはならないものがわかった。
- ・けがが起きないためのものをさがすと、とてもいっぱいあるのがわかった。
- ・学校内や校庭などけがを予防するものがたくさんあって、気づいていない所もたくさん気をつかっていることがわかった。

今後への発展

- ・けがが防げそうなものはできるだけ防止できるようにしていきたい。
- ・けがを防ぐものにたよるばかりでなく、自分の意識でもけがを防止したい。
- ・わたしたちでまだ見つけられていないものもあると思うから、学校に来るときや帰るときもさがしたい。

(3) 指導上の課題

- ・時間内に内容を消化しきれなかった。モジュールなどを活用すべきであった。
- ・アンケート「グループの仲間と協力して活動することができましたか」において、「とてもよくできた」と回答した児童が、他の設問と比べて少なかった。協力や連携を意識させる手立てが不足していた。

8 資料

(1) 授業において児童が見つけたけがの防止に役立つ設備の記録（抜粋）



階段の手すり



扇風機の網



注意を促す掲示物



転倒防止金具



ベランダの手すり



支柱に巻いたクッション



防球ネット

(2) ワークシート

学校生活でのけがの防止 名前 _____ 学習をふりがえて																																																		
学校の中で、けがをしないように工夫されているところをさがそう <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">見つけた場所・・・</th> <th style="width: 33%;">見つけた場所・・・</th> <th style="width: 33%;">見つけた場所・・・</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>見つけたもの（言葉または絵で）</td> <td>見つけたもの（言葉または絵で）</td> <td>見つけたもの（言葉または絵で）</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr> <td>どんなけがを防止できるか</td> <td>どんなけがを防止できるか</td> <td>どんなけがを防止できるか</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>			見つけた場所・・・	見つけた場所・・・	見つけた場所・・・	見つけたもの（言葉または絵で）	見つけたもの（言葉または絵で）	見つけたもの（言葉または絵で）																						どんなけがを防止できるか	どんなけがを防止できるか	どんなけがを防止できるか																		
見つけた場所・・・	見つけた場所・・・	見つけた場所・・・																																																
見つけたもの（言葉または絵で）	見つけたもの（言葉または絵で）	見つけたもの（言葉または絵で）																																																
どんなけがを防止できるか	どんなけがを防止できるか	どんなけがを防止できるか																																																
家庭学習 家や道路、公園などにもけがを防ぐ工夫はないかな？ さがしてみよう。（家の人に聞いてもOK） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">見つけた場所・・・</th> <th style="width: 33%;">見つけた場所・・・</th> <th style="width: 33%;">見つけた場所・・・</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>見つけたもの（言葉または絵で）</td> <td>見つけたもの（言葉または絵で）</td> <td>見つけたもの（言葉または絵で）</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr> <td>どんなけがを防止できるか</td> <td>どんなけがを防止できるか</td> <td>どんなけがを防止できるか</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>			見つけた場所・・・	見つけた場所・・・	見つけた場所・・・	見つけたもの（言葉または絵で）	見つけたもの（言葉または絵で）	見つけたもの（言葉または絵で）																						どんなけがを防止できるか	どんなけがを防止できるか	どんなけがを防止できるか																		
見つけた場所・・・	見つけた場所・・・	見つけた場所・・・																																																
見つけたもの（言葉または絵で）	見つけたもの（言葉または絵で）	見つけたもの（言葉または絵で）																																																
どんなけがを防止できるか	どんなけがを防止できるか	どんなけがを防止できるか																																																

保健体育 学習のふりかえり

名前 ()

1 けがが起きる原因についてわかりましたか。

とてもよくわかった わかった あまりわからなかった わからなかった

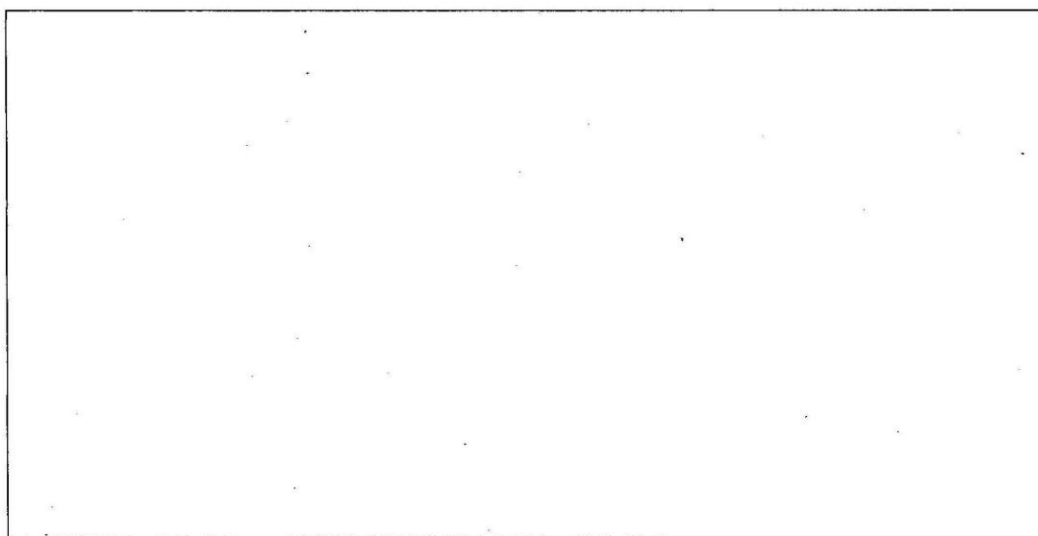
2 身の回りには、けがを予防するためのものがあることが分かりましたか。

とてもよくわかった わかった あまりわからなかった わからなかった

3 グループの仲間と協力して、活動することができましたか。

とてもよくできた できた あまりできなかった できなかった

4 学習を終えて、わかったこと、がんばったこと、感想を書きましょう。



学 年	教科等	学習指導要領
小学校 4 年	総合的な学習の時間	(学校独自のカリキュラム)

1 単元名 エネルギーについて考えよう

2 単元について

本単元で扱う「エネルギー問題」は、ESDの理念、とりわけ「環境の保全」、「経済の開発」、「社会の発展」に直結するものである。また、地球的視野を児童に持たせることもできる。これらの理念を具現化するために、今回、総合学習の新カリキュラムとして計画した。

小学校第4学年理科では電気の学習で「モーター」や「光電池」を扱う。このことは、電力エネルギーに直結する。本校では校舎の屋上に大規模なソーラーパネルも設置されているが、設置当初は関心が高かったものの、現在では当たり前のものとなってしまった。

東日本大震災以降、電力をはじめとするエネルギー問題がより重要視される今、児童にエネルギー問題について理解させ、身近なところからエネルギーを大切に使うとする態度を身につけさせたい。

特に本単元では、児童が互いに協力し合って探求し、自発的に体験や実践ができるよう、教材や学習活動の工夫を試みた。

3 単元と持続可能な社会づくりの構成概念と学習指導で重視する能力・態度

構 成 概 念	重 視 す る 能 力 ・ 態 度
I 多様性 エコ生活の実践方法にはいろいろなものがある。	①批判的に考える力 インターネットの情報をよく分析し、自分の生活に役立つ情報のみを取り出す。
II 相互性 人間は自然からエネルギーの恩恵を受けるとともに、日本では海外からエネルギー資源を輸入している。	②未来像を予測して計画を立てる力 エコ生活の実践では、計画性を持って実際にできることを行う。
III 有限性 化石燃料等のエネルギー資源は有限である。	③多面的、総合的に考える力 様々な情報を受けて、広い視野に立って物事を考える。
IV 公平性 エネルギー資源の問題は自国のみならず、地球規模の問題である。	④コミュニケーションを行う力 自分の体験を分かりやすく他者に伝え、また、他者の考えを元に自分の考えを深める。
V 連携性 環境問題解決のために、皆で動こうとする。	⑤他者と協力する態度 仲間と相談しながらチームで体験活動に取り組む。
VI 責任性 エネルギーを未来にも残すため、一人一人が責任あるエネルギーの使い方をする。	⑥つながりを尊重する態度 自分の日々の生活がエネルギー問題と深く関わっていることに気づく。 ⑦進んで参加する態度 自分が決めたことを最後までやり遂げることができたか。

4 単元目標

エネルギーについて関心を持ち、地球市民としての自覚を持ち、エネルギーを大切に使うという態度を養う。

5 単元の指導計画と評価計画

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者と社会との関わりに関する こと
調査活動や体験活動に関心を持ち、適切な情報収集や分析を行い、活用することができる。また、効果的な発表ができる。	自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しながら、自分自身の生活を見つめ直し、学習内容を実生活に生かそうとしている。	エネルギー問題について学ぶことで自分と社会とのつながりに気づき、他の児童との意見交流等を通して自分の考えを深めることができる。

時	学習活動・学習内容	学習内容に即した評価・指導の留意点
1・2	ソーラークッカーを自分たちで作製、実際に体験することで、太陽光そのものがエネルギーになることを実感する。 【Ⅱ相互性】【Ⅴ連携性】	- 単元の学習過程の見通しを持たせる。 - 理科の光電池の学習と関連付けるとともに、太陽そのものがエネルギーとなることを体験を通して理解させる。 ◆仲間と協力し、積極的に体験活動ができたか。 【⑤他者と協力する態度】
3・4 (本時)	日本のエネルギー事情について学習し、エコ生活の仕方について調べ、家庭での実践計画を立てる。 【Ⅱ相互性】【Ⅲ有限性】【Ⅳ公平性】	- エネルギー事情に関するデータを児童に分かりやすく紹介する。 - インターネットで調べる時、キーワードを例示し、児童が目的の情報に行き着くよう支援する。 ◆自分が必要な情報を収集し、エコ生活の計画立案に生かすことができたか。 【①批判的に考える力】 【②未来像を予測して計画を立てる力】
5・6	エコ生活の実践結果をを基に、発表準備、および、発表する。 【Ⅰ多様性】【Ⅴ連携性】	自分の実践の失敗談も有用な発表であることに気づかせる。 ◆自分の体験からの学びを分かりやすく発表できたか。 【④コミュニケーションを行う力】 【③多面的、総合的に考える力】
7	今後のエネルギーとの関わり方について考え、まとめる。 【Ⅵ責任性】	自分が「地球市民」であるという自覚を持たせる。 ◆エネルギー問題が自分の生活と密接にかかわっていることに気づき、エネルギーに関わる社会の一員としての自覚を持つことができたか。 【⑥つながりを尊重する態度】 【⑦進んで参加する態度】

6 本時の学習指導

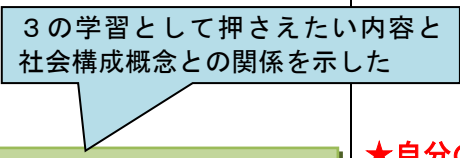
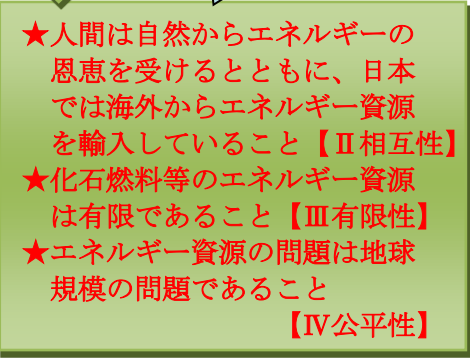
(1) 目標（通常の評価観点）

エネルギー事情を理解し、エネルギーを大切にしようとする意識を持たせる。

(2) 本時の展開（通常の手導案）

過程	学 習 活 動	指導上の留意点○・評価◆	時間
導入	1 前時の学習内容を想起し、本時のねらいを確認する。 エネルギーについて知り、自分にできることを考えよう。	○前時のソーラークッカーの体験についてふれ、電気を使わなくても、太陽光そのものがエネルギーであることを再度確認する。	5 分
展開	2 日本のエネルギー事情について教師から説明を受ける。	○エネルギー資源の輸入先等のデータをスライドで示し、専門用語については、児童に逐次、確認しながら説明したい。	2 0 分
	3 エネルギー事情について気づいたことを話し合い、家庭におけるエコ生活の重要性に気づく。	○エネルギーは世界と関わることに気づかせる。 ◆日本人のエネルギー消費量の多さに気づき、日常生活における改善が必要であることに気づく。【他者と社会との関わりに関すること】 (発言分析)	1 5 分
	4 エコ生活のアイデアについて、インターネットで情報収集する。	○インターネットで情報を探す際、キーワードを例示し、児童が探したい情報にたどり着くよう支援する。	3 0 分
	5 家庭でのエコ生活の実践計画（1週間）を立てる。	◆自分自身の生活を見つめ、エコの観点で生活改善策を見出すことができる。 【自分自身に関すること】（プリント観察）	1 5 分
まとめ	6 家庭での実践上の留意点を聞き、今後の学習の見通しを持つ。	○実践内容のプリント記入方法を説明し、その内容を元に実践報告会を行う旨知らせておく。 ○連絡帳を活用し、保護者への協力依頼を行う。	5 分

(3) 本時の展開 (ESDの視点を入れた指導案)

過程	学 習 内 容・活 動	指導上の留意点○・評価◆ ★ESD との関わり	時間
導 入	1 前時の学習内容を想起し、本時のねらいを確認する。 エネルギーについて知り、自分にできることを考えよう。	○前時のソーラークッカーの体験についてふれ、電気を使わなくても、太陽光そのものがエネルギーであることを再度確認する。	5 分
展 開	2 日本のエネルギー事情について教師から説明を受ける。	○エネルギー資源の輸入先等のデータをスライドで示し、専門用語については、児童に逐次、確認しながら説明したい。	2 0 分
	3 エネルギー事情について気づいたことを話し合い、家庭におけるエコ生活の重要性に気づく。   3の学習として押さえない内容と社会構成概念との関係を示した	◆日本人のエネルギー消費量の多さに気づき、日常生活における改善が必要であることに気づく。【他者と社会との関わりに関すること】(発言分析)	1 5 分
	 ★人間は自然からエネルギーの恩恵を受けるとともに、日本では海外からエネルギー資源を輸入していること【Ⅱ相互性】 ★化石燃料等のエネルギー資源は有限であること【Ⅲ有限性】 ★エネルギー資源の問題は地球規模の問題であること【Ⅳ公平性】	★自分の日々の生活がエネルギー問題と深く関わっていることに気づく。 【⑥つながりを尊重する態度】 ★仲間と相談しながらチームで考えを導き出す。 【⑤他者と協力する態度】 ★自分の考えを分かりやすく他者に伝え、また他者の考えを聞いて自分の考えを深める。 【④コミュニケーションを行う力】	3 0 分
	4 エコ生活のアイデアについて、インターネットで情報収集する。	○インターネットで情報を探す際、キーワードを例示し、児童が探したい情報にたどり着くよう支援する。 ★インターネットの情報をよく分析し、自分に役立つ情報のみを取り出すよう助言する。 【①批判的に考える力】	1 5 分
	5 家庭でのエコ生活の実践計画(1週間)を立てる。	◆自分自身の生活を見つめ、エコの観点で生活改善策を見出すことができる。 【自分自身に関すること】(プリント観察) ★計画に当たっては、継続的かつ実際にできることをポイントに考えさせる。 【②未来像を予測して計画を立てる力】	5 分
ま と め	6 家庭での実践上の留意点を聞き、今後の学習の見通しを持つ。	○実践内容のプリント記入方法を説明し、その内容を元に実践報告会を行う旨知らせておく。 ○連絡帳を活用し、保護者への協力依頼を行う。	5 分

6 ESDの視点を入れた本授業の指導のポイントと指導の課題

(1) 指導のポイント

ESD学習の過程

「関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成」の具現化のために

- ・エネルギーを子どもに体感させるため、本単元の最初に「ソーラークッカー」を体験させることが大変効果的である。
- ・エネルギー事情を学習する場面、とりわけ電力需要量の変遷では、「祖母の世代」「親の世代」「今」と時点を決めて比較させると、児童が関心を持って理解できる。
- ・節電チャレンジ体験では、「地球の資源エネルギーに限りがある」ことを理解させたうえで取り組むと、児童のやる気が高まる。

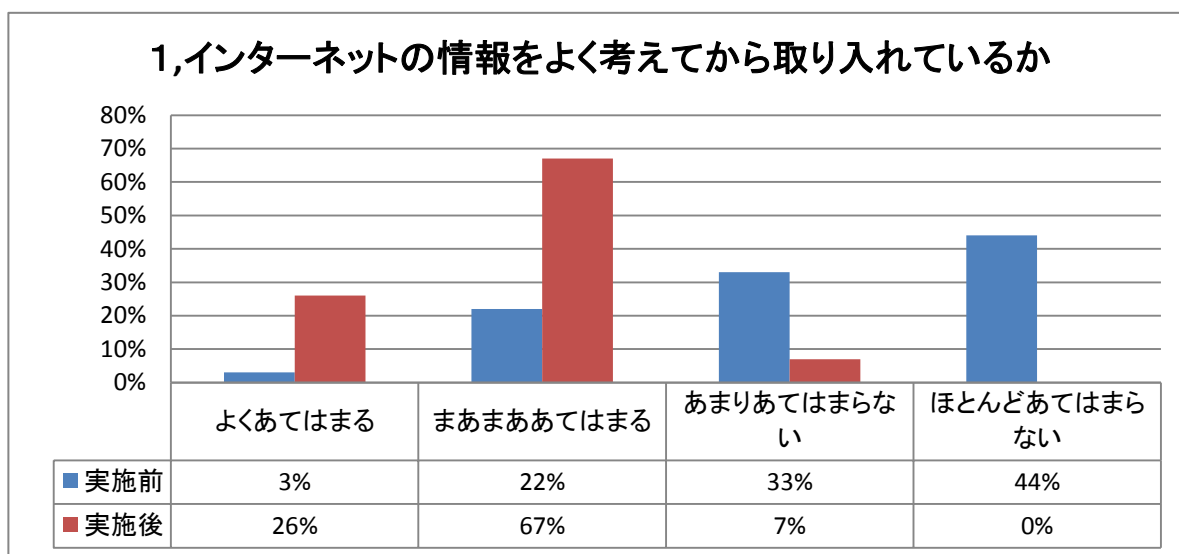
(2) 効果の検証

本単元では、以下に挙げる「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の観点について、事前・事後の児童の意識変容について検証した。その理由は、①本学習が児童の日常生活に生かされたいこと、②児童の自主的実践態度を重んじたいこと、をねらったからである。

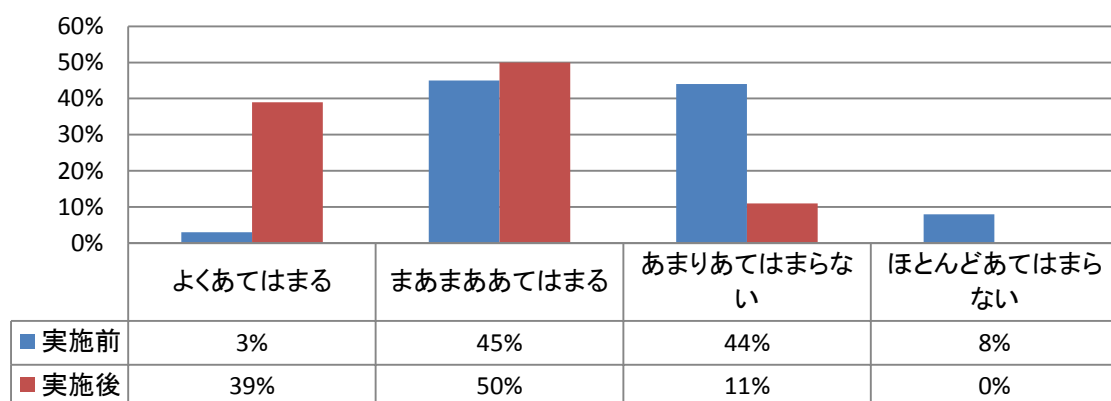
本単元学習の実施前・後の児童の意識変容の結果は、下記の通りであった。

	児 童 へ の 質 問 内 容		よくあてはまる	まあまああてはまる	あまりあてはまらない	ほとんどあてはまらない
1	インターネットの情報をよく考えてから取り入れているか。 【①批判的に考える力】	実施前	3%	22%	33%	44%
		実施後	26%	67%	7%	0%
2	エネルギー問題が自分の生活と深くかかわっていることを意識しているか 【⑥つながりを尊重する態度】	実施前	3%	45%	44%	8%
		実施後	39%	50%	11%	0%
3	自分で決めたことを最後までやり遂げることができるか。 【⑦進んで参加する態度】	実施前	5%	24%	23%	48%
		実施後	33%	64%	0%	3%

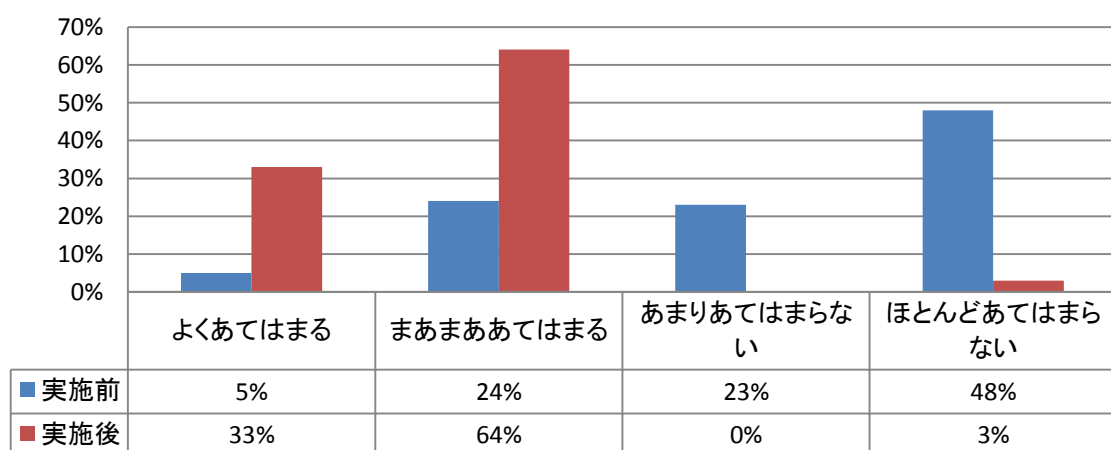
(調査協力児童数 39名)



2、エネルギー問題が自分の生活と深くかかわっていることを意識しているか



3、自分で決めたことは最後までやりとげることができる



また、授業後の児童の感想の分析は、以下のとおりである。

【Ⅰ多様性】

- ・今までエコはやってきたけれど、太陽の光そのものが見えることにびっくりした。
- ・エコについてインターネットで調べると、自分の知らない方法がたくさん出ていて勉強になった。

【Ⅱ相互性】

- ・私たちは自然のものを使っているのも、もっと大切にしていきたい。

【Ⅲ有限性】

- ・私はソーラークッカーやエネルギーの勉強を通して、電気を大切にしようと思った。なぜなら、このままでは電気を作る材料がなくなってしまうから。

【Ⅳ公平性】

- ・ぼくたちは当たり前のように電気を使っているけれど、エネルギーの勉強をしてそれではいけないと気づいた。

【Ⅴ連携性】

- ・エコが大切なことがわかったので、これからはみんながもっとしてくれればいいなと思った。

【VI責任制】 ・電気を無駄にしないために、自分たちで努力しなければいけないことに気づいた。
【①批判的に考える力】 ・ソーラークッカーはすごいけれど、時間もかかってしまう。 ・エコもしたけれど、今までの自分の生活で変えられない部分もあった。 ・インターネットにたくさん出ている中で、自分にできそうなことから始めた。
【②未来像を予測して計画を立てる力】 ・今電気が足りなくなっているから、これからはもっとエコな生活をしなければいけないと思った。 ・このままの生活をすると、ぼくたちがおじいちゃんになるころには、エネルギーが足りなくなってしまうので、エコについてもっと真剣に取り組みたい。 ・毎日、無理なくエコに取り組んでいきたい。
【③多面的、総合的に考える力】 ・いろいろなことを実験したり調べたりして、エコについて詳しくなれた。
【④コミュニケーションを行う力】 ・インターネットで調べたり、友達から教わったりして自分のエコができた。 ・お母さんと相談しながらエコができて楽しかった。
【⑤他者と協力する態度】 ・ぼくは自分があまりエコな生活ができなかったから、今度はもっと協力したい。
【⑥つながりを尊重する態度】 ・今まで「節電」は知っていたけれど、これからはもっと本気で節電に協力しなければと思った。
【⑦進んで参加する態度】 ・ソーラークッカー等の実験を通して、エコが楽しくなった。 ・いつもはエコチェックシートが配られてもやらなかったが、今回は一生懸命やった。

この結果から、本学習を通してインターネットの情報の中から、自分に必要なものを選び取って活用する体験ができたこと、エネルギーを自分のこととして身近に考えられるようになったこと、さらには、自分で決めて行動しようとする児童が増えたことが分かった。

エコ生活は自分の生活と直結することから、誰もが関心を持って、また、実践しやすいという利点がある。また、周りの友達や家族など、誰とでも共通の話題として話し合うことができ、児童にとって取り組みやすい単位であった。

また当初は、エネルギーは小学生には難しいかと思われたが、理科の学習と関連付けたことで児童はスムーズに学習に入ることができた。「節電」を児童は知っているものの、日本の電力事情は当然知っておらず、児童にとっては有意義な学習となったこともよかった。

今後の児童の節電等の日常生活における行動が、より積極的になることが期待できる。

(3) 指導上の課題

- ・エネルギーの学習を展開していく中で、児童からは「発電の仕組み」「石油の成り立ち」等、素朴な疑問がいくつも出てきた。そのため、教師の事前学習が必要である。
- ・エネルギー学習を学校の年間計画でどのように位置づけていくか、理科や、家庭科、社会などあらゆる教科と関連させて学習できることから、学校全体の教育計画における授業の展開が求められる。
- ・エネルギーの学習はESDの主要な学習分野であることから、エネルギー教育を研究・推進していくことがESDの普及にもつながると思われる。教師がエネルギー教育を含むESDに関する指導力が、今後、日常の様々な学習場面で生かされ、未来志向型の価値観を持った次世代を担う人材の育成につながるものと考えられる。

8 その他：資料、授業プリント、参考文献等

- ・大隅良典他『わくわく理科4』（新興出版社啓林館，2013）
- ・ソーラークッカー製作に関するHP
<http://www.andrew.ac.jp/sociology/teachers/iwao/eco/solarcook3.html>
- ・電力事情に関するHP
<http://www.fepc.or.jp/enterprise/jigyoku/japan/index.html>

【事前アンケート内容】

4年 組 ()
①あなたは日ごろ、インターネットの情報をよく考えてから取り入れていますか。 (よくあてはまる・まあまああてはまる・あまりあてはまらない・ほとんどあてはまらない)
②あなたは、エネルギー問題が自分の生活と深くかかわっていることを知っていますか。 (よくあてはまる・まあまああてはまる・あまりあてはまらない・ほとんどあてはまらない)
③あなたは日ごろ、自分で決めたことを最後までやり遂げることができますか。 (よくあてはまる・まあまああてはまる・あまりあてはまらない・ほとんどあてはまらない)

【事後アンケート内容】

4年 組 ()
①あなたは今回の学習を通して、インターネットの情報をよく考えてから取り入れるようになりましたか。(よくあてはまる・まあまああてはまる・あまりあてはまらない・ほとんどあてはまらない)
②あなたは今回の学習を通して、エネルギー問題が自分の生活と深くかかわっていることが分かりましたか。(よくあてはまる・まあまああてはまる・あまりあてはまらない・ほとんどあてはまらない)
③あなたは今回の学習を通して、自分で決めたことを最後までやり遂げることができましたか。 (よくあてはまる・まあまああてはまる・あまりあてはまらない・ほとんどあてはまらない)
④今回の学習の感想を書きましょう。 ()

電気エコにチャレンジしよう

4の ()

ほくの・わたしのチャレンジしたいこと

その理由

写真

1週間チャレンジ

できたら○、できなかったら× ↓

月 日 曜日

月 日 曜日

月 日 曜日

月 日 曜日

月 日 曜日

月 日 曜日

月 日 曜日

チャレンジして気づいたこと

友達におすすめPR

おすすめ度



(2) 中学校指導事例

学年	教科等	学習指導要領
1 学年	外国語（英語）	(3) 言語材料 エ 文法事項 (ア) 文 d 助動詞 (can) で始まるもの

1 題材名 Sunshine English Course 1 PROGRAM 8 Origami

2 題材について

(1) 教材観

本課は大介が日本の伝統文化でもある得意な折り紙についてクラスメイトに紹介する場面である。折り紙について登場人物たちが対話している形式であるため、自然な対話を通して慣用表現などの意味や使い方についても確認できる。

言語材料としては can が導入されるが、助動詞はここで初めて扱われる。自分のことについて表現したり、生徒同士での問答をしたりしながら使い方に慣れ、自己表現につながるようにしたい。自分ができることを英語で相手に伝えられると、英語で自己表現することにいっそう喜びを感じられるであろう。さらに、相手にできることやできないことをたずねたりする対話活動に発展させていくこともできる教材である。

また、“How do you ～?” を使い、「どんなふうに～しますか。」とやり方をたずねる疑問が扱われており、“How do you spell ～?” や “How do you say ～ in English?” などは非常に有効な表現である。普段から授業の中でも使用場面を作り、実際に使えるようにしたい。

(2) 生徒観

本学級は、休み時間と授業時間のけじめがついており、落ち着いた環境の中で授業が進められる。男女の仲がよく、失敗を恐れず発言できる雰囲気もあり、英語の指示に対しても英語で反応を示せるようになってきた。授業に対しても前向きで、言語活動にも楽しんで取り組んでいる。一方、英語を書くことに慣れておらず、すでに苦手意識をもっている生徒もいるので、身近な話題で活動を行うなど楽しく学べる工夫を心がけたい。

(3) 指導観

この課では、自分自身を紹介したり、インタビューによって相手を知る活動を取り入れるなどし、生徒同士で学び合う機会を増やし、生徒の学習意欲を喚起させるような活動や指導の工夫に努める。四技能をうまく織り交ぜ、教師の can、How ～? を用いた発話はもちろん、生徒の使用場面を多く設定し、その運用を通して言語材料の定着を図りたい。また、表情やアイコンタクトなどコミュニケーションの基本を押さえながら英語で会話することの喜びを感じてほしい。

E S D との関連については、①他者と協力して、新しい言語材料が含まれた英文を音読練習させる（他者と協力する態度の育成）、②自分の考えをまとめて簡潔に伝え、積極的にコミュニケーションを行うよう働きかける（コミュニケーションを行う力の向上）、③仲間の意見を聞いて、周りに助けられて自分がいることを実感させる（つながりを尊重する態度の育成）を意識したい。

3 題材と持続可能な社会づくりの構成概念と学習指導で重視する能力・態度の関係

構成概念	重視する能力・態度
I 多様性 ・人にはそれぞれいろいろな能力があること	④コミュニケーションを行う力 自分の特技を伝えるとともに、他者の能力を尊重し、積極的にコミュニケーションを行う
II 相互性 ・人と人とが互いに関わり合っていること	⑤他者と協力する態度 他者と協力してものごとを進める
V 連携性 ・自分と異なる立場や個性を大切にすること	⑥つながりを尊重する態度 周りに助けられて自分がいることを実感する

4 題材の目標

- (1) 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
 (2) can や How～? を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。【外国語理解の能力】【外国語表現の能力】

5 題材の指導計画と評価計画

時間	学習活動	評価の観点				評価規準	評価方法
		関	表	理	知		
1 (本時)	・can を使って「できること」「できないこと」を伝えることができる。		○			○ (適切な発話) can と can't を使って、「できること」と「できないこと」を正しく話すことができる。〈S〉	行動観察 ワークシート
2	・セクション1の本文を扱う。			○		○ (適切な読みとり) あらすじや大切な部分を読み取ることができる。〈R〉	ワークシート
3	・Can you～? を用いて相手が「できること」をたずねたり、適切に応答できたりする。		○			○ (適切な発話) 場面や状況にふさわしい表現を用いて話し、尋ねられたことに対して適切に応答することができる。〈S〉	行動観察
4	・How～? を用いてやり方をたずねたり、それに答えたりすることができる。				○	○ (言語についての知識) How～? の文と応答の形・意味・用法を理解している。	ワークシート
5	・セクション2の本文を扱う。	○				○ (言語活動への取組) 積極的に音読している。〈R〉	行動観察
6	・セクション3の本文を扱う。	○				○ (言語活動への取組) 積極的に音読している。〈R〉	行動観察

6 本時の学習指導

- (1) 目標
 ・can を使って「できること」「できないこと」を伝えることができる。【外国語表現の能力】
 ・相手の「できること」「できないこと」を正しく聞き取ることができる。【外国語理解の能力】

(2) 展開 (通常の学習指導案)

過程	学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ◆評価【評価観点】(評価方法)
ウォームアップ/ 5分	あいさつ 英語の歌	- 英語であいさつをする。 - 簡単な問答を行う。 - 今月の歌を歌う。	○チャイム前着席、授業準備の徹底 ○大きな声で挨拶をさせる。 ○大きな声で英語の歌を歌わせる。 ○明るく、楽しい雰囲気をつくる。
導入 ／ 10分	基本文の導入	・ can を使った英文を聞く。 ・ can の意味を理解する。 ① (ペンギンの絵) Look at this picture. A penguin is a bird, but it can't fly. It can swim. ② (カエルの絵) Look at this picture. A frog can't fly, but it can jump. It can also swim. ③ (ダチョウの絵) Look at this picture. An ostrich can't fly. It can run very fast. ・ 本時のねらいを確認する。 本時のねらい ① can を使って「できること」「できないこと」を伝えることができる。 ② 相手の「できること」「できないこと」を正しく聞き取ることができる。	○教師が英語で can の導入を行う。 ○絵で視覚に訴えながら進める。
展開 ／ 25分	聞き取り 対話練習 コミュニケーション活動	・ 「聞いてみよう」を行う。 ・ 「言ってみよう」の音読練習をする。 Kenta can speak Japanese. Emily can play soccer. Bill can play the piano. ・ can と can't を使って、自分が「できること」と「できないこと」を相手に伝える。 - 例1) A: I can ski, but I can't skate. - 例2) B: I can play the guitar, but I can't play the piano. ・ 相手が「できること」「できないこと」を聞き取ってメモをとる。	○絵について理解させてから行う。 ○活動を確実に理解させてから行う。 ○積極的にコミュニケーション活動が行われるよう雰囲気作りを行う。 ○「できること」と「できないこと」の両方に意識させて活動を行う。 ◆ can を使って「できること」「できないこと」を伝えることができる。 【外国語表現の能力】(観察) ◆ 相手の「できること」「できないこと」を正しく聞き取ることができる。 【外国語理解の能力】 (観察・ワークシート)
まとめ ／ 10分	まとめ あいさつ	・ 「書いてみよう」を行う。 ・ 板書を書き写す。 ・ 宿題を確認する。 ・ 英語であいさつをする。	○巡回しながら正しく書けているかを確認する。 ○大きな声で挨拶をさせる。

(3) 本時の展開 (ESDの視点を入れた学習指導案)

過程	学習活動	学習内容	○指導上の留意点★ESDとの関わり ◆評価【評価観点】(評価方法)
ウォームアップ/ 5分	あいさつ 英語の歌	- 英語であいさつをする。 - 簡単な問答を行う。 - 今月の歌を歌う。	○チャイム前着席、授業準備の徹底 ○大きな声で挨拶をさせる。 ○大きな声で英語の歌を歌わせる。 ○明るく、楽しい雰囲気をつくる。
導入/ 10分	基本文の導入	- can を使った英文を聞く。 - can の意味を理解する。 ① (ペンギンの絵) Look at this picture. A penguin is a bird, but it can't fly. It can swim. ② (カエルの絵) Look at this picture. A frog can't fly, but it can jump. It can also swim. ③ (ダチョウの絵) Look at this picture. A ostrich can't fly. It can run very fast. - 本時のねらいを確認する。 本時のねらい ①can を使って「できること」「できないこと」を伝えることができる。 ②相手の「できること」「できないこと」を正しく聞き取ることができる。	○教師が英語で can の導入を行う。 ○絵で視覚に訴えながら進める。
展開/ 25分	聞き取り 対話練習 コミュニケーション活動	「聞いてみよう」を行う。 「言ってみよう」をペアで協力して音読練習する。 Kenta can speak Japanese. Emily can play soccer. Bill can play the piano. 「使ってみよう」を元に、友だちと「できること」「できないこと」を発表しあう。 - ワークシートに、インタビュー結果をまとめる。 例1) A: I can ski, but I can't skate. How about you ? B: I can dance, but I can't make curry. 例2) A: I can play the guitar, but I can't play the piano. How about you ? B: I can speak English, but I can't speak Chinese. - 教師が can を使った英文を提示し、それができる場合は手を挙げる。 I can make curry. I can ski very well. I can ran fast. I can do magic. など	○絵について理解させてから行う。 ○活動を確実に理解させてから行う。 ★⑤他者と協力して、新しい言語材料が含まれた英文を音読練習する 【他者と協力する態度】 ○積極的にコミュニケーション活動が行われるよう雰囲気作りを行う。 ○「できること」と「できないこと」の両方に意識させて活動を行う。 ★④自分の特技を伝えるとともに、他者の能力を尊重し、積極的にコミュニケーションを行う 【コミュニケーションを行う力】 ★⑥仲間の「できること」を聞いて、周りに助けられて自分ができることを実感する 【つながりを尊重する態度】 ◆can を使って「できること」「できないこと」を伝えることができる。 【外国語表現の能力】(観察) ◆相手の「できること」「できないこと」を正しく聞き取ることができる。 【外国語理解の能力】(観察・ワークシート) ○can を使った英文の意味を理解しているかどうかを確認する。
まとめ/ 10分	まとめ あいさつ	「書いてみよう」を行う。 - 板書を書き写す。 - 宿題を確認する。 - 英語であいさつをする。	○巡回しながら正しく書けているかを確認する。 ○大きな声で挨拶をさせる。

7 ESDの視点を入れた本授業の指導のポイントと指導上の課題

(1) 指導のポイント（展開部分）

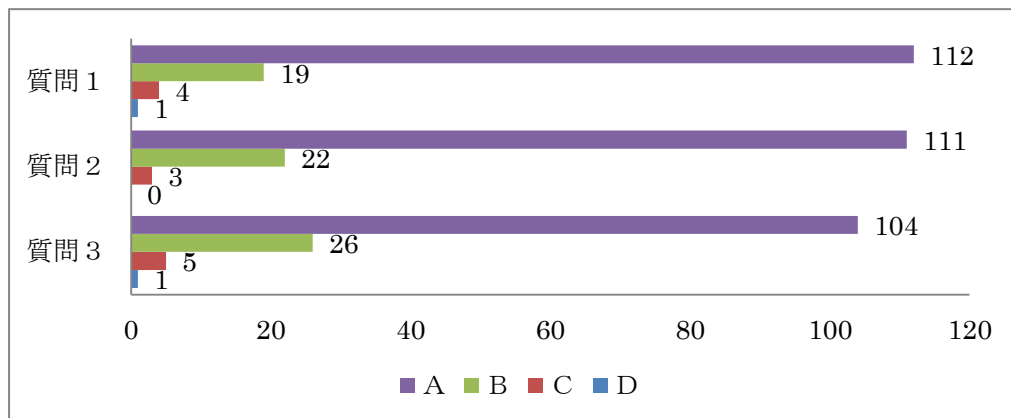
- ・他者と協力して、新しい言語材料（can）が含まれた英文を音読練習させる。
- ・自分の特技を伝えるとともに、他者の能力を尊重し、積極的にコミュニケーションを行うよう働きかける。
- ・仲間の「できること」を聞いて、周りに助けられて自分がいることを実感させる。

(2) 効果の検証

ESDの視点を取り入れた授業を行った後、生徒（4クラス 136名）にアンケートを実施した。アンケートの内容は以下のとおりで質問1～10までである。評価はA「よくできた」、B「できた」、C「あまりできなかった」、D「全くできなかった」の4段階で、人数で示してある。

【構成概念について】

- 質問1 canを使った英文で仲間と会話することにより、人にはそれぞれいろいろな能力があるということを知ることができた。【多様性】
- 質問2 「できること」と「できないこと」を伝え合うことによって、人と人との互いにに関わり合っていることが実感できた。【相互性】
- 質問3 仲間の能力を知ることによって、自分と異なる立場や個性を大切にしようという気持ちがうまれた。【連携性】



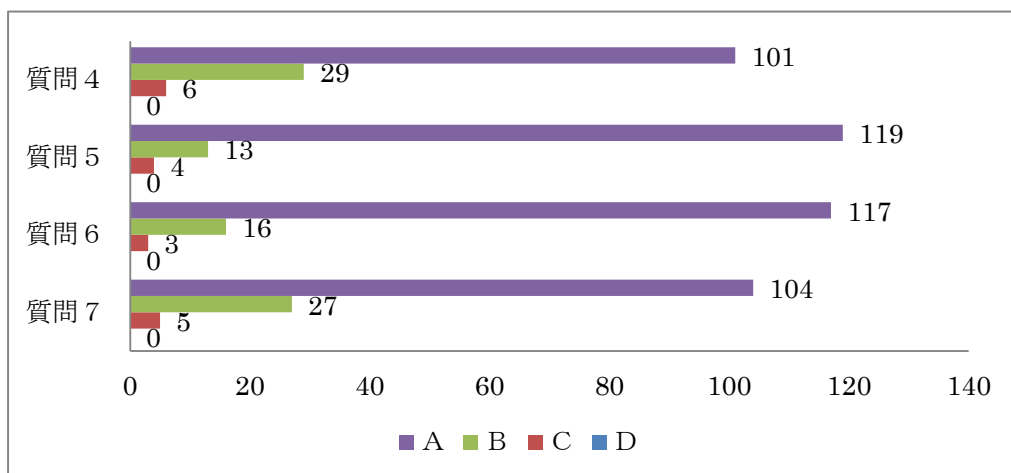
【重視する能力・態度について】

- 質問4 canを使い、自分の特技を積極的に伝えることができた。
- 質問5 仲間の「できること」「できないこと」をしっかりと聞いてあげた。

【コミュニケーションを行う力】

- 質問6 仲間と協力して、「言ってみよう」のペア練習ができた。【他者と協力する態度】
- 質問7 仲間の特技を聞くことにより、周りに助けられて自分がいることを実感できた。

【つながりを尊重する態度】



【生徒の感想】

質問 8 英語の授業でコミュニケーション活動をする利点は何だと思いますか。

- ・積極的に意見交換をすることによって、人の輪が広がる。
- ・自分の考えを表現することができ、相手のこともよく知ることができる。
- ・コミュニケーションをとることで、友達とより深い関係がつけられると思う。
- ・仲間との交流が深められて、仲間の気持ちもわかるようになる。

質問 9 英語の授業で、ペアで協力したり、班で発表したりすると、どんな力が身につくと思いますか。

- ・仲間と協力する態度や、お互いに教え合うことの大切さが身につくと思う。
- ・相手のことを考えながら行動する力が身につく。
- ・相手の考えを知ることができるし、仲間と共に活動する力が身につくと思う。
- ・お互いの話をしっかり聞いてあげる力。相手に自分の話を伝える力。

質問 10 英語でのコミュニケーション活動や、ペアでの活動をやっている感想を書いてください。

- ・たくさんの人とふれあうことで、クラスメイトとのつながりを感じることができ、楽しく英語を学べるのでいいと思う。
- ・相手のことをよく知り、自分の考えを表現することで、前よりも積極的になった。
- ・楽しく活動しているので、英語でのコミュニケーション能力が上達したと思う。
- ・普段、話をしないような人とも英会話が楽しめるので、英語の活動は好きです。

(3) 指導上の課題

アンケート結果を分析してみると、全ての質問においてA「よくできた」、B「できた」の割合が95%を超えており、ESDの視点に立った学習指導を行うことで、「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」は確実に身につくと考えられる。生徒たちもペアで協力し、コミュニケーション活動（インタビュー）に積極的に参加していた。豊かな感性や表現力、コミュニケーション能力が育成されると実感できた。班やグループの仲間と励ましながら活動することで、授業にも前向きに取り組んでいる姿が見られ、学力向上も期待できる。

課題点としては、仲間の意見を聞こうとしなかったり、仲間と励まし合ってグループで活動する場面で同調しない態度をとったりする生徒がいることである。望ましくない態度が現れることのないよう、授業内容や活動を工夫する必要がある。

8 参考資料

(資料1) ワークシート

「できること」と「できないこと」 - can と can't を使った文 -

Class 1 - No. Name

【スピーキング活動】

- 自分が「できること」と「できないこと」を友達に伝えよう。話すときは、インタビュー活動の約束事に注意しよう。

《会話例》

A : Hi, Takeshi.
B : Hi, Daisuke.
A : I can speak English.
I can't speak Korean.
B : I can play baseball.
I can't play soccer.
A : Thank you. See you.
B : Bye.

★インタビュー活動の約束★
①日本語禁止! ②最初と最後のあいさつ
③アイコンタクト ④大きな声と笑顔
⑤メモをとるのは、会話が終わってから



【メモ】 ※メモは日本語でもOK

会話した人の名前	できること	できないこと

(資料2) アンケート

【英語授業を終えてのアンケート】

1年組番氏名

A : よくできた B : できた C : あまりできなかった D : 全くできなかった

	質問 (構成概念について)	回答
多様性	・can を使った英文で仲間と会話することにより、人にはそれぞれいろいろな能力があることを知ることができた	A ・ B ・ C ・ D
相互性	・「できること」と「できないこと」を伝え合うことによって、人と人が互いに関わり合っていることが実感できた	A ・ B ・ C ・ D
連携性	・仲間の能力を知ることによって、自分と異なる立場や個性を大切にしようという気持ちがうまれた	A ・ B ・ C ・ D

質問 (重視する能力・態度について)	回答
①can を使い、自分の特技を積極的に伝えることができた	A ・ B ・ C ・ D
②仲間の「できること」「できないこと」をしっかり聞いてあげた 【コミュニケーションを行う力】	A ・ B ・ C ・ D
③仲間と協力して、「言ってみよう」のペア練習ができた 【他者と協力する態度】	A ・ B ・ C ・ D
④仲間の特技を聞くことにより、周りに助けられて自分がいることを実感できた 【つながりを尊重する態度】	A ・ B ・ C ・ D

英語の授業で、コミュニケーション活動をする利点（良いところ）は何だと思いますか？

英語の授業で、ペアで協力したり、班で発表したりすると、どんな力が身につくと思いますか？

英語でのコミュニケーション活動や、ペアでの活動をやってみての感想を書いてください。

学年	教科等	学習指導要領
1 学年	音 楽	B 鑑賞 内容ア

1 題材名 「曲の雰囲気を感じ取ろう」

2 題材について

学習指導要領の第1学年、鑑賞の内容アには「音楽を形作っている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」とある。『魔王』は、シューベルトが18歳のときに出会ったゲーテの詩に感銘を受けて作曲した歌曲である。一人が四役を歌い分け、ピアノ伴奏と歌手が登場人物の心情と情景描写を行っており、詩の内容を想像しやすい曲である。また、音楽の要素である音色・リズム・旋律等を感じ取ることができる教材である。このことを踏まえ、ESDの視点を取り入れた学習指導を進めるためには、自己のイメージや感じ取ったことをグループで発表し合い、お互いの意見を聞くことで理解を深め、仲間との交流をすることが重要である。さらに、話し合いをすることで生徒一人ひとりの音楽性を高めることができると考え、本題材を設定した。

3 題材におけるESDの視点

構成概念	重視する能力・態度
I 多様性 曲について色々な感じ取り方があることを知ること IV 公平性 他者の意見を公平に受け取り、尊重すること V 連携性 お互いの意見を聞き合うことで、自分が気づかなかつた楽曲の良さや美しさなどの新しい価値や味わい方に気づくこと	①批判的に考える力 話し合いを通して、他者の意見をよく検討・理解して取り入れ、よりよい判断をする力 ③多面的・総合的に考える力 様々な解釈があることに気づきより深い理解に繋げる力 ④コミュニケーションを行う力 自分の考えを伝え、他者の考えも尊重しながらコミュニケーションを行う力 ⑦進んで参加する態度 積極的に話し合いに参加し、自己の感受の幅を広げようとする態度

4 題材の目標

- (1) 詩の内容を理解し、積極的に話し合い自己の感受の幅を広げようとしている。
[音楽への関心・意欲・態度]
- (2) 音楽の様々な構成要素と関わらせて鑑賞し、登場人物の歌い方の違いなどを聴き取り、表現効果等を感じ取っている。
[鑑賞の能力]

5 題材の指導計画と評価計画

	計 画	評価規準
第1次	・『魔王』を聴き、演奏形態、全体の雰囲気を 感じ取る。 ・物語の内容や登場人物について知る。	・場面を想像しながら聴こうとしている。
第2次 (本時)	・登場人物ごとの声や旋律の変化に気づき、 感受したものと知覚したことを結びつけながら『魔王』を聴く。 ・『魔王』の魅力について紹介文を書く。	・登場人物ごとの歌唱表現の違いを感じ取り、 言葉で表現することができる。 ・感じ取った「声の変化」「伴奏の効果」等を言葉で説明するなどして、『魔王』のよさを味わって聴いている。 ・知覚、感受したことを結びつけながら、『魔王』の魅力を紹介文に書くことができる。

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・詩の内容を理解し、積極的に話し合い、自己の感受の幅を広げようとしている。
[音楽への関心・意欲・態度]
- ・登場人物の歌い方の違いなどを音楽の構成要素と関わらせて聴き取り、表現効果等を感じ取ることができる。
[鑑賞の能力]

(2) 展開 (通常の学習指導案)

	学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ◆評価 (評価方法)
導入 / 5分	既習曲を歌う 本時の目標		○雰囲気作りも兼ねて、伸び伸びと明るい声を出すようにさせる。
		『魔王』を作曲したシューベルトの気持ちになろう	
展 開 / 35分	前時の復習をする 原語で『魔王』を鑑賞する 前奏の三連符の特徴を感じ取る 子どもの声や旋律の変化を感じ取る 魔王の声や旋律の変化を感じ取る 全体を通して鑑賞する	『魔王』の雰囲気 登場人物の確認 前奏の三連符、リズムの効果 子どもの声の表現 魔王の伴奏、歌い方の効果 音楽的表現効果	○演奏形態、登場人物について再確認させる。 ○登場人物を示して聴かせる。 ○前奏の三連符の効果について考え、プリントに記入させる。 ○聴く観点を示し、プリントに記入させる。 【音の高さ】 ○恐怖感を増していくに従って音の高さに変化があることを聴き取らせる。 ○音楽の諸要素〈音色・強弱・音程〉と関連付けて書くようにさせる。 ◆登場人物の歌唱表現から曲想を感じ取っている。(プリント) ○聴く観点を示し、プリントに記入させる。 【伴奏、歌い方】 ○ピアノ伴奏が醸し出す恐ろしさを考えさせる。 ○音楽の諸要素〈音色・リズム・音程〉と関連付けて書くようにする。 ◆登場人物の歌唱表現から曲想を感じ取っている。(プリント) ○詩の内容を表現するための表現方法の工夫を確認させる。
まとめ 10分	『魔王』の紹介文を書く	本時の学習内容を踏まえた『魔王』の魅力	○感じ取った曲想や工夫をもとに、『魔王』の紹介文を書く。

(3) 展開 (ESD の視点を入れた学習指導案)

	学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ◆評価 (評価方法) ★ESD との関わり
導入 / 5分	既習曲を歌う 本時の目標		○雰囲気作りも兼ねて、伸び伸びと明るい声を出すようにさせる。
		『魔王』を作曲したシューベルトの気持ちになろう	
展 開 / 35分	前時の復習をする 原語で『魔王』を鑑賞する 前奏の三連符の特徴を感じ取る 子どもの声や旋律の変化を感じ取る グループで感じ取ったことを話し合い、発表する 曲について色々な感じ取り方があることを知る【I 多様性】 他者の意見を公平に受け取り、尊重すること【IV 公平性】 魔王の声や旋律の変化を感じ取る グループで感じ取ったことを話し合い、発表する 曲について色々な感じ取り方があることを知る【I 多様性】 他者の意見を公平に受け取り、尊重すること【IV 公平性】	『魔王』の雰囲気 登場人物の確認 前奏の三連符、リズムの効果 子どもの声の表現 グループで話し合い、他者の感じたことを知る 魔王の伴奏、歌い方の効果 グループで話し合い、他者の感じたことを知る	○演奏形態、登場人物について再確認させる。 ○登場人物を示して聴かせる。 ○前奏の三連符の効果について考え、プリントに記入させる。 ○聴く観点を示し、プリントに記入させる。 【音の高さ】 ○恐怖感を増していくに従って音の高さに変化があることを聴き取らせる。 ○音楽の諸要素〈音色・強弱・音程〉と関連付けて書くようにさせる。 ◆登場人物の歌唱表現から曲想を感じ取っている。(プリント) ○発言を活発に行わせるようにする。意見交換が滞っているグループには考えの幅が広がるように助言をする。 ◆積極的に話し合い、自己の感受の幅を広げようとしている。(観察) ★③様々な解釈があることに気づきより深い理解に繋げる力 【多面的、総合的に考える力】 ★④自分の考えを伝え、他者の考えも尊重しながらコミュニケーションを行う力 【コミュニケーションを行う力】 ★⑦積極的に話し合いに参加し、自己の感受の幅を広げようとする態度 【進んで参加する態度】 ○聴く観点を示し、プリントに記入させる。 【伴奏、歌い方】 ○ピアノ伴奏が醸し出す恐ろしさを考えさせる。 ○音楽の諸要素〈音色・リズム・音程〉と関連付けて書くようにする。 ◆登場人物の歌唱表現から曲想を感じ取っている。(プリント) ○発言を活発に行わせるようにする。意見交換が滞っているグループには助言をする。 ◆積極的に話し合い、自己の感受の幅を広げようとしている。(観察) ★③様々な解釈があることに気づきより深い理解に繋げる力 【多面的、総合的に考える力】 ★④自分の考えを伝え、他者の考えも尊重しながらコミュニケーションを行う力

	全体を通して鑑賞する お互いの意見を聞き合うことで、自分が気づかなかった楽曲の良さや美しさなど新しい価値や味わい方に気づくこと 【V連携性】	音楽的表現効果	【コミュニケーションを行う力】 ★⑦積極的に話し合いに参加し、自己の感受の幅を広げようとする態度 【進んで参加する態度】 ○詩の内容を表現するための表現方法の工夫を確認させる。 ★③様々な音楽表現や解釈を関連づけて考えること 【多面的、総合的に考える力】
まとめ / 10分	『魔王』の紹介文を書く	本時の学習内容を踏まえた『魔王』の魅力	○感じ取った曲想や工夫をもとに、『魔王』の紹介文を書く。 ★①話し合いを通して、他者の意見をよく検討・理解して取り入れ、より良い判断をすること 【批判的に考える力】

7 ESDの視点を取り入れた本授業の指導のポイントと指導上の課題

(1) 指導のポイント（展開部）

- ・音楽を形作っている要素や曲想との関わりを感じ取って聴かせ、音楽に関する言葉で説明させる。
- ・生徒一人一人の音楽への思いや考え、自分なりの感じ方や解釈を、話し合い活動を行うことで他者に伝え合ったり共感したりすることで、互いの考えを深め合い尊重するようにする。
- ・話し合い活動を行うことで様々な解釈があることに気づき、より深い理解に繋げるために積極的に発言をするように働きかける。

(2) 効果の検証

本題材をESDの視点を意識した授業を行った後、生徒にアンケートを実施した。アンケートを行うことで以下のような効果を検証することができた。重視する能力態度については、A「できた」B「ややできた」C「あまりできなかった」D「できなかった」の4段階で評価を行った。構成概念については、記述式のアンケートを行った。

《重視する能力・態度について》

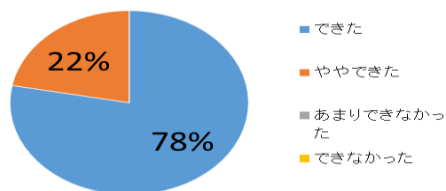
(質問1) 他人の意見を聞き、参考にすることができましたか。 【批判的に考える力】

(質問2) リズム・音色・旋律などを意識して聴くことができたか。 【多面的・総合的に考える力】

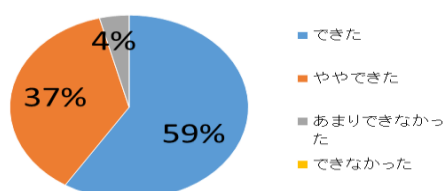
(質問3) 自分の考えを発表することができましたか。 【コミュニケーションを行う力】

(質問4) 鑑賞の活動に積極的に参加できましたか。 【進んで参加する態度】

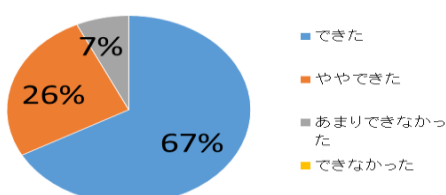
質問1 他人の意見を聞き、参考にすることができたか



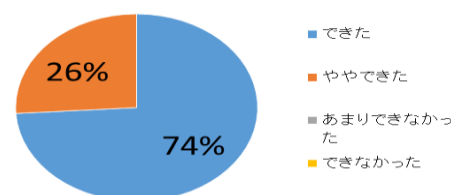
質問2 リズム・音色・旋律などを意識して聴くことができたか



質問3 自分の考えを発表することができたか



質問4 鑑賞の活動に積極的に参加できたか



《構成概念について》

（質問５）他の人の考えや意見を聞いて、どう思いましたか。【Ⅰ多様性、Ⅳ公平性】

- ・自分とは違う考えや意見を知ることができて、参考になった。「こういう考えもあるのだな」と思い、音楽の幅も広がったと思う。
- ・自分では思いつかない意見などが聞けたので、発想力を広げることができてよかった。
- ・人によって感じる場所や思うことが違うんだと思った。自分の意見と違っていたら新しい発見があるし、同じだったら更に意見や考えが深まると思う。
- ・自分が感じない考えが出てきて驚いた。私が「怖い」と感じたところを、他の人は「怒っている」と感じているのを知って、考える幅が広がった。
- ・自分とは違う意見をもっている人がいたので「ここをこう感じるんだ」と参考にすることができた。

（質問６）『春』の鑑賞では、自分の考えを一人で記入しましたが、『魔王』の鑑賞では、グループでの話し合い活動を取り入れました。話し合いをする利点は何だと思えますか。【Ⅴ連携性】

- ・他の人の意見を聞くことによって、今までは気づかなかった所が分かるようになったり、鑑賞の仕方が変わっていいと思う。
- ・自分とは違った考えを取り入れて鑑賞をすることで、曲に対する様々な感じ方をすることができる場所。
- ・自分だけで考えていると他の人はどう思っているのか分からないけれど、グループで話し合うことでお互いにコミュニケーションを取り合うことができたり、意見を言い合うことで違う意見などが出てきたりして、音楽の世界が広がると思う。
- ・自分一人だと感じるができなかった歌詞の意味や情景・雰囲気を感じ取ることができるので、いいと思う。
- ・自分が気づかなかったことに気づいている人もいて、意見を交換することで新しい考えが生まれる場所。

（３）指導上の課題

本指導案では、鑑賞において自分の考えや感じたことを書いて発表するだけではなく、ESDの視点を意識し、自分の考えをもとにグループで話し合う活動を取り入れた。他者と話し合い、考えを出し合うことで、より深い理解へと繋げる活動を行った。授業後のアンケート結果を見ると、鑑賞を得意としない生徒も、話し合いをすることで他者の意見に共感したり、積極的に参加できたりして、いろいろな考えを参考にして新たな気づきをすることができた。しかし、自分の考えをもった上で話し合いを進めなければ、他者の意見を取り入れるだけになってしまうので、まず始めに自分の考えをしっかりと持たせることが大切であり、活発な話し合いや自信をもった発表に繋がると思った。

ESDの視点は、音楽科のこれまでの学習の中にも多く含まれている。指導する教員がこれらの視点を理解し、意識して学習を進めることが大切だと感じた。指導計画をたてる中で、題材や進め方を工夫し見方を変えることで、よりESDの視点が明確になり効果的な指導ができると感じた。

学年	教科等	学習指導要領
3 学年	美術科	A 表現 (1) イ (2) イ (3) ア

1 題材名 「メッセージとしての美術」

2 題材について

子どもたちを取り巻く世界には様々な問題が山積している。経済発展による自然破壊などの環境問題、戦争や格差問題など、これまで芸術家たちはその作品を通して警鐘を鳴らしてきた。美術には作者の感じたことや考え、主張を視覚的に見る者に伝えるという役割がある。美術作品が人々に訴える力は、ともすると言葉のそれよりも強いものである。この美術作品の伝達する、発信するという機能に着目し、社会の一員として自分の主張を持ち、絵画として表現するため本題材を設定した。

生徒たちはこれまで自分の気持ちや心の中のイメージを想像画として表現することや抽象の図形を用いた平面構成などを学習してきた。しかし自分の考えや主張を他者に伝えるという目的で作品を制作するということはあまり経験していない。本題材ではただ見て描くだけではなく、他者に伝えるために効果的な表現方法を工夫し制作できるようにしたい。この題材を通して、視覚的に訴えるのに効果的な画面構成、自分の伝えたいイメージに合った描画材や表現方法を工夫し、表現できるよう指導していきたい。また社会の諸問題に関心を持ち、自分に関わるものとして捉えて自覚し、自分なり考えや主張を持ち、発信することができる生徒を育成していきたい。

E S D (持続可能な開発のための教育) の視点を取り入れた学習指導では、社会の様々な問題と未来について話し合い、考えていく中で、その問題の多様性や相互性に気づき、一人一人が未来を担う責任を意識した上で作品制作できるようにしたい。また他者とのコミュニケーションを通して、批判的に考える力や多面的・総合的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力を生徒相互で高め合えるようにしたい。

3 題材における E S D の視点

構成概念	重視する能力・態度
I 多様性 ・この世界、社会には様々な問題があるということ。 ・人はそれぞれ、いろいろな立場や考え方があ るということ。 II 相互性 ・自然や人と人、自分とは相互にかかわりあ っているということ。 V 連携性 ・豊かな自然や平和な社会を持続していくた めに協力し問題を解決する必要があるとい うこと。 VI 責任性 ・問題について、自分にできることを考え、作 品を通して伝えていくということ。	①批判的に考える力 ・様々な問題を解決していくために、その原因 や解決策などを積極的に考える。 ②未来像を予測して計画を立てる力 ・問題と社会の未来像を予想し、問題を解決す るための方法を考える。 ・出来上がりの見通しを持ち、制作を進める。 ③多面的・総合的に考える力 ・個々の事象や問題のつながりを理解する。 ④コミュニケーションを行う力 ・問題について積極的に話し合う。 ・作品を通して自分の考えや主張を他者に伝え る。 ・作品を鑑賞して感じたことを伝え合う。 ⑤他者と協力する態度 ・互いにアドバイスをし合い、制作する。 ⑥つながりを尊重する態度 ・身の回りの様々なもの、人と自分は密接に関 わっていることに関心を持つ。 ⑦進んで参加する態度 ・自分の意見を持ち、積極的に話し合う。 ・社会をよりよくしていくために、作品を通し て訴える。

4 題材の目標

- (1) 社会や自分の問題に関心を持ち、真剣に向き合い、よりよくするために自分なりの意見や主張を持つ。 **【美術への関心意欲態度】**
- (2) 主張や自分の伝えたいことを効果的に表現するために、心豊かに発想し、美術表現を通して他者に伝える。 **【発想や構想の能力】**
- (3) 自分の主張が的確に伝わるように描画材や表現方法を工夫し、制作する。 **【創造的な技能】**

5 題材計画と評価計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
過程	着想	発想・構想			制 作							鑑賞・まとめ	
学習活動	参考作品鑑賞				下描き								発表会 鑑賞会
	話し合い				着彩								
	アイデアスケッチ								仕上げ				

- (1) 身近な社会問題について話し合い、考えを深める。 1 時間
 (2) テーマについてアイデアを広げる。 1 時間 (本時)
 (3) アイデアスケッチ 2 時間
 (4) 下描き 1 時間
 (5) 着彩 6 時間
 (6) まとめ、鑑賞発表会 1 時間

6 本時の学習指導

(1) 目標

- 身近な社会問題に対して関心を持ち、積極的に話し合うことができる。
【美術への関心・意欲・態度】
- それぞれのテーマについて発想を広げ、自分の考えや主張を効果的に伝えるために工夫して構想を練ることができる。
【発想や構想の能力】



(2) 展開 (通常の学習指導案)

	学習活動	学習内容 (〔共〕・〔共通事項〕に係る内容)	○:指導上の留意点 ◎:十分満足できる状況 □:C判断生徒への手立て
導入 5分	- 前時の学習活動を振り返る。 - 本時の学習活動を確認する。	●プリントや掲示で本題材の内容と計画を把握させる。 ●板書やプリントを利用し本時の内容を把握させる。	関 本時の学習活動を理解するために集中して話を聞くことができる。 ○興味を持てるよう声掛け・掲示を工夫する。
	【 本時の課題 】 世界や社会の問題についてグループで話し合い、イメージを広げ、アイデアスケッチをしよう。		
展開 40分	- テーマを決定しグループで話し合う。 - テーマを広げる。 - 参考作品を鑑賞する。 - アイデアスケッチをする。	●グループでテーマについて知っていることや自分の意見を自由に発表し合う。 ・知っていること、現状 ・自分の考え、主張 ・これからどうすればよいか ●選んだテーマについて発想を広げ、マインドマップをつくる。 ●テレビ画面に映された参考作品を鑑賞する。 〔共〕 形や色彩の対比などがもたらす感情を理解すること。 ●自分のテーマについて、言葉をもとに効果的な表し方を考え、アイデアスケッチする。	関 テーマについて真剣に考え、自分の意見を発表することができる。 ◎グループでの話し合いに積極的に参加している。 □グループ全員で話し合いができるよう、机間指導で声掛けをする。 発 テーマから関連する言葉を連想し、イメージを広げることができる。 ○たくさん言葉をつなげられるように、意見も否定せず、自由に発想が広げられるよう支援する。 □机間指導の際に例を示したり、グループで協力して考えられるようにする。 発 連想した言葉から画面を構成するプロセスを理解し、自分の制作にいかすことができる。 ○タブレット端末で作品を見せながら、テーマや作者の主張を紹介する。全体と細部を比較して提示する。 ◎意欲的に作品を鑑賞し、自分の制作のイメージを広げることができる。 発 自分のイメージに合わせて画面構成を工夫したくさんのアイデアスケッチができる。
まとめ 5分	本時のまとめと次時の学習内容を知る。	●本時の目標を達成できたか確認させ、振り返る。 ●次時の学習内容を理解させ、興味を持たせる。	関 しっかりとした態度で話を聞くことができる。

(3) 本時の展開 (ESDの視点を入れた学習指導案)

	学習活動	学習内容 (〔共〕・〔共通事項〕に係る内容)	○:指導上の留意点 ◎:十分満足できる状況 □:C判断生徒への手立て ★ESDの視点
導入 5分	- 前時の学習活動を振り返る。 - 本時の学習活動を確認する。	●プリントや掲示で本題材の内容と計画を把握させる。 ●板書やプリントを利用し本時の内容を把握させる。	関 本時の学習活動を理解するために集中して話を聞くことができる。 ○興味を持てるよう声掛け・掲示を工夫する。
	【 本時の課題 】 世界や社会の問題についてグループで話し合い、イメージを広げ、アイデアスケッチをしよう。		
展開 40分	- テーマを決定しグループで話し合う。 この世界、社会には様々な問題があるということ。【I 多様性】 豊かな自然や平和な社会を持続していくために協力し問題を解決する必要があるということ。【V 連携性】 - テーマを広げる。 自然や人と人、自分とは相互にかかわりあっているということ。【II 相互性】 - 参考作品を鑑賞する。	●グループでテーマについて知っていることや自分の意見を自由に発表し合う。 ・知っていること、現状 ・自分の考え、主張 ・これからどうすればよいか 解決策 ●選んだテーマについて発想を広げ、マインドマップをつくる。 ●テレビ画面に映された参考作品を鑑賞する。 〔共〕 形や色彩の対比などがもたらす感情を理解すること。	関 テーマについて真剣に考え、自分の意見を発表することができる。 ◎グループでの話し合いに積極的に参加している。 □グループ全員で話し合いができるよう、机間指導で声掛けをする。 ★問題について積極的に話し合い、互いの意見を聞く。 【④コミュニケーションを行う力】 ★様々な問題について、その原因や解決策などを積極的に考える。 【①批判的に考える力】 ★問題と社会の未来像を予想し、よりよくするための方法を考える。 【②未来像を予測して計画を立てる力】 発 テーマから関連する言葉を連想し、イメージを広げることができる。 ○たくさん言葉をつなげられるように、意見も否定せず、自由に発想が広げられるよう支援する。 □机間指導の際に例を示したり、グループで協力して考えられるようにする。 ★個々の事象や問題のつながりを理解する。 【多面的・総合的に考える力】 発 連想した言葉から画面を構成するプロセスを理解し、自分の制作にいかすことができる。 ○タブレット端末で作品を見せながら、テーマや作者の主張を紹介する。全体と細部を比較して提示する。 ◎意欲的に作品を鑑賞し、自分の制作のイメージを広げることができる。 ★出来上がりの見通しを持ち、制作を進める。 【未来像を予測して計画を立てる力】

	・アイデアスケッチをする。	●自分のテーマについて、言葉をもとに効果的な表し方を考え、アイデアスケッチする。	発自分のイメージに合わせ画面構成を工夫したくさんのアイデアスケッチができる。
まとめ 5分	・本時のまとめと次時の学習内容を知る。	●本時の目標を達成できたか確認させ、振り返る。 ●次時の学習内容を理解させ、興味を持たせる。	関しっかりとした態度で話を聞くことができる。

7 ESDの視点を入れた本授業のポイントと指導上の課題

(1) 指導のポイント

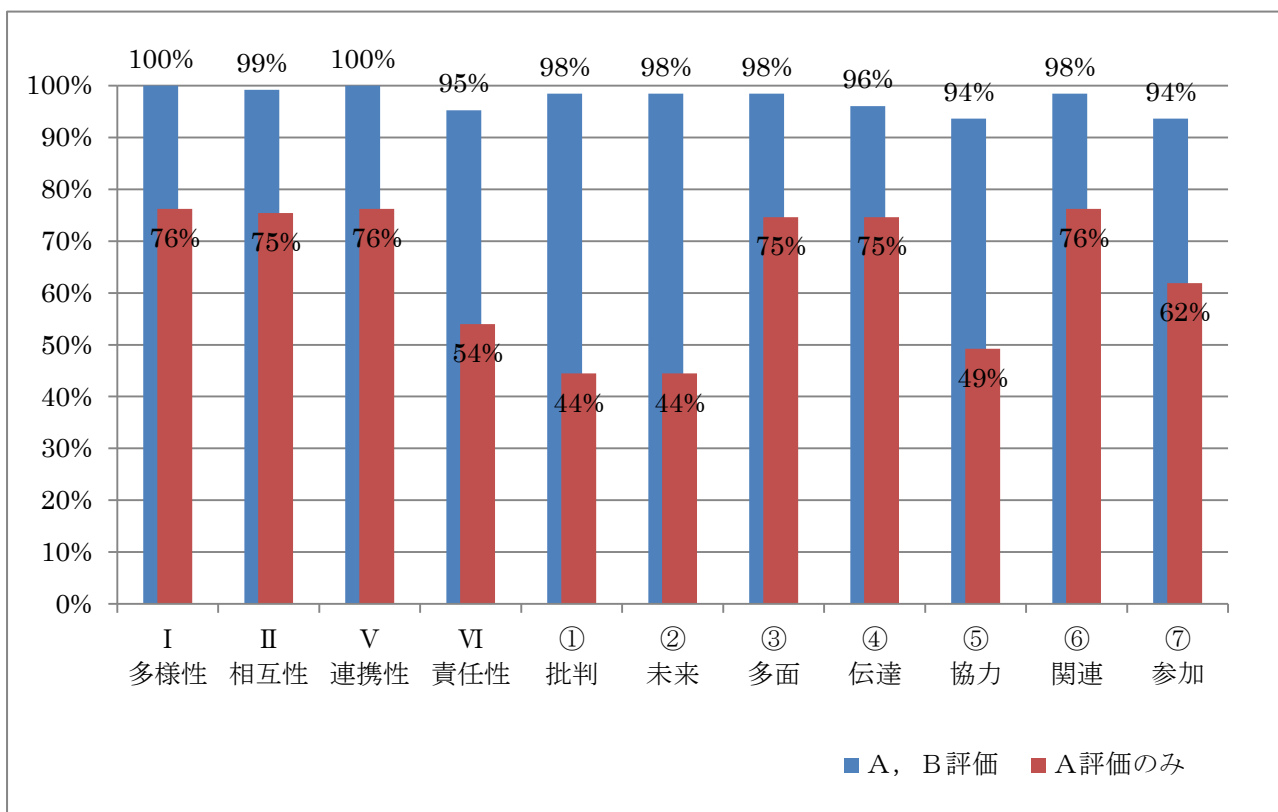
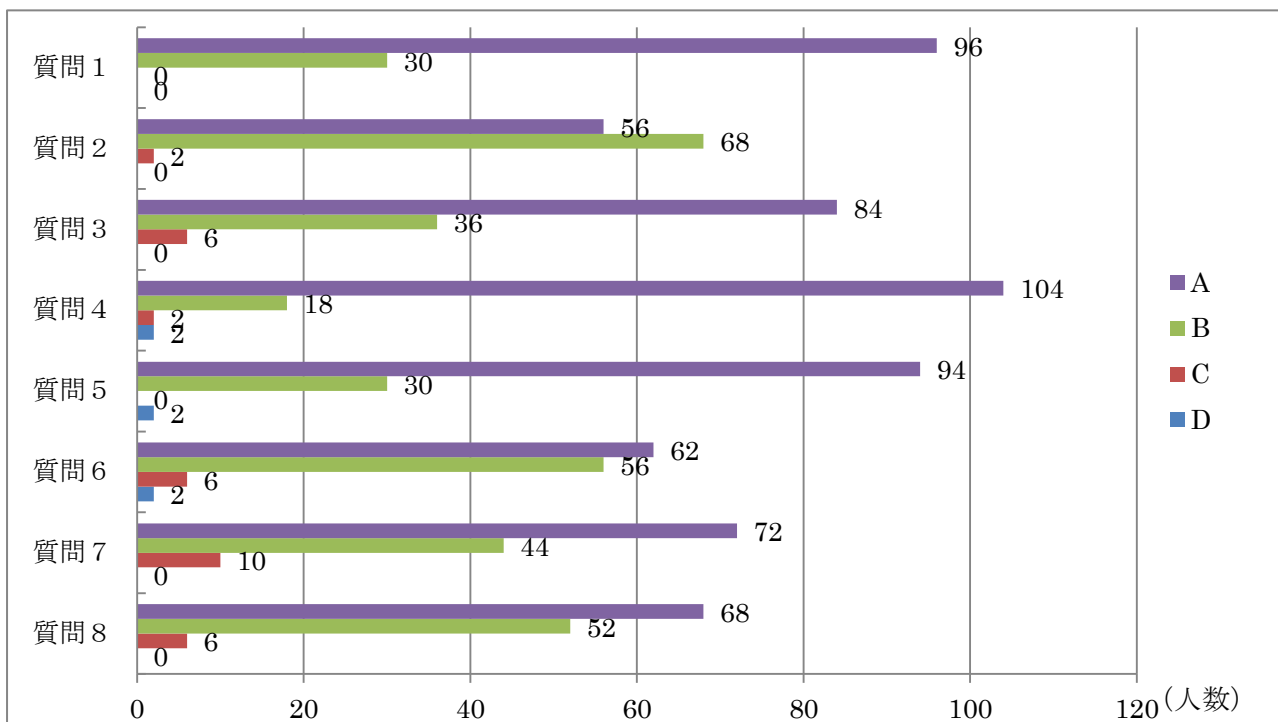
自分たちを取り巻く社会の様々な問題について、子どもたちは一定の知識は持っているものの普段それを強く意識することはあまりない。社会の諸問題を自分たちのこととして主体的に捉え直し、批判的な視点で多面的、総合的に考え、社会の一員として自分の主張をもつことは中学三年生という発達段階において必要なことであると考え。そのためESDの概念を意識した題材設定を行った。

また美術の制作においては生徒一人一人がそれぞれ考えたこと、発想したことを表現していくという個人での活動が多くなる。しかし今回の授業では発想構想の段階で、グループでの話し合いを取り入れ、他者とコミュニケーションを通して発想を広げていく活動を行った。

(2) 効果の検証

ESDの視点を取り入れた授業を行った後、生徒（4クラス126名）にアンケートによる調査を行った。アンケートの内容は以下の通りである。評価はA「よくできた」、B「できた」、C「あまりできなかった」、D「できなかった」の4段階である。

質問1	社会のいろいろな問題があることを知り、自分たちに関わることとして考えることができた。	【Ⅰ 多様性、Ⅱ 相互性、Ⅴ 連携性、⑥ つながりを尊重する態度】
質問2	世界や社会の問題について、原因や解決策などを考えることができた。	【① 批判的に考える力、② 未来像を予測して計画を立てる力】
質問3	話し合いに積極的に参加し、自分の考えを伝えることができた。	【④ コミュニケーションを行う力、⑦ 進んで参加する態度】
質問4	グループでの活動（話し合い、連想ゲーム）を楽しむことができた。	【④ コミュニケーションを行う力】
質問5	グループでの活動（話し合い、連想ゲーム）によって、いつもよりたくさん発想を広げることができた。	【Ⅰ 多様性、Ⅱ 相互性、③ 多面的・総合的に考える力】
質問6	互いにアドバイスをしあいながら、制作を進めることができた。	【⑤ 他者と協力する態度】
質問7	集中して制作に取り組むことができた。	【⑦ 進んで参加する態度】
質問8	作品に自分の伝えたいこと、メッセージを込めることができた。	【Ⅵ 責任性】



アンケート結果を見ていくと、どの項目においても9割以上の生徒がA「よくできた」、B「できた」の評価であった。そのため、持続可能な社会づくりの構成概念と学習指導で重視する能力・態度に関しては概ね身に付いているものと考えられる。しかし、A評価のみに着目してみると、VI責任性や①批判的に考える力、②未来像を予測して計画を立てる力、⑤他者と協力する態度など数値の低い項目も見受けられる。これらの課題に対しては、別の学習活動やワークシート、声かけなど指導をさらに工夫していく必要を感じた。また他の題材でもESDの視点に立った学習指導を取り入れ、継続的に指導を行うことが重要であると考え。

生徒の意見

問題について考え、グループで協力して話し合うことができましたか？

- ・しっかりと自分の意見を伝えつつ、班の人の意見も聞くことができた。
- ・いつもより積極的に参加できた。
- ・みんなで協力できてよかった。
- ・積極的に意見を出し、テーマの問題点などを見つけられた。
- ・意見を出さない人はなく、みんなで話し合えた。
- ・自分たちにできることは何か、考えるのは難しかったけど、小さなことでもできることを挙げられたのでよかった。

グループでの活動（話し合い、連想ゲーム）はどうでしたか？

- ・自分たちのテーマからは思いつかないことも連想ゲームで発想を広げることで、意外なところにヒントがあったりしてとてもおもしろかった。
- ・みんなで考えていくと自分では出てこないことが出てきて、そこからどんどん連想できたのでたくさん増やすことができた。
- ・一人でやるのよりもたくさん出てきて、新しい発見もあった。
- ・全部で134個も自分たちでアイデアが出せた。
- ・とても楽しくできました。
- ・みんなで意見を出し合うことができたのでいつもより協力し合えた。
- ・全く違うようなことにつながっても、それが制作のヒントになるのがすごかった。

自分の作品を通してどのようなことが伝えたいですか？

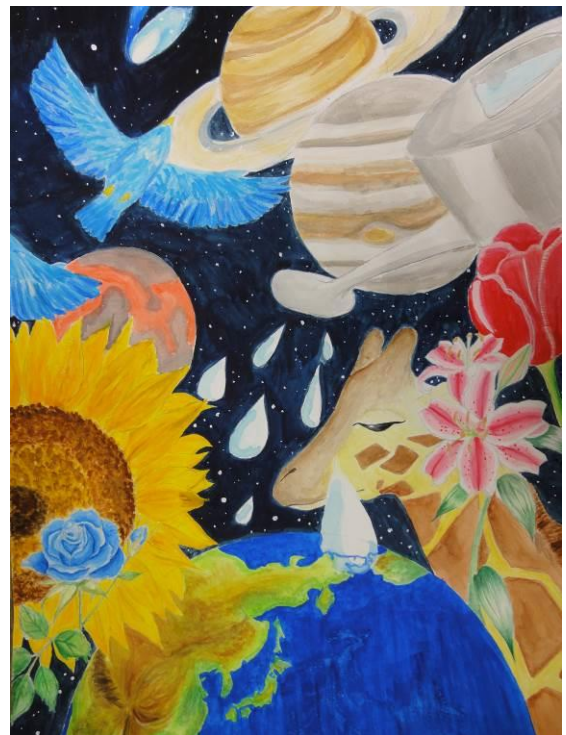
- ・世界が今以上に手を取り合って平和になって欲しい。
- ・世界ではいろんな人が貧富の差に苦しんでいる。
- ・戦争は幼い子どもの命までも奪ってしまい、尊い命が多く消えてしまっている。
- ・自分が未来の地球について選択する。
- ・このままだと氷が溶けて生きていけなくなる動物がいたり、地球によくないことだから、木を増やしていこうと思う。
- ・自分たちの世界だけでなく、世界中に目をむけなくてはならない。
- ・地震を忘れないようにしたい。

（３）指導上の課題

本授業では発想や構想の段階でグループでの話し合い活動を取り入れるなど、特に④コミュニケーションを行う力や⑤他者と協力する態度を重視した学習指導を行った。美術の授業ではどうしても個人での活動、作業が多くなってくるが、個人制作においても他者との関わりや言語活動を積極的に取り入れることで、新たな視点や発想が生まれやすく比較的短時間で構想することができる点で有効であると感じた。

E S Dの構成概念や学習指導で重視する能力や態度は、美術科の目標や指導内容にも大きく関わるものである。そのため年間指導計画を立案する際にも、学習指導要領とE S Dの視点との関わりを意識していく必要性を感じた。また授業の中でもE S Dの視点を明確にし、指導者の側がそれを意識して指導していくことが重要である。

生徒たちが主体的に取り組み、E S Dに関わる能力や態度を身に付けていくためには、このような指導を継続的に行うとともに、他教科とも連携し教育活動全体においてE S Dの視点を取り入れた指導を行っていくことが重要であると考えます。



学年	教科等	学習指導要領
3 学年	道徳	4－(6) 3－(1)

1 主題名 4－(6) 家族愛 関連項目 3－(1) 生命尊重
資料名 命のタスキ [彩の国の道徳(中学校) 自分をみつめて]

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目 4－(6) は「父母、祖父母の敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く」ことをねらいとしている。

人間は、過去から受け継がれてきた生命の流れの中で生きている。自分が今あるのは祖父母や父母があり、そのかけがえのない子どもとして深い愛情を注がれて育てられてきたからである。親が子を思う愛情や願いは他とは比較にならないほど深く、強い。そのことに気付き、自分の成長を願い無私の愛情をもって育ててくれた父母や祖父母に対して敬愛の念を深めさせたい。そうして温かい信頼関係や愛情によって互いが深い絆で結ばれていることが大切であるということの自覚をもたせたい。

また、中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意識が高まってくる。そのため父母、祖父母のちょっとした忠告や叱責が、あたかも自分のすべてを否定するかのように思えて、反抗したい気持ちになる生徒も少なくない。しかし、そうした人間関係の中でしつけられ喜怒哀楽を共にしながら生活することが、より充実した家庭生活を築くことにもつながることに気付かせたい。

さらには、生命の継続性に焦点をおき、自分の生命は自分だけのものではないこと、他の人の生命もかけがえのない大切なものであることに気づかせるとともに、自分の成長や生活が家族や周囲の人々に支えられてきたことに気づかせ、他者との共生やよりよい家族関係について考えさせるとともに校訓である「うるわしい心」の育成を図りたい。

(2) 資料活用について

この「命のタスキ」の、主人公が口うるさい母親に「好きであなたの娘にうまれてきたわけじゃない」といってしまうという、父母の干渉を嫌うようになる中学生のこの時期についての場面に着目した。

ロールプレイングを行うことによって、それぞれの立場になって考えることができたり、自分とは違った考え方を理解することができたりする効果が期待できる。そして自己を守ってくれる家族がいることの有り難さを十分に理解させ、家族をかけがえのない存在として大切にしようという気持ちを育てたい。また、今日まで生きることができた背景には多くの人の支えがあったからであることを意識させ、お互いに支え合って生きていることに感謝の気持ちを持たせたい。

ESDとの関連については、ロールプレイングを通して自分とは違った考え方を理解する(コミュニケーションを行う力)ことや、仲間と協力して話し合い活動を進める(他者と協力する態度)こと、多くの人の支えに助けられている(つながりを尊重する態度)こと、話し合い活動等に主体的に参加する(進んで参加する態度)ことの育成を意識して指導したい。

3 主題と持続可能な社会づくりの構成概念と学習指導で重視する能力・態度の関係

構成概念	重視する能力・態度
I 多様性 親としての思いや子の心、それぞれの立場で多面的な見方や考え方 IV 公平性 自他の生命を尊重しようとする心情	④ コミュニケーションを行う力 ロールプレイングを通して、それぞれの立場になって考えることができたり、自分とは違った考え方を理解したりすることができる。 ⑤ 他者と協力する態度 ロールプレイングでは、他者と協力・共同して話し合いを進めることができる。 ⑥ つながりを尊重する態度 人と人とのつながりを理解し、多くの人の支えがあって今があることを考えることができる。 ⑦ 進んで参加する態度 ロールプレイングや話し合い活動に自主的・主体的に参加しようとするすることができる。

4 本時の学習活動

(1) ねらい

子供の立場から、親の思いを考えるロールプレイングを通して、親の思いや家族について考えることで父母への敬愛の念を深めさせる。さらに、家族を大切に思う心情を育てる。

(2) 展開（通常の学習指導案）

段階	生徒の活動	教師の働きかけ（○）・評価（◆）
導入 10 分	○最近の親への思いを考え、発表する。	○最近あった家族での会話を思い起こし考えさせる。 テストの結果を見せた時や学校での出来事を話したときなどを思い起こさせると、親に対する反発などの気持ちが多いと思われるので、その気持ちを主人公への共感としてつなげたい。
展開 30 分	○エピソードを読む。 ○智子と智子の母親の気持ちを考える。 （ワーク 1） ○各班で、エピソードの続きの会話を考える。 （ワーク 2） ○班で登場人物を分担し、考えた会話をロールプレイングで演じる。考えた会話以降は自由に会話を進める。 ○ロールプレイングをやってみての感想を書く。 （ワーク 3） ○各班のロールプレイングを発表する。	○素直に思ったことを書かせる。 ○班で意見を出し合わせ、エピソードの続きをつくらせる。 ○各班で考えたエピソードの続きを、役割を決めさせ演じさせる。時間を決め、考えた会話の続きをそれぞれの役割になりきって自由に会話を進めさせる。 ◆ロールプレイングを通して親の思いや立場について考えている。（思考・判断） ○それぞれの立場になりきって思ったことを会話にさせ、ロールプレイングを進めさせる。 ○それぞれの役割を演じてみての感想を書かせる。観察している人は友だちがやっている様子を見て、感じたことを書かせる。
終末 10 分	○「ふりかえり」を記入する。 （ふりかえり）	○各班の発表を見ながら、自分たちの班との違いを考えたり、それぞれ演じた以外の人の立場になって考えたりしながら聞くようアドバイスをする。 ○各自の家族について考え、今日の学習を通して考えたことや思ったことを素直に書かせる。 ○時間があれば、何人かの生徒の感想を発表させる。

(3) 本時の展開 (ESDの視点を入れた学習指導案)

段階	生徒の活動	教師の働きかけ (○)・評価 (◆)・ESDの視点(★)
導入 10分	○最近の親への思いを考え、発表する。	○最近あった家族での会話を思い起こし考えさせる。 テストの結果を見せた時や学校での出来事を話したときなどを思い起こさせると、親に対する反発などの気持ちが多いと思われるので、その気持ちを主人公への共感としてつなげたい。
展開 30分	それぞれの立場で多面的な見方や考え方ができる 【I 多様性】	★それぞれの立場になって考えることができたり自分とは違った考え方を理解したりすることができるようにする。 【④コミュニケーションを行う力】
	○エピソードを読む。 ○智子と智子の母親の気持ちを考える。(ワーク1) ○各班で、エピソードの続きの会話を考える。(ワーク2) ○班で登場人物を分担し、考えた会話をロールプレイングで演じる。考えた会話以降は自由に会話を進める。	○素直に思ったことを書かせる。 ○各班で考えたエピソードの続きを、役割を決めさせ演じさせる。時間を決め、考えた会話の続きをそれぞれの役割になりきって自由に会話を進めさせる。 ◆ロールプレイングを通して親の思いや立場について考えている。(思考・判断) ○それぞれの立場になりきって思ったことを会話にさせ、ロールプレイングを進めさせる。
	それぞれの立場で多面的な見方や考え方ができる 【I 多様性】 ○ロールプレイングをやってみての感想を書く。(ワーク3)	★ロールプレイングや話し合い活動に進んで参加しようとすることができるようにする。 【⑦進んで参加する態度】 ★ロールプレイングを通して、それぞれの立場になって考えることができたり自分とは違った考え方を理解したりすることができるようにする。 【④コミュニケーションを行う力】
	○各班のロールプレイングを発表する。	○それぞれの役割を演じてみての感想を書かせる。観察している人は友だちがやっている様子を見て、感じたことを書かせる。 ★ロールプレイングをやる中で、グループで協力して話し合いを進めることができるようにする。 【⑤他者と協力する態度】
	それぞれの立場で多面的な見方や考え方ができる 【I 多様性】	★ロールプレイングや話し合い活動に進んで参加しようとすることができるようにする。 【⑦進んで参加する態度】
	○個人でそれぞれの立場になって考える。(ワーク4) ※持続可能な社会の基盤には、一人一人が大切にされ、人とのつながりがあって今の自分があることを考えるために取り入れた活動	○今までの活動からそれぞれの立場になって考え記入させる。 ◆積極的に親子の関係について関心をもち親の立場について考えようとしている。(関心・意欲・態度)
	それぞれの立場で多面的な見方や考え方ができる 【I 多様性】 自他の生命を尊重しようとする心情をもつ 【IV 公平性】	★それぞれの立場になって考えることができたり自分とは違った考え方を理解したりすることができるようにする。 【④コミュニケーションを行う力】 ○今までの活動を振り返らせたり、自分の経験を振り返らせたり、それぞれの立場になって考えるようア

終末 10分	○「ふりかえり」を記入する。 (ふりかえり)	ドバイスをする。 ★家族のつながりを理解し、多くの人の支えがあって 今があることを考えることができるようにする。 【⑥つながりを尊重する態度】 ○各自の家族について考え、今日の学習を通して考えたことや思ったことを素直に書かせる。 ○時間があれば、何人かの生徒の感想を発表させる。
-------------------	-----------------------------------	--

5 ESDの視点を入れた本授業の指導のポイントと指導上の課題

(1) 指導のポイント

中学3年生の今の時期、受験期のイライラも加わり、家庭の中で反抗するような場面が多いと考えられる。しかし、親の思いや願いは他とは比較できないほど深く強い。そのことに少しでも気づき、感謝の気持ちをもたせたいと考えた。また、ロールプレイングや話し合い活動を通して、それぞれの立場になって考えることができたり、自分とは違った考え方を理解したりすることができるようにしたい。そして、クラスの仲間たちも同じように考え、悩み、ぶつかっていることを知ることでお互いに協力したり、尊重したりしながら学校生活が送れることができたらいと考えた。

(2) 効果の検証

本題材の指導内容を、ESDの視点を意識して授業実践を行うことで、次のような点を検証することができた。

①それぞれの立場で多面的な見方や考え方ができるようになった。

※ワークシートにそって、それぞれの立場になって考える活動での生徒の記述

○あなたが親だったら智子さんから言われてどう思うか

- ・ショックを受けてがっかりする。
- ・心配だから言っているのに……。残念。
- ・傷つく。
- ・もっと物わかりのいい子だったら……。でも大事な娘。これも親の責任。
- ・悲しい。号泣。
- ・だったら好きにきなさい。
- ・育て方を間違えちゃったかな。

○あなたが親だったらこの後どうするか。

- ・子どもに自分の気持ちを言って、話し合う。
- ・次からのルールを決める。

○あなたの親はどんな時にうるさいか。それはなぜか。

- ・勉強しないとき……。将来のことを考えているから。目的をもってほしいから。後悔してほしくないから。
- ・帰りが遅いとき……。心配だから。
- ・約束を破ったとき……。うそをつくような人になってほしくないから

②それぞれの立場になって考えることができたり、自分とは違った考え方を理解できるようになった。

また、周りからの支えがあって今があることに気付くことができるようになった。

生徒の感想から

- ・みんなも同じ経験をしていて、同じようなことを思っているんだなと感じた。そして、親も親なりにいろいろ考えて、大変なんだろうなと感じた。言葉遣いや態度を改めたいと思った。
- ・みんなの意見を聞いて、それぞれの家庭でそれぞれのパターンがあるんだと分かった。けんかになったら、なるべくすごいけんかにならないようにしたいと思った。
- ・親が言っていることは、合っているのは分かっているけどなかなか素直に聞けない。でも、親が自分たちの事を心配だから言ってくれているといつも思って生活していきたいと思った。
- ・ただでさえいろいろなことをしてくれているのに、むかついた時に反抗したりするのは勝手すぎるなと反省した。なるべく怒られないようにしたい。もし、けんかしてしまったらすぐに謝りたいと思った。
- ・みんなの話を聞いて、家の親の有り難さが分かった。感謝しなきゃいけないな。
- ・いろいろと陰で支えてくれているとわかった。あんまり怒らせないようにしたい。
- ・クラスみんながいろいろな意見をもっているのだと思った。
- ・親子で衝突することがあっても、お互いよく話してプラスの方向にもっていければいいなと思った。
- ・自分のためだけでなく親のためにも、一生懸命勉強して志望校に行けるようにがんばろうと思った。
- ・親に何か言われても冷静でいようと思った。言い返すとしても言葉を考えようと思った。
- ・子どもだから思うこと、親だから思うことがあると思うとむずかしいな。でも、やっぱり子どもの考えは甘くて、親が言っていることが正しいときが多いと思った。

(3) 指導上の課題

親子関係については、どうしても母親との関係についてのものが多くとりあげられている。そのため、エピソードには出てこない父親を登場させてロールプレイングを行うことができるような授業プリントにした。また、時間短縮のため導入のワーク1を省略して、資料「親に対してもつ感情」などを利用して共感させてもよいのではないかと考えた。

E S Dの構成概念や学習指導で重視する能力・態度の育成を図る視点から、3学年を見通して計画的に位置付けて授業実践を行うことが大切であると感じた。また、どの部分がE S Dの構成概念や学習指導で重視する能力・態度の育成を図る視点なのかを整理し、意識して指導することが有効であると考えられる。また、学習後には生徒の変容を見取って次につなげなければならないと感じた。

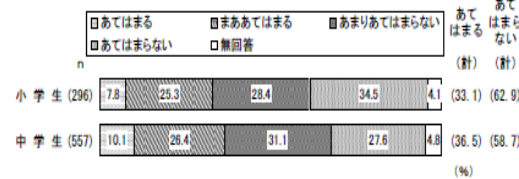
6 その他：資料、授業プリント、参考文献等

・埼玉県青少年課「埼玉県青少年の意識と行動調査」(平成23年)

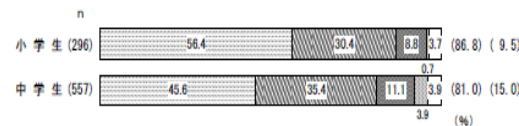
～親に対してもつ感情～

図表1-3-2 親に対してもつ感情(年代別)

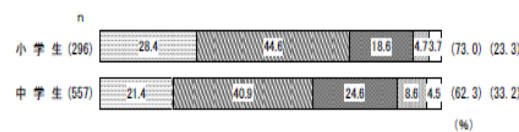
ア お父さんに反感を感じる



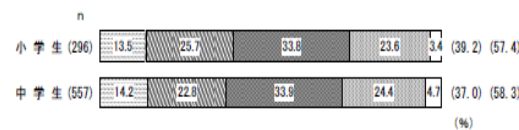
イ お父さんは頼りになる



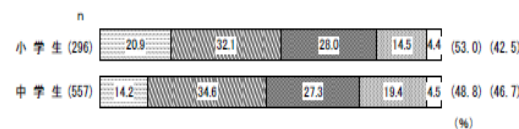
ウ お父さんは自分の気持ちを分かってくれる



エ お父さんは口うるさい



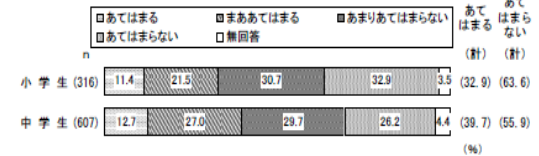
オ 将来お父さんになりたい(見習いたい)



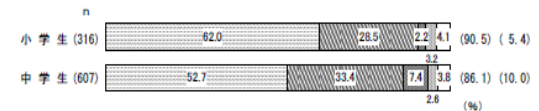
- 21 -

図表1-3-3 親に対してもつ感情(年代別)(つづき)

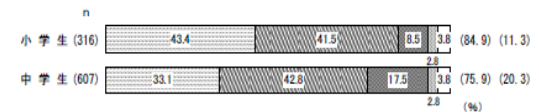
カ お母さんに反感を感じる



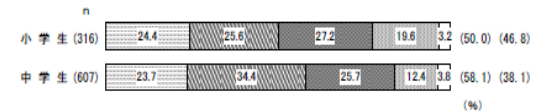
キ お母さんは頼りになる



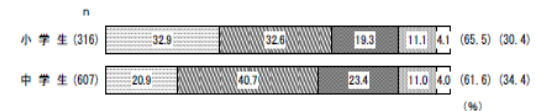
ク お母さんは自分の気持ちを分かってくれる



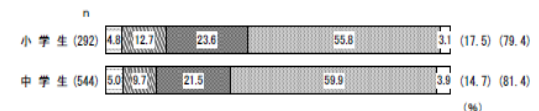
ケ お母さんは口うるさい



コ 将来お母さんになりたい(見習いたい)



サ お父さんとお母さんはひどいけんかをする



親の思い・子の心

年 組 番 氏名

子供の立場から、親の思いを考えるエピソードなどをとおして、親の思いや家族について考えてみましょう。

エピソード

智子：「うちの親ってさ、すごくうるさいんだよ。門限とか厳しくて、放っておいてほしいよね。」
美加：「そうそう、うちもだよ。ケータイの使い方とか、誰と話してるとか。いちいち聞いてくるし。関係ないよね。でもそろそろ帰らないといけないんじゃない？智子のうち、門限うるさいんでしょ。」

智子：「ほんとだ。でも、もうどうせ間に合わないし。いいよ、もう少し話をしよう。」

今日も学校帰り、友だちの美加と話していた。

私の親、特に母親はいちいち私のすることに口をはさんでくる。ほんとにうるさい。確かに心配してくれるのはわかるけど、もう少し自由にしてほしいと思う。この前だって、門限をちょっと遅れたらものすごく叱られた。

母：「今、何時だと思っているの。約束の時間過ぎているじゃない。誰とどこに行ってたの。」

智子：「友だちと立ち話をしていたら時間が経っちゃって。これでも、他の子より早く帰ってきたんだよ。」

母：「他の友だちはまだ遊んでいるの？こんな遅くまで遊んでいるような子とつき合うのやめなさい。友だちのことを言われて私は声が大きくなった。」

智子：「私がだれと付き合いおうとお母さんには関係ないでしょう。もっと自由にさせて。放っておいてよ。」

母：「私の大事な娘であるあなたを放っておくことはできないわ。」

智子：「ほんとにうるさい。好きであなたの娘に生まれてきたわけじゃないのよ。」

と、思わず言ってしまった。

埼玉県教育委員会 彩の国の道徳「自分をみつめて」より 一命のタスキー

ワーク1

エピソードを読み、智子さんと智子さんの母親の気持ちになって考えてみましょう。

○智子さんの気持ち



Large empty speech bubble for Tomoko's feelings.

○智子さんの母親の気持ち

Large empty speech bubble for Tomoko's mother's feelings.



年	組	番	氏名
---	---	---	----

7-72

エピソードの続きを考えて、ロールプレイングをやってみよう。

- ① 会話の続きを書く。
- ② スタートしたら書いたとおり会話をし、さらに自由に会話を続けていく。時間を決めて、それぞれの立場で会話を続けよう。
- ※ 父親を登場させて、会話を続ける場合も考えてみよう。



智子	母親	観察する人A（父親）	観察する人B

人 物	セ リ フ

7-73

ロールプレイングをやってみて、どんなことを感じましたか。それぞれ登場人物を演じてみての感想を書きましょう。観察の人は、友だちがやっているロールプレイングを見て、感じたことを書きましょう。

役 割	感 想
智 子	
母 親	
（父 親）	
観 察	
※○をつける	

7-74

それぞれの立場で考えよう。

○あなたが智子さんだったら、お母さんに対してどのように言いますか？

○智子さんのお母さんはどうしてあんな言い方をしたと思いますか？

○あなたが親だったら智子さんから言われてどう思いますか？

○あなたの親ならどう言ったと思いますか？

○あなたが親だったらこの後どうしますか？

○あなたの親は、どんな時にうるさく言いますか？それはなぜだと思いますか？

ふいかえり

話し合って考えたこと、意見を聞いて思ったことを書いてみよう。

第4章 研究のまとめ

2002年の国連総会で、日本の提案により2005年からスタートした「国連E S Dの10年」も最終年を迎える。E S Dの目指すところは、持続可能な社会づくりに貢献できる、次世代を担う人材育成にある。「我が国における『国連E S Dの10年』実施計画」の中には、持続可能な社会づくりにおける教育の担う重要性和、その教育の根幹を担う学校等の教育機関におけるE S Dの認知度が低いという実態が述べられている。

本研究はE S Dの普及啓発とともにE S D導入の負担感の軽減のため、学習指導においてE S Dの視点の取り入れ方を、実践を通して検討してきた。また、さいたま市を除く県内市町村教育委員会に対して、E S Dの取組について調査を行った。実践と調査をもとに検討された内容を整理し、本研究におけるまとめとする。

(1) 「県内市町村教育委員会及び小・中学校におけるE S Dの取組に関する調査」について

「我が国における『国連E S Dの10年』実施計画」の中で学校・教育委員会・地方公共団体に対して期待されている取組や役割を踏まえ、県内の推進状況を把握のため、さいたま市を除く県内市町村教育委員会を対象に調査し、62市町村中58市町村93.5%から回答を得た。回答を得た市町村中68.4%37市町村ではE S Dに関する何らかの取組をしており、環境教育・E S Dへの関心の高まりを示している。しかしその反面、普及啓発活動を含めた人材育成の取組が全県で4事例だけであり、学校教育におけるE S Dを理解し推進できる指導者の人材育成が進んでいない現状が明らかとなった。当センターで小・中学校の環境教育の指導者育成のために3年間実施してきた特定研修「環境教育プログラムコーディネイト研修」の修了者を地域推進役として活用するなど、市町村単位での研修の充実が必要である。さらに、E S Dは「生きる力」の育成にも通じることから、学校の教育計画へE S Dを明確に位置付けるなどを行い、教職員の意識改革を進める工夫と実践が求められる。

また、地域に根ざした優れた取組をしている学校や「エコスクール」や「キッズISO」など外部機関が提供するプログラムの活用を図っている市町村がみられることから、これら先進的な取組を行っている主体自ら積極的に情報公開していくことも求められる。

(2) 教科等におけるE S Dの視点を入れた指導事例の作成とその教育的効果の検証

県内の小・中学校に勤務する教諭各4名に研究協力委員を依頼し、指導者による講義によりE S Dについて理解を深め、E S Dの視点を取り入れた授業実践をしていただき、その効果の検証を行った。

平成24年度の作成事例に加え、今年度小・中各4事例を作成し、小学校で10教科等10事例、中学校では9教科等10事例を示すことができた。昨年度の課題として、構成概念における「責任性」、能力・態度における「進んで参加する態度」などが学習指導の中に取り入れにくいことが指摘されていたが、今年度は「有限性」に関わる事例が少ないなど取り扱いに偏りが見られた。しかし、2年間で作成した指導事例を総合してみると、どの構成概念、能力・態度においても複数の事例で学習指導への取入れ方を示すことができた。

学習指導の中で、どの構成概念、能力・態度を取り入れることができるかは、教科、単元、教材などその特性による部分が大きい。この2年間で作成した事例により、E S Dの視点の取り入れ方等を示すことはできたので、作成した事例を参考に各教育現場で学習指導におけるE S Dの視点の導入について工夫・研究していくことが求められる。

以下の表は作成事例とE S Dの視点との関係を示したものである。

平成24年度作成指導事例			小学校						中学校					
			国語	社会	算数	理科	家庭	道徳	社会	理科	理科	技家	総合	特活
構成概念	人を取り巻く環境に関する概念	I 多様性			○	○	○		○		○		○	○
		II 相互性	○	○		○	○			○	○	○	○	
		III 有限性					○					○		
	人の意志や行動に関する概念	IV 公平性						○	○					
		V 連携性			○			○					○	
		VI 責任性												
能力・態度	批判的に考える力		○		○			○	○	○			○	○
	未来像を予測して計画をたてる力		○				○							○
	多面的、総合的に考える力			○		○	○		○		○			
	コミュニケーションを行う力				○	○			○	○	○	○		○
	他者と協力する態度				○		○			○		○	○	
	つながりを尊重する態度							○			○	○	○	○
	進んで参加する態度						○	○						

平成25年度作成指導事例			小学校				中学校			
			外国語活動	音楽	体育	総合	英語	音楽	美術	道徳
構成概念	人を取り巻く環境に関する概念	I 多様性	○	○	○	○	○	○	○	○
		II 相互性	○	○	○	○	○		○	
		III 有限性				○				
	人の意志や行動に関する概念	IV 公平性				○		○		○
		V 連携性	○	○	○	○	○	○	○	
		VI 責任性			○	○			○	
能力・態度	批判的に考える力				○	○		○	○	
	未来像を予測して計画をたてる力			○		○			○	
	多面的、総合的に考える力		○	○	○	○		○	○	
	コミュニケーションを行う力		○	○	○	○	○	○	○	○
	他者と協力する態度		○	○	○	○	○		○	○
	つながりを尊重する態度				○	○	○			○
	進んで参加する態度		○		○	○		○		

また、今回作成した事例すべてで、E S Dの視点を取り入れたことに対する効果の検証を実施した。各事例とも、教師がE S Dの視点を取り入れ、「社会構成概念」への気づきや「学習指導で重視する能力・態度」の育成のための意図的な働きかけを行ったことで、効果を上げていることが、効果の検証結果からわかる。

研究協力委員の作成した事例を実践し、効果の検証行う中で感じたこと、課題を以下に示す。

- 英語活動は、E S Dの視点を取り入れた学習を進めやすい単元もある。しかし、今回の検証アンケートでは、「あまりできなかった」という児童が減少した項目もあるが、変化の見られない項目もあった。教師がE S Dの視点に立った授業を、年間を通じて実践していくことが大切である。
- 予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他者と協力する力を高めさせるよう意識した授業を行ったことで、E S Dの構成概念における音楽を創り出す多様性、相互性、連携性の認識が高まった。
- アンケート「グループの仲間と協力して活動することができましたか」において、「とても良くてできた」と回答した児童が、他の設問と比べて少なかった。協力や連携を意識させる手だてが不足していた。
- エネルギー学習を学校の年間計画にどのように位置づけていくか、理科や家庭科、社会などあらゆる教科と連携させて学習できることから、学校全体の教育計画における授業展開が求められる。
- E S Dの視点に立った学習指導を行うことで、「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する力」「つながりを尊重する態度」は着実に身につくと考えられる。班やグループの仲間と励ましながら活動することで、授業にも前向きに取り組んでいる姿が見られ、学力向上も期待できる。
- E S Dの視点は、音楽科のこれまでの学習の中にも多く含まれている。指導する教員がこれらの視点を理解し、意識して学習を進める事が大切だと感じた。指導計画を立てる中で、題材や進め方を工夫し見方を変えることで、よりE S Dの視点が明確になり、効果的な指導ができると感じた。
- 美術の授業ではどうしても個人での活動、作業が多くなってくるが、個人制作においても他者との関わりや言語活動を積極的に取り入れることで、新たな視点や発想が生まれやすく比較的短時間で構想することができる点で有効であると感じた。E S Dの構成概念や学習指導で重視する能力や態度は、美術科の目標や指導内容にも大きく関わるものである。そのため年間指導計画を立てる際にも学習指導要領とE S Dの視点の関わりを意識していく必要性を感じた。また、授業の中でもE S Dの視点を明確にし、指導者側がそれを意識して指導していくことが重要である。
- E S Dの構成概念や学習指導で重視する能力・態度の育成を図る観点から、3学年を見通して計画的に位置づけて授業実践を行うことが大切であると感じた。また、どの部分がE S Dの構成概念や学習指導で重視する能力・態度の図る視点なのかを整理し、意識して指導することが

以上からも、これからのE S Dの推進に向けて、

○教師が普段の学習指導の中で、今までの実践をE S Dの視点で捉え直して教育実践していくこと

○E S Dを年間指導計画に位置づけ継続的かつ計画的な指導を行うことが義務教育における課題であると考えられる。しかしながら、E S Dの理念、身に付けさせたい価値観は、義務教育段階だけで完成するものではない。社会におけるさまざまな問題や課題に対して、主体的に課題意識を持ち、課題解決に対して行動できる人材、すなわち持続可能な社会づく

りに能動的に取り組む、次世代を担う人材の育成を期して、継続的な学びの場が必要である。その視点に於いて、より高度で専門的な学びとなる高等学校における役割は大きい。高等学校においても小・中学校の取組をベースに、E S Dの視点に立った学習指導を行っていくことが必要であり、そうすることで持続可能な社会づくりを担う次世代の人材を育むことができると考えられる。

また総合教育センターにおいては、埼玉県のエ S D推進の中心拠点として、E S Dの視点を取り入れた多くの指導事例や指導法を蓄積し、広く公開すると共に、校種を超えた学校間の情報交換の架け橋となるネットワークの構築を推進していくことが必要である。

おわりに

本研究を進めるに当たり、御協力いただきました 8 名の研究協力委員の方々、指導者をお引き受けいただきました埼玉大学名誉教授、埼玉県環境科学国際センター総長 坂本和彦先生に心より感謝申し上げます。

「持続可能な開発のための教育（ESD）の実践に関する調査研究」協力者名簿

指 導 者 埼玉大学名誉教授、埼玉県環境科学国際センター総長 坂本和彦先生

研究協力委員	草加市立新栄小学校	教諭	倉 渕	勝 宏
	滑川町立宮前小学校	教諭	野 坂	秀 樹
	熊谷市立成田小学校	教諭	吉 橋	江 里
	羽生市立村君小学校	教諭	武 正	美 奈 子
	上尾市立大石中学校	教諭	佐 東	か す み
	滑川町立滑川中学校	教諭	渡 辺	薫
	熊谷市立奈良中学校	教諭	萩 原	忍
	行田市立行田中学校	教諭	菊 野	享 子

担 当 所 員	指 導 主 事 (兼) 所 員	田 島	孝 志
	指 導 主 事 (兼) 所 員	金 井	健 治
	指 導 主 事 (兼) 所 員	秋 田	格

研究協力委員会実施報告

第 1 回研究協力委員会

(1) 日 時 平成 25 年 6 月 18 日 (火) 13:30～16:30

(2) 場 所 県立総合教育センター江南支所 バイオ実験実習棟

(3) 参加者 指導者：坂本和彦

県立総合教育センター副所長兼江南支所長 井田秀夫

研究協力委員 8 名

事務局 4 名

(4) 概 要 ア 調査研究の概要説明 (事務局)

イ 講義 「これからの環境教育に必要な視点」

講師 埼玉大学名誉教授

埼玉県環境科学国際センター総長 坂本和彦 先生

ウ 協議 「今年度の調査研究の進め方について」

第2回研究協力委員会

- (1) 日 時 平成25年8月23日(金) 13:30～16:30
- (2) 場 所 県立総合教育センター江南支所 第1会議室
- (3) 参加者 研究協力委員6名 事務局3名
- (4) 概 要 指導事例(学習指導案)及び効果の検証についての検討
ESD取組状況アンケート質問内容の検討

第3回研究協力委員会

- (1) 日 時 平成25年11月29日(金) 13:30～16:30
- (2) 場 所 県立総合教育センター江南支所 第1会議室
- (3) 参加者 研究協力委員7名 事務局3名
- (4) 概 要 指導事例(学習指導案)の検討及び効果の検証結果の考察

引用および参考文献等一覧

【引用文献】

「我が国における『国連持続可能な開発のための教育の10年』実施計画」

国連持続可能な開発のための教育の10年関係省庁連絡会議 平成22年6月3日改訂

<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/keikaku.pdf> (2012/2/26 アクセス)

研究代表者 角屋重樹(2012)「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究
〔最終報告〕国立教育政策研究所

【参考文献】

文部科学省(2008)「小学校学習指導要領」

文部科学省(2008)「中学校学習指導要領」

研究代表者 角屋重樹(2010)学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究 中間報告書 国立政策研究所

研究代表者 角屋重樹(2012)「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究
〔最終報告〕国立教育政策研究所

埼玉県環境部温暖化対策課ホームページ

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/f02/> (2012/2/26 アクセス)

埼玉県教育委員会(2006)「埼玉県中学校環境教育指導資料 生きる力をはぐくむ環境教育の構想と展開」

環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律(平成十五年七月二十五日法律第百三十号)

最終改正:平成二三年六月一五日法律第六七号

《 参 考 資 料 》

学習指導要領とESDに関連する内容の抜粋（ゴシック強調部分）

総則（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校共通）

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、**人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念**を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、**豊かな心**をもち、**伝統と文化を尊重**し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、**個性豊かな文化の創造**を図るとともに、**公共の精神を尊び**、**民主的な社会及び国家の発展**に努め、**他国を尊重**し、**国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性**のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

小学校

第2章 第2節 社会

第1 目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、**国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者**として必要な公民的資質の基礎を養う。

【第5学年】

第2

1 目標

- (1) 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし、**環境の保全や自然災害の防止の重要性**について関心を深め、国土に対する愛情を育てるようにする。

第2章 第4節 理科

第1 目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、**問題解決の能力と自然を愛する心情**を育てるとともに、**自然の事物・現象についての実感**を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

【第5学年】

第2

1 目標

- (2) 植物の発芽から結実までの過程、動物の発生や成長、流水の様子、天気の変化を条件、時間、水量、自然災害などに目を向けながら調べ、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、**生命を尊重する態度**を育てるとともに、生命の連続性、流水の働き、気象現象の規則性についての見方や考え方を養う。

【第 6 学年】

第 2

1 目標

- (2) 生物の体のつくりと働き，生物と環境，土地のつくりと変化の様子，月と太陽の関係を推論しながら調べ，見いだした問題を計画的に追究する活動を通して，**生命を尊重する態度を育てる**とともに，生物の体の働き，**生物と環境とのかかわり**，土地のつくりと変化のきまり，月の位置や特徴についての見方や考え方を養う。

第 2 章 第 8 節 家 庭

【第 5 学年及び第 6 学年】

第 2

2 内容

D 身近な消費生活と環境

- (2) **環境に配慮した生活**の工夫について，次の事項を指導する。

ア **自分の生活と身近な環境とのかかわり**に気付き，物の使い方など工夫できるところ。

（「小学校学習指導要領」（平成 2 0 年告示）より抜粋）

中学校

第 2 章 第 2 節 社 会

【地理的分野】

第 2

2 内容

- (2) 日本の様々な地域

ウ 日本の諸地域

- (エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察地域の環境問題や環境保全の取組を中核として，それを産業や地域開発の動向，人々の生活などと関連付け、**持続可能な社会の構築**のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。

【公民的分野】

第 2

2 内容

- (4) 私たちと国際社会の諸課題

イ よりよい社会を目指して**持続可能な社会を形成**するという観点から，私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ，自分の考えをまとめさせる。

第2章 第4節 理科

【第1分野】

第2

2 内容

(7) 科学技術と人間

ウ 自然環境の保全と科学技術の利用

(7) 自然環境の保全と科学技術の利用

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、**持続可能な社会をつくる**ことが重要であることを認識すること。

【第2分野】

第2

2 内容

(7) 自然と人間

ウ 自然環境の保全と科学技術の利用

(7) 自然環境の保全と科学技術の利用

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し、**持続可能な社会をつくる**ことが重要であることを認識すること

第2章 第8節 技術・家庭

【家庭分野】

第2

2 内容

D 身近な消費生活と環境

(2) 家庭生活と環境について、次の事項を指導する。

ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、**環境に配慮した消費生活**について工夫し、実践できること。

(「中学校学習指導要領」(平成20年告示)より抜粋)

高等学校

第2章 第2節 地理歴史

第2款 各科目

第1 世界史A

2 内容

(3) 地球社会と日本

オ **持続可能な社会への展望**

現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる**持続可能な社会の実現**について展望させる。

第2 世界史B

2 内容

(5) 地球世界の到来

オ 資料を活用して探究する地球世界の課題

地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる**持続可能な社会の実現**について展望させる。

第5 地理A

2 内容

(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察)

ウ 地球的課題の地理的考察

環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ、それらの課題の解決には**持続可能な社会の実現**を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。

第2章 第3節 公民

第2款 各科目

第1 現代社会

2 内容

(3) 共に生きる社会を目指して

持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。

第3 政治経済

2 内容

(3) 現代社会の諸課題

政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、**持続可能な社会の形成**が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。

第2章 第5節 理科

第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。)

- (2) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成を図ること。また、**環境問題や科学技術の進歩と人間生活にかかわる内容等**については、**持続可能な社会をつくる**ことの重要性も踏まえながら、科学的な見地から取り扱う成に留意すること。

第2章 第6節 体育

第2款 各科目

第1 体育

2 内容

H 体育理論

(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。

エ スポーツを行う際は、スポーツが環境にもたらす影響を考慮し、**持続可能な社会の実現**に寄与する責任ある行動が求められること。

第2章 第9節 家庭

第2款 各科目

第1 家庭基礎

2 内容

(2) 生活の自立及び消費と環境

自立した生活を営むために必要な衣食住，消費生活や生活における経済の計画に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、**環境に配慮したライフスタイル**について考えさせるとともに、主体的に生活を設計することができるようにする。

オ ライフスタイルと環境

生活と環境とのかかわりについて理解させ、**持続可能な社会を目指して**ライフスタイルを工夫し、主体的に行動できるようにする。

第2款 各科目

第2 家庭総合

2 内容

(4) 生活の科学と環境

生涯を見通したライフステージごとの衣食住の生活を科学的に理解させ、先人の知恵や文化に関心をもたせるとともに、**持続可能な社会を目指して**資源や環境に配慮し、適切な意思決定に基づいた消費生活を主体的に営むことができるようにする。

第2款 各科目

第3 生活デザイン

2 内容

(2) 消費や環境に配慮したライフスタイル

イ ライフスタイルと環境

生活と環境とのかかわりについて理解させ、**持続可能な社会を目指した**ライフスタイルを工夫し、主体的に行動できるようにする。

第3章 第1節 農 業

第1款 目標

農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、農業の社会的な意義や役割について理解させるとともに、農業に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、**持続的**かつ安定的な農業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

第2款 各科目

第20 森林経営 目標

森林経営における測定、計画と管理に必要な知識と技術を習得させ、森林の機能と評価の意義を理解させるとともに、森林を持続的に経営する能力と態度を育てる。

第2款 各科目

第20 森林経営

3 内容の取扱い

エ 内容の(4)については、我が国の森林の**持続的**経営に関して、植林、間伐、伐採、造林などの具体的な内容を扱うこと。

オ 内容の(6)のアについては、森林計画制度など我が国の森林政策の概要を扱うこと。イについては森林の機能を**持続させるための金融**と保険制度を扱うこと。

ウについては森林経営に関する法規の概要を扱うこと。

第2款 各科目

第24 水循環 目標

水を有効かつ継続的に利用するための知識と技術を習得させ、地球上の水循環と環境や生物とのかかわり、人間活動が水循環の中で営まれることを理解させるとともに、環境保全に配慮し、農業の**持続的な発展**に活用する能力と態度を育てる。

第3章 第2節 工 業

第2款 各科目

第11 環境工学基礎

3 内容の取扱い

(2) 内容の範囲や程度については、次の事項に配慮するものとする。

ア 内容の(1)については、地球の成り立ち、資源やエネルギーの有限性、地球環境の現状などを扱うこと。また、**持続可能な社会の構築**に向け技術者が果たす役割についても扱うこと

第3章 第4節 水 産

第1款 目標

水産や海洋の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させるとともに、水産や海洋に関する諸課題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、**持続的**かつ安定的な水産業及び海洋関連産業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

第2款 各科目

第14 資源増殖

3 内容の取扱い

ウ 内容の(3)については、病気の種類やその対策などについて基礎的な内容を扱うこと。病害対策については、**持続的**養殖生産確保法などの関係法規も扱うこと。

第2款 各科目

第15 海洋生物

3 内容の取扱い

オ 内容の(5)については、水産資源の**持続的**有効利用、漁獲可能量制度などについても触れること。

第3章 第5節 家庭

第4 消費生活

1 目標

経済社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携の在り方などに関する知識と技術を習得させ、**持続可能な社会の形成**に寄与するとともに、消費者の支援に必要な能力と態度を育てる。

第4 消費生活

2 内容

(4) **持続可能な社会を目指した**ライフスタイル

イ **持続可能な社会の形成**と消費行動

(第4 消費生活 3 内容の取扱い (2) 内容の範囲や程度については、次の事項に配慮するものとする。)

エ 内容の(4)については、環境保全に配慮した持続可能な消費生活を考えさせるような活動を行うこと。

第3章 第9節 理数

(第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。)

(3) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成を図ること。また、環境問題や科学技術の進歩と人間生活にかかわる内容等については、**持続可能な社会をつくる**ことの重要性も踏まえながら、科学的な見地から取り扱うこと。

(「高等学校学習指導要領」(平成21年告示)より抜粋)

環境省

新学習指導要領準拠 授業に生かす環境教育 ひとめでわかる学年別・教科別ガイド

<https://www.eeel.go.jp/env/nerai/EnvEdu/guide.html>



各環境分野の環境教育表

ともに生きる

気づき・理解

国や地域による文化・生活の違いや、一人ひとりの個性に違いがあることを知るとともに、多様性を尊重した、住みやすい社会を描くことができる。

技能・行動

異なる文化、多様な個性を持つ人が互いに他を尊重して、協力するために、コミュニケーションや合意形成の技能を高め、地域社会に積極的に関わることができる。

ねらい

国際理解 (異文化理解)

多様な文化や生活、価値観を持つ人々が地域や地球上に存在することおよび、多様な文化や生活を互いに尊重することが、平和で、豊かな社会をつくることを理解する。

自分の生活が、外国の産業、生活と関わっていることを理解し、相互の関係を発展させるための行動を考え、実践できる。

社会参画	伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う(国語)とともに、事象を数理的に考察し、表現する能力を高める(算数・数学)。 さまざまな立場や価値観があることおよび、互いに他を尊重し、協調することの重要性を理解する。異なる意見の人がコミュニケーションし、合意形成することができる。自分の住む地域とかかわり、産業や文化を継承・発展する活動に参加できる。
健康	環境が心身の健康に与える影響を知るとともに、世界各地で起きている環境問題が健康被害を引き起こしていることを理解し、自分たちにできることを考えることができる。

小学校低学年

国際理解 (異文化理解)	-	-
社会参画	生活	地域と生活
		生活や出来事の交流
	道徳	きまりを守る
		働くことのよさ
	特別活動	学級や学校の生活づくり
健康	体育	運動と健康とのかかわり

小学校中学年

国際理解 (異文化理解)	音楽	我が国の伝統音楽、郷土の音楽、諸外国に伝わる民謡などの鑑賞
	道徳	外国への関心
社会参画 実践事例 [PDF32.1KB]	社会	身近な地域や市区町村の様子
		地域の人々の生産や販売
		地域社会における災害・事故から安全を守る工夫
	道徳	公德心
		働くことの大切さ
	特別活動	学級や学校の生活づくり
健康	体育	健康な生活

小学校高学年

国際理解 (異文化理解)	社会	世界の中の日本
	音楽	我が国の伝統音楽(雅楽、歌舞伎など)や諸外国の音楽の鑑賞
		旋律楽器(和楽器、諸外国の楽器など)の演奏
	図画工作	諸外国の親しみのある美術作品の鑑賞
	家庭	調理の基礎(我が国の伝統的な日常食)
	道徳	世界の人々との親善

	外国語活動	外国語の音声やリズム
		日本と外国の生活、習慣、行事のなどの違い
		異なる文化をもつ人々との交流
社会参画	社会	国民生活と政治の働き
	家庭	家族や近隣の人々とのかかわり
	道徳	権利を大切にし、義務を果たす
		働くことの意義、社会奉仕
	特別活動	学級や学校の生活づくり
健康	家庭	快適な住まい方
	体育	心と健康
		病気の予防
		地域の保健活動

中学校		
国際理解 (異文化理解)	社会	世界の様々な地域の調査
		近代の日本と世界、現代の日本と世界
		私たちと国際社会の諸課題(世界平和と人類の福祉の増大)
	音楽	我が国及び諸外国の音楽の表現
		我が国や郷土の伝統音楽(能楽、琵琶楽、民謡など)及び諸外国の音楽鑑賞
	美術	身近な地域や日本・諸外国の美術文化
	外国語	コミュニケーション能力の総合的な育成(教材選定の観点:多様なものの見方・考え方の理解、外国や我が国の生活・文化の理解、国際理解・協調精神の涵養)
	道徳	世界平和、人類幸福への貢献
社会参画	社会	身近な地域の調査
		私たちと国際社会の諸課題(よりよい社会を目指して)
	技術・家庭	家庭と家族関係・幼児の生活と家族
		日常食の調理と地域の食文化
	道徳	社会の秩序と規律
		公共の福祉と社会の発展
	特別活動	学級や学校の生活づくり
健康	保健体育	心身の機能の発達と心の健康
		健康と環境

		健康な生活と疾病の予防
	技術・家庭	中学生の食生活と栄養

各環境分野の環境教育表

ごみ・資源

気づき・理解

地球上の資源には限りがあり、乱用すれば枯渇することや、廃棄物の増加が環境を悪化させていることを知り、資源循環型の社会を描くことができる。

技能・行動

日常生活において、廃棄物の発生抑制、製品の再利用、資源の再生利用を意識した行動を工夫し、実践できる。

ねらい		
公害・化学物質	日本における公害被害の歴史や、企業・行政・市民の取り組みを理解する。世界各地で起こっている公害の現状を理解する。 公害を起こさない産業や生活のあり方を考え、日常生活の中でできることを考え、実践できる。 日常生活の中でさまざまな化学物質が使われていることや、使い方を誤ると有害なものが含まれることを理解し、適切な使い方が実践できる。	
3R	資源は浪費によって枯渇し、大量のごみとなって環境を悪化させることを理解するとともに、日常生活の中でできる廃棄物の削減、製品の再利用、資源の再生利用を考え、実践できる。	
小学校低学年		
公害・化学物質	－	－
3R	－	－
小学校中学年		
公害・化学物質	－	－
3R	社会	ごみの処理と利用
実践事例 1 [PDF29.1KB]	図画工作	身近な材料(空き容器など)や場所などを基に発想してつくる造形遊び
実践事例 2 [PDF38.0KB]		
小学校高学年		
公害・化学物質	社会	公害と国民の健康・生活環境

実践事例 [PDF153.6KB]	理 科	物の溶け方
		水溶液の性質
3R	家 庭	調理の基礎
		物や金銭の使い方と買物・環境に配慮した生活の工夫
中学校		
公害・化学物質	社会	日本の諸地域（歴史的背景、産業）
		現代の日本と世界（高度経済成長）
		国民の生活と政府の役割（公害の防止など環境の保全）
	理 科	物質のすがた
		水溶液
		物質の成り立ち
		化学変化
		水溶液とイオン
		酸・アルカリとイオン
	保健体育	健康と環境
技術・家庭	住居の機能と住まい方	
3R	社会	世界と比べた日本の地域的特色（資源・エネルギーと産業）
		日本の諸地域（環境問題・環境保全）
	理 科	物質のすがた
		化学変化
	技術・家庭	生活や産業の中で利用されている技術
		家庭生活と環境

各環境分野の環境教育表

エネルギー・地球温暖化

気づき・理解

地球温暖化の仕組み、原因、影響、対策について知るとともに、地球温暖化を起こさない生活や社会を描くことができる。

技能・行動

衣食住の全てを見直し、二酸化炭素排出量の少ない生活様式への転換に向けた行動を家庭や地域で工夫し、実践できる。

ねらい		
地球温暖化の起こる仕組みと影響	過度に化石燃料に依存する生産や生活様式等が大気の組成を変え、地球温暖化を引き起こしていることを理解し、温暖化を防止するために、日常生活の中でできることを考え、実践できる。	
資源・エネルギー 実践事例 [PDF143.4KB]	地下資源、化石燃料が有限であることに気づき、太陽光、風力など自然エネルギーの開発、利用の現状を理解するとともに、資源消費の少ない生活様式を考え、実践できる。	
産業	身近な食や国土利用の変化の問題に気づき、農林水産業が食料供給や国土の保全など多様な役割を果たしていること、および、国際的な食料需給のアンバランスが生み出す問題を理解し、身近な生活の中で改善できることを考え、実践できる。	
消費生活・衣食住	鉱工業や流通、通信が環境に与える影響を理解し、環境と調和したあり方を考え、日常生活の中でできることを工夫し実践できる。	
小学校低学年		
地球温暖化の起こる仕組みと影響	-	-
資源・エネルギー	-	-
産業	生活	地域と生活
消費生活・衣食住	生活	家庭と生活
小学校中学年		
地球温暖化の起こる仕組みと影響	理科	空気と水の性質
		金属、水、空気と温度
資源・エネルギー 実践事例 [PDF32.5KB]	社会	ごみの処理と利用
		飲料水、電気、ガスの確保
	理科	風やゴムの働き
		光の性質
		電気の通り道
		電気の働き
産業	社会	地域の人々の生産や販売
		都道府県の産業
消費生活・衣食住	社会	地域の人々の生活

小学校高学年		
地球温暖化の起こる仕組みと影響 実践事例 [PDF125.6KB]	理科	燃焼の仕組み
資源・エネルギー 実践事例 [PDF225.5KB]	理科	電流の働き 電気の利用
産業 実践事例 [PDF195.7KB]	社会	我が国の農業や水産業 我が国の工業生産
消費生活・衣食住 実践事例 [PDF40.9KB]	家庭	調理の基礎 衣服の着用と手入れ・快適な住まい方 物や金銭の使い方と買物・環境に配慮した生活の工夫
中学校		
地球温暖化の起こる仕組みと影響	社会	現代の日本と世界
		私たちと国際社会の諸課題（よりよい社会を目指して）
	理科	状態変化
		化学変化
		天気の変化
		生物と環境
		自然環境の保全と科学技術の利用
資源・エネルギー	社会	世界と比べた日本の地域的特色（資源・エネルギーと産業）
		私たちと国際社会の諸課題（地球環境、資源・エネルギー問題）
	理科	電流
		電流と磁界
		水溶液とイオン
		エネルギー
		科学技術の発展
	技術・家庭	生活や産業の中で利用されている技術
		エネルギー変換機器の仕組みと保守点検、エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作

産業	社会	世界各地の人々の生活と環境、世界の諸地域
		世界と比べた日本の地域的特色（自然環境、産業、地域間の結び付きなど）
	技術・家庭	日常食の調理と地域の食文化
		生活や産業の中で利用されている技術
消費生活・衣食住	社会	日本の諸地域（生活・文化）
		私たちと国際社会の諸課題（よりよい社会を目指して）
	技術家庭	衣生活、住生活などの生活の工夫
		家庭生活と環境

各環境分野の環境教育表

自然・生命

気づき・理解

生態系の仕組みや、私たちの暮らしが自然界の微妙なバランスに支えられていることを知るとともに、自然と調和した生活を描くことができる。

技能・行動

自他の生命を尊重するとともに、地域や地球規模で自然環境を保全するために、日常生活で何ができるかを考え、実践できる。

ねらい		
生命	生命の誕生、生物の成長の仕組みを知り、生命がかかけえのないものであることを理解するとともに、動植物を含む自他の生命を尊重する態度を養う。	
自然への愛着	自然の偉大さ、すばらしさを知り、畏敬の念をいだくとともに、地域の自然に親しみ、自然を守り育てる活動が実践できる。	
生態系・生物多様性	生態系の仕組みから、人類が有形無形の恩恵を受けていることを理解し、日本および世界の生態系の特徴・多様性、またそれらを脅かす要因と保護対策を学び、日常生活の中でできることを考え、実践できる。	
水・大気・土	大気や水は太陽エネルギーによって地球規模で循環することにより、生命を育む土壌を潤し、人間の生産や生活を支えていることを理解する。 人間の生産や生活が水や大気の循環に影響を与える力を持っていることを理解するとともに、水、大気、土壌の適切な利用を考え、日常生活の中で実践できる。	
小学校低学年		
生命	生活	動植物の飼育・栽培
実践事例	道徳	生命尊重

[PDF33.6KB]		
自然への愛着 実践事例 [PDF29.0KB]	生活	自然や物を使った遊び
	音楽	自然を題材にした楽曲
		身の回りの音を使った音遊び
	図画工作	身近な自然物(土・小枝・木の実・貝殻など)の形・色などを基にした造形遊び
	体育	自然とのかかわりの深い活動(雪遊び、スキー、水辺活動など)
	道徳	自然愛、動植物愛護
	特別活動	遠足・集団宿泊的行事
生態系・生物多様性	-	-
水・大気・土	-	-
小学校中学年		
生命 実践事例 1 [PDF166.2KB]	理科	昆虫と植物
		人の体のつくりと運動
実践事例 2 [PDF146.5KB]	道徳	生命尊重
自然への愛着 実践事例 1 [PDF221.4KB]	理科	身近な自然の観察
		季節と生物
	音楽	自然を題材にした楽曲
	図画工作	身近な材料(木切れなど)や場所などを基に発想してつくる造形遊び
	体育	自然とのかかわりの深い活動(雪遊び、スキー、水辺活動など)
	道徳	自然愛、動植物愛護
	特別活動	遠足・集団宿泊的行事
生態系・生物多様性 実践事例 1 [PDF385.4KB]	理科	身近な自然の観察
		季節と生物
実践事例 2 [PDF154.2KB]		
水・大気・土	理科	太陽と地面の様子
		金属、水、空気と温度

		天気の様子
		月と星
小学校高学年		
生命	理 科	植物の発芽、成長、結実
		動物の誕生
		人の体のつくりと働き
		植物の養分と水の通り道
	道 徳	生命 尊重
自然への愛着 実践事例 [PDF300.0KB]	理 科	生物と環境
	音 楽	自然を題材にした楽曲
	図画工作	材料や場所などの特徴(材料の性質、光や風などの自然環境)を基にした造形遊び
	体 育	自然とのかかわりの深い活動(雪遊び、スキー、水辺活動など)
	道 徳	自然愛、環境保全
	特別活動	遠足・集団宿泊的行事
生態系・生物多様性	社会	我が国の国土の自然などの様子
		森林資源の働き
	理 科	生物と環境
水・大気・土	理 科	流水の働き
		土地のつくりと変化
中学校		
生命	理 科	植物の体のつくりと働き
		植物の仲間
		動物の体のつくりと働き
		生物と細胞
		動物の仲間
		生物の成長と殖え方
	技術・家庭	生物の生育環境と育成技術・生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育
	道 徳	生命 尊重
自然への愛着	理 科	生物の観察
		生物と環境
	音 楽	自然や四季の美しさを感じ取れる歌曲

	美術	対象（自然、動植物など）の形・色彩・美しさの表現
		美術作品の中の自然、自然や身近な環境の造形美
	道徳	自然愛護、自然への畏敬
	特別活動	旅行・集団宿泊的行事
生態系・生物多様性	社会	世界の地域構成、世界各地の人々の生活と環境
		日本の地域構成、世界と比べた日本の地域的特色（自然環境）
	理科	生物の観察
		生物と環境
		生物の変遷と進化
水・大気・土	理科	遺伝の規則性と遺伝子
		状態変化
		化学変化
		火山と地震
		気象観測
		天気の変化
		日本の気象
		天体の動きと地球の自転公転
		太陽系と恒星
		自然の恵みと災害

アンケート調査結果一覧

教育委員会名	教育委員会の取り組み			教育委員会以外	
	小学校	中学校	小中学校	担当課等	内容
川口市			環境教育の年間指導計画の作成について ①内容の充実・具体的な手立てについて ②環境教育の視点を教育課程に位置付ける	地球高温化対策室	①キッズISO14000プログラムの実施 ②エコライフDAYの実施
鴻巣市			環境教育読本「エコアップこうのす」(小学校34年、56年、中学校)を作成し、社会や理科、総合的な学習の時間で活用		エコライフデーの啓発実施 ゴーヤ等のグリーンカーテンの普及啓発 緑のカーテンコンテストの実施
上尾市	校内グリーンカーテンの設置 敷設・付帯工事にかかる費用について緑の募金緑化事業を積極的に活用	上尾市「ぐるっとくんクリーン作戦」 中学校区を中心として児童生徒・保護者・地域住民とともに地域清掃活動に取り組む。安心安全な地域環境を築き、環境保全に努める意識の高揚を図る。	緑の学校ファーム体験活動 ・農作・収穫体験を通して食糧農業に対する理解促進に努め、自然環境への興味関心を高める。食育の観点から、自然への畏敬の念を深め、自己の食生活について考える機会。 エアコン使用マニュアルによる節電の推進 ・普通教室のエアコンの使用方法について、市教委として「エアコン使用マニュアル」を作成し、省エネルギー・節電の観点から各校での使用方法について意識化を図る。	環境対策課	「上尾市環境推進大会」 ・あげお環境賞受賞校の表彰 ・環境美化啓発ポスター優秀作品の表彰 エコライフDAY参加の取組
草加市			奥日光自然教室の実施(3泊4日) 牛乳パックやアルミ缶のリサイクル活動の実施 各教科における環境にかかわる内容の指導の充実		エコライフDAYへの参加 出前講座の実施：自然環境・リサイクルについて ヤゴ講座の実施
蕨市			「蕨っ子エコライフ」キャンペーンの実施 節電、節水を中心とした取組を実施することで、エネルギーを大切に利用し、環境に配慮した行動がとれるよう、意識の高揚を図るとともに、暑さ対策を含めた快適な生活の実現を目指すという目的で、実施する。 ・節電・節水に関する学級指導 ・「緑のカーテン」等の実施 ・「蕨っ子エコライフ」ポスターコンクールの実施		
戸田市			平成20年度から市内全小中学校が戸田市学校版環境ISO認定を取得し、各学校において環境保全に向けた取組が行われている。各校が環境教育および道德教育などの教育活動全体を通して、児童生徒及び教職員の意識向上を図り、地球にやさしい学校づくりに努めている。		
朝霞市			学校ファームの取組		
志木市			エコライフデーの実施		市内丸ごとクリオーン作戦に有志が参加 緑のカーテンの取組
新座市	新座市学校ふるさと構想事業(H13～) 学校教育農園(全校)・学校教育林(5校)・ビオトープ(5校)	野火止め用水クリーン作戦：2校 柳瀬川クリーン作戦：1校 黒目川クリーン作戦：2校 学校教育農園：3校	エコライフDAY埼玉への参加		新座市エコライフDAY 新座市打ち水大作戦 ゴーヤグリーンカーテン
桶川市			エコライフDAY埼玉への参加 給食牛乳パックのリサイクル(トイレトペーパー)		
北本市			全校にソーラーパネルを設置し、太陽光発電を取り入れている。モニターを設置し、発電量が日常的に確認できるようにしている。CO2の削減量などを知る。		

伊奈町	環境教育全体計画・年間指導計画の作成 緑の学校ファームにおける栽培活動の取組を通した 体験的な学習活動の展開	・「学校における環境教育基本計画」をもとに全教育 活動で環境教育を推進 ・教室のゴミ分別、グリーンカーテン、節電対策の徹底 等に取り組む ・総合的な学習の時間や部活動の時間、夏休みの自 由研究等で地元河川の環境や大気汚染につて調べ 学習に取り組んでいる	エコライフDAY参加 生徒会活動が中心にペットボトル、アルミ缶、エコ キャンプのリサイクル活動	環境対策課	「綾瀬川流域ルネッサンス連絡会」の事業として「綾瀬 川みんなで水質検査」を実施。 ・小学生、中学校科学部員を対象に水質検査 ・町の文化祭で河川の水質浄化などのパネルを展示 ・綾瀬川クリーン活動を啓発
川越市			エコチャレンジスクール認定事業の実施。環境マネジ メントシステムの考え方を取り入れ、環境にやさしい 学校づくりに全員で取り組むための川越市独自の制 度で、エコオフィス活動、設備管理、環境教育等に取り 組んでいる。（環境政策課と連携）	環境政策課	エコチャレンジスクール認定事業
飯能市			学習林活用推進事業 各小中学校の児童生徒の実態や地域環境に応じて 森林をテーマにした様々な体験活動等を通じて人々 の生活や環境、森林との関係について理解と関心を 深める教育活動）	環境緑化課	飯能わくわく自然体験遠足 飯能河原をフィールドとして、自然探索等の自然体験 プログラムの提供
狭山市			「狭山市地球温暖化防止カード」の取組 市内全小学校の1、2、3年生の児童を対象に、夏休 み前にカードを配り、地球温暖化防止につながる取組 を行わせる。 取組例：こまめに電気を切る。テレビを見る時間を少 なくする。歯磨きのとき無駄な水を使わない。		・エコライフDAYさやま2013夏（冬もあり） 期間H25.7月10日から9月10日の1日について実施 チェックシートを使って省エネ、省資源を目指す。 ・チャレンジ節電さやま（県の家庭電気・ガスダイエツト コンクール（電気の部）を兼ねる） 節電標語を募集 期間：H25、7、8月 月の電気使用量を昨年と比較して削減率などを競うコ ンクール。優秀な家庭や団体を表彰
入間市			入間市学校版ISO「エコスクール入間」 ・年度当初に各学校に自校の環境方針や実行プログ ラムを作成・提出してもらい、市教委がそれをもとに各 学校に「エコスクール入間」の認定証を交付。各学校 は環境方針や実行プログラムをもとに環境にかかわ る教育活動に取り組み、実績報告書を市教委に提 出。		
坂戸市	環境関連施設の学習（見学） ・西清掃センター ・石井水処理センター（坂戸地区衛生組合）		・エコライフシートへの取組 ・環境教育プログラムの実践（毎年坂戸市・坂戸市教 育委員会で作成したものを配布） ・環境教育研修会（坂戸市環境政策課と共催）	環境政策課	環境教育研修会 （教育センターと共催で環境教育プログラムの周知の ため研修を行っている。小中学校から1名ずつ本研修 未受講教諭を対象に実施。） 環境教育プログラム冊子の配布 リサイクル品等巡回展示
鶴ヶ島市			・緑の学校ファーム：作物の植え付け、栽培収穫を実 施。生活科・理科、総合的な学習の時間と関連した り、生徒会活動中心で行っている。 ・緑のカーテン		養命酒の工場跡地のメガソーラー施設を利用し、環境 教育を中心にESDの取組を実施していく予定。計画 では総合教育センター、生活環境課等と連携していく 方針。
ふじみ野市				環境課	エコライフDAY
三芳町			学校ファームで野菜栽培など体験活動を通して身近 な環境を大切に取る取組を行っている。 ・環境をテーマにした絵画コンクールへの積極的な募 集や青少年の主張作文等、環境問題について取り扱 うなど児童生徒の意識向上を図っている。	環境課	エコライフDAY（町ぐるみの取組）
越生町	・学校周辺の草花や昆虫及び川の生き物調査 ・親子校内緑化作業	地域の山や川などの水質調査	・資源回収 ・学校ファーム	産業観光課 健康福祉課	産業観光課 ・間伐体験・植林体験 健康福祉課 ・小学校で認知症への正しい知識理解のため「認知 症サポーター養成講座」の実施

川島町	・屋上にソーラーパネルの設置し、太陽光発電による節電を行う。廊下に太陽光発電データ表示モニターを設置し、見える化(可視化)を行うことで、児童一人ひとりに自然エネルギーの有効活用について教えるとともに、これからの地球環境に何ができるかを考えさせている。 ・壁面緑化を行い、取組を通して自然体験をさせるとともに、環境について興味関心を高め、地球環境のために何ができるかを考えさせる。播種から植えつけ灌水などすべて児童に行わせ、生命や自然環境について考えさせるきっかけとする。 ・PTA主催校区内資源回収	生徒会役員による環境ボランティア等の活動(何ができるかを会長を中心に考え実践する)	・緑化委員によるゴミの分別回収 (各学級に分別用のゴミ箱を設置し、美化委員が呼びかける。一人一人が地球環境について考え、自分でできることを実践させるきっかけとする。) ・給食委員会による牛乳パック回収(牛乳パックの再生を通して地球資源を有効活用する心情を育てるとともに、地球のためになにができるかを考えさせる)	町民生活課	環境意識調査を中学生に実施
吉見町	学校花植え活動	学校花植え活動 町内清掃活動		農政環境課	エコライフDAY
鳩山町	第3学年で町の特産品のダイズの栽培を通じて環境や日本の食糧事情について考える。	生徒会を中心に、緑化活動、募金活動			エコライフDAY
ときがわ町	学校ファームでのサツマイモづくり 川の博物館との連携による環境教育		卒業証書の紙すき 緑のカーテンによる緑化		エコライフDAY
東秩父村	田植え・稲刈り等の水田体験	案山子づくり・設置等の農業体験			
熊谷市			熊谷市事業の「暑さ晴れ晴れ熊谷流」において実施している壁面緑化推進事業を市内全校で実施。温室効果ガスの吸収源である緑を増やし、地球温暖化防止対策、ヒートアイランド対策を推進する取組。	環境政策課	小学校6年生を対象に「キッズISO入門編」を実施し、各家庭における電気代やガス代等の実態を調査し、その結果から自分たちの生活を見直し、限りあるエネルギー資源を大切に使う態度を養う。
本庄市					エコライフDAYの実施
横瀬町	生活科や総合的な学習の時間を中心に各学年で自然体験や社会的な体験を通してESDの視点に立った教育を行っている。 例:野菜づくり 川の学習 米づくり エコキャップの回収(JRC)	生徒会を中心とした登校時に行う清掃活動(クリーンUP活動)や紙パックのリサイクル、エコキャップの回収を行っている。 自然体験学習として、1年生の武甲山登山や2年生の林間学校を通しいてESDの視点に立った教育を行っている。			
神川町	ミストシャワーの設置				
行田市			エコライフDAY 結果を市HPと市報で発表	①農政課	無償で種苗の提供 行田市の在来種である「青大豆」の提供し、南河原小学校、見沼中学校が栽培に取り組んでいる。農政課が技術指導、支援している。
加須市	生活科・総合的な学習の時間での稲作体験		グリーンカーテン 緑の学校ファームによる野菜の栽培	①環境政策課 ②資源リサイクル課 ③農業振興課	①浮野の里自然観察会 加須市環境フォーラム2013での中学生の発表 中川上流域における環境学習(東部環境管理事務所) ②クリーンセンターの施設見学(4年) 資源リサイクルに関するポスター標語の募集 ゴミ分別回収(日本一のリサイクルのまちを目指して) ③花植木市場「サイエン加須花卉」見学会(5年生)
羽生市	クリーン作戦(市内に児童が出て清掃活動)		牛乳パックのリサイクル 給食時、スプーンがつかない日は「まい箸」の日:割り箸を使わない	さいたま水族館	羽生市教育委員会・羽生市ムジナモ保存会による、ムジナモの育て方教室開催
越谷市	越谷生物多様性子ども調査 学校ビオトープや学校周辺における「トンボ」の生息状況を調査し、市の環境の現状について理解を図る(H24から12校でスタートH27は全校実施) エコライフ活動の推進 リユース・リサイクルプラザを活用した体験学習 児童館ひまわりの活用とこどもエコクラブ活動	エコライフ活動の推進	エコライフ活動の推進		

白岡市			緑の学校ファーム事業への参加 緑の作文・絵画コンクールへの参加 緑のカーテンづくり		エコライフDAY ゴミ散乱防止と3Rを進めるためのポスター標語コンテストの実施 白岡市環境基本計画に係る各学校の活動
宮代町	キッズISO初級編 アーテックが作成したプログラムを実施。小学校6年生が中心となって、家族全員で電気・水道・ガス・ゴミ削減計画を立てて実践する	キッズエコライフ 年間を通して電気・ガス・水道量削減のための生活を実践。月1回測定し、エコライフシートに使用量、反省・工夫したことを記入し、振り返りを行う。	宮代江戸の日 町内全小中学生の家庭において、7月第一土曜日に電気・ガスのない江戸時代の生活を想像しながら各家庭でできるエコ生活を実践する。		
杉戸町				環境課	エコライフDAY 杉戸アースデー(テーマ「杉戸の自然発見と身近な自然エネルギーを考える」)において「小学校環境ポスター展覧会」を開催

教育委員会		管内各学校の取組				
鴻巣市	共和小学校・ 総合的な学習の時間 3年生8時間 4年生7時間	3年生「蛍ってきれいだな」 ○ホタルについて調べる計画作成(①生態について詳しい方に聞く②地域のお年寄りに昔の蛍の様子について聞く③学校のホタルの幼虫観察・餌やり方法を学ぶ) ○触れる活動を生かして、情報収集、処理、コミュニケーションの様々な方法を活用し、自分の課題を解決する。(ホタルのからだのしくみ、ホタルの種類、ホタルの生態、ホタルの幼虫について 等) ○ホタルの集いに向けて、解決したことを課題別グループごとに協力してまとめる。 4年生「ホタル博士になってホタルの集いで発表しよう」 ○体験活動から発見したことや不思議に思ったことを話し合い、自分の課題をもつ。	常光小学校 4年生 総合的な学習の時間 31時間	「ホタルの里・大研究」故郷のホタルとなかよくなろう ○昔ホタルが棲んでいた川に出かけ、観察したこと気づいたことを感想としてまとめる。 ○ホタルが棲める環境について知る(ゲストティーチャー「ホタル保存会」の方) ○ホタルの上陸装置を作り、ホタルを入れ、幼虫、さなぎ、成虫を観察。 ○赤堀川の水質検査をする(ゲストティーチャー「鴻巣の環境を考える会」の方) ○クラスで発表会をする	鴻巣南中学校 3年生 総合的な学習の時間 50時間	ビオトープの保持と創造、エネルギー、資源の問題についての学習 ○講師による啓発講義「南中付近の自然と環境の保護」 ○南中自然園、野外活動場の活動(調査・整備・除草) ○学校農園における農業体験 ○環境課題個人テーマの追及(エネルギー、資源問題について、資源リサイクル活動等)
朝霞市	朝霞第三中学校 部活動 水生生物の生息状況からみた黒目川 の環境	カルチャー部による生徒による黒目川の環境調査は、今年度で5年目を迎える。黒目川のケイソウを指標にして、環境調査を実施している。				
新座市	石神小学校 委員会活動 20時間	地域の環境保全団体と協力して、環境学習プログラム「エコスクール」に取り組んでいる。H23年度にエコスクールに登録。平成24年度からグリーンフラッグを取得をめざし、取り組んでいる。また、東日本環境機構(EES)の環境マネジメントを受け、計画的な活動を進めている。	野寺小学校 総合的な学習の時間 8時間	①地球温暖化って何 ②地球温暖化が進むとどうなるの ③樹木に親しんで、地球と優しく付き合おう ④校庭の樹木を知る ⑤水の旅 ⑥エネルギー ⑦なんだろうこのマーク何についているかしら ⑧電気の旅		
北本市	北本市立南小学校 総合的な学習の時間 40時間	「北本の環境」 水、ごみ問題を中心に自然に目を向け関心を持つ ・EM活性菌の培養 ・校内ビオトープでホタルの飼育・ホタル観賞会				

教育委員会		管内各学校の取組					
川越市	高階北小学校 総合的な学習の時間 3年生 10時間	地域の自然をさぐる 川越南文化会館の隣にある「武蔵野ふれあいの森」で、年2～3回フィールドワークを実施。「かわごえ環境ネット」の方々の協力のもと、生き物の生態や多様性について体験的な活動を行っている。	野田中学校 総合的な学習の時間 全学年 3時間	「埼玉県環境学習応援隊」制度を活用し、石油、電力、プラスチック製品等の企業から講師を招き、地球温暖化や自然保護、リサイクル等の環境問題について学んでいる。			
東松山市	新宿小学校 理科 5時間	1市野川周辺の自然を利用した環境教育(3年生・2時間) 2市野川の生き物調査と水質調査(6年生・3時間) 3その他 ①市野川クリーンアップ作戦への参加 ②森に学ぼうプロジェクトへの参加					
狭山市	入間川小学校 総合的な学習の時間 5年生 20時間	テーマ「地球と友達になろう」 ○オリエンテーション ・入間川小にあるエコを探そう。(太陽光、風力発電システム見学や校内の設備やものさがし) ・入間川自然観察(4年生の時力ヌー体験や地引網体験を実施) ○課題解決するために調べよう ・ゲストティーチャーを依頼(野鳥の会・東京電力)、見学(環境科学国際センター・自然学習センター) ○工夫して発信しよう ・絵や模型の製作・実験の準備・表やグラフの作成・ペープサート・劇・壁新聞などの形態の工夫					
入間市	宮寺小学校 総合的な学習の学習 4、5年生 10～15時間	・4年生では総合的な学習の時間において、不老川の水質、植物、生物等についてグループごとに調査学習を行った。また、5年生では、狭山丘陵から湧き出す湧水を活用した西久保湿地での米づくりを行った。	藤沢東小学校 総合的な学習の時間 5年生10時間	不老川の水質調査を実施			
三芳町	上富小学校 総合的な学習の時間 全学年・4年生	畑で作物を作ろう(全学)8時間 ・野菜づくり・お茶摘み サツマイモ博士になろう(4年生)37時間 ・サツマイモ農家にインタビュー ・サツマイモ栽培 ・調理・調査・発表 「学年園をつくろう」(全学)3時間	三芳小学校 総合的な学習の時間 5年生 10時間	私たちの生活と環境エネルギーを考えよう。 ・東日本大震災の被災地の生活について知る。 ・原子力に代わるエネルギーについて考える。		唐沢小学校 総合的な学習の時間 3、4年生 10時間	雑木林を探検して生き物や四季の変化を調べよう ・雑木林に生息する昆虫などを調査 ・季節ごとに観察し、四季の変化による雑木林の様子を調べる。 ・雑木林の維持・存続のために、下草の整備や落ち葉掃き
	三芳東中学校 技術家庭 2時間	エネルギー変換に関する技術					
越生町	梅園小学校 特別活動 10時間	緑の少年団活動 ・林業体験、伐採、キノコ栽培、川の水生生物調査					
川島町	出丸小学校 総合的な学習の時間 5、6年生 20時間	「ミドリシジミ」を育てるために、ハンノキ林を取り戻すプロジェクトに5、6年生が総合的な学習の時間を使って参加している。 種子から苗を育て(2年間)荒川河岸に植えもどす。 環境サポーター(講師)を招聘して「ミドリシジミ」が育つことのできる環境等について話を聞き、自分たちに何ができるかを考えている。					

ときがわ町	萩ヶ丘小学校 生活科 総合的な学習の時間 50時間	「どんぐり山からときがわ町の自然をさぐる」 ○どんぐり山に登ろう ・どんぐり山の木を観察・木が水を吸い上げる音を聞こう・マイツリーを決めよう ○どんぐり山についてお話を聞こう ・どんぐり山を守る会のゲストティーチャーの話・どんぐり山の観察 ○炭焼き体験をしよう ・窯に木をいれる・焼いた炭で焼き芋をしよう ○トトロ改修に参加しよう ○どんぐり山について調べたことを整理しよう ・体験したことや集めた情報を整理しよう・どんぐり山について調べたことを発表しよう
-------	------------------------------------	---

教育委員会		管内各学校の取り組み				
熊谷市	久下小学校	元荒川を唯一生息地とする「ムサシトミヨ」の保護増殖活動に取り組み、水温や水質管理など、エコクラブ委員会を中心に活動している。またビオトープを整備し、久下・大井ホテル愛好会と協力してホテル観賞会を毎年6月に開催している。				
本庄市	藤田小学校 総合的な学習の時間 5、6年生 75時間					
神川町	丹荘小学校 総合的な学習の時間 5年生 21時間	農業体験 ・梨づくり(特産物) 花粉銀行・花粉付け→摘果→収穫 ・米づくり 体験の合間に調査研究発表活動	青柳小学校 総合的な学習の時間 5年 22時間	蚕をかってみよう ①養蚕農家見学 ②飼育活動(校内で飼育を公開) ③調査研究・発表	神川中学校 技術家庭「生物育成に関する技術」 2年生 10時間	目的を持って栽培しよう。菊づくり ・栽培計画作成 ・作物が育つ環境 ・日常の手入れについて

教育委員会	管内各学校の取り組み					
行田市	見沼中学校 総合的な学習の時間 技術家庭 15時間	青大豆の栽培を通して環境について学ぶ 栽培体験を通して、土壌、農地、植物栽培、環境等について学 ぶ。収穫後は調理まで行い、食の大切さも学。				
加須市	花崎北小学校 社会 9時間	ごみと住みよいくらし ○身の回りのゴミが集められ、処理されて いる過程を学習する。ゴミを燃やした後の 工夫とともに、ごみを減らすための工夫を 考えさせ、自分たちにできることにはどの ようなことがあるか考えさせる。その際 に、市の資源リサイクル課の職員の話を 聞くとともに、実際にごみを分別する活動 を通して、学習内容の定着を図る。	大越小学校 総合的な学習の時間 通年	農業体験「大越ファーム」 ○2000㎡の水田に地域の方の指導を 受けながら田植えを行う。苗を色分けし、 秋にこいのぼりの絵が浮き上がる。 ○田植え・稲刈り・脱穀・餅つき・収穫祭の 実施 ○ジャガイモ堀り・小麦刈り・サツマイモ栽 培に取り組む	北川辺東小学校 総合的な学習の時間 64時間	渡良瀬遊水地から広がって ○渡良瀬の自然に触れ合い、自然の素 晴らしさを体験させ、自然を大切にするこ ころ、自然と共存する態度を育てる。 ○渡良瀬遊水地の野鳥・魚・植物・昆虫・ 歴史・水質について調べたことをパネルに まとめ渡良瀬遊水地学習研究発表会で 発表した。
	樋遣川小学校 全教科 通年	○算数「巻き尺を使ってメタセコイアの周りの長さを測ってみよう」 ○図工「木々を見つめて」(木をじっくり見て描く) ○道徳「めだかのめぐ」観察池のメダカを観察し価値を印象づける。 ○ふれあいランチタイム(縦割り)(校内の「ひやりの森」で昼食をとりながら森の樹木や草花等の豊かな自然環境に親しむ) ○平成25年度埼玉県学校環境緑化コンクール優秀校				
羽生市	村君小学校 総合的な学習の時間 1時間	サケの放流 児童が自分で卵を孵化させ育てる取組 を平成3年から継続実施	三田ヶ谷小学校 総合的な学習の時間 6年生 40時間	ムジナモの紙芝居 ムジナモをみんなに知ってもらいたいと紙 芝居をつくり1～5年生の前で発表。ムジ ナモの保護活動として役立っている。ムジ ナモ集会は1時間、ムジナモに関する学習 は年間40時間。		
越谷市	大袋東小学校 全教科領域 17研究授業					
久喜市	江面第二小学校 総合 20時間	地球を守ろう 身近な環境問題について考え調べる 環境改善のために自分たちでできること を考える。 EM菌について知る(EMネット北埼玉より指 導) EM菌を育て、プールに散布する。	栢間小学校 生活 2年生 36時間	私たちのやさいばたけ 育てたい野菜を決め、栽培方法を「野菜 の先生：地域の方」に聞いたり本で調べ栽 培計画をたてる。 自分で育てたい野菜の育て方を教えても らいながら苗植え、水やり、施肥、草取り の世話をする。 野菜の先生や1年生を招待して、収穫を 祝い楽しむ。 農業体験を通して、農業の大変さと食の 大切さに気づき、食物を大切にする心を はぐくみ、地域の方への感謝の気持ちを 持つことができる。	久喜中学校 総合的な学習の時間 15時間	環境 ・「古利根川下水道処理センター」の職員 の方の授業 ・環境アドバイザーの方の授業 ・環境についての知識を広げ、個人新聞 をつくる。